令和８年度
全国学力・学習状況調査

報告書

児童生徒一人一人の学力・学習状況に
応じた学習指導の改善・充実に向けて

中学校 英語

授業アイディア例
掲載

令和８年８月
文部科学省　国立教育政策研究所

目　次

１．調査の概要 …… 1
（１）調査の目的 …… 2
（２）調査の対象とする児童生徒 …… 2
（３）調査事項及び手法 …… 2
（４）調査の方式 …… 2
（５）調査日時 …… 3
（６）集計児童生徒・学校数 …… 6
（７）調査結果の解釈等に関する留意事項 …… 8

２．教科に関する調査の結果（概要） …… 12
（１）調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント …… 13
（２）集計結果（正答等の状況） …… 15
（３）地域の規模等の状況 …… 18
（４）都道府県・指定都市、教育委員会、学校の状況 …… 18
（５）国・公・私立学校の状況 …… 20

３．教科に関する調査の各問題の分析結果と課題 …… 21
（１）「３．教科に関する調査の書く問題の分析結果と課題」の見方 …… 22
IRTバンド別類型割合グラフの見方について …… 24
（２）中学校　英語 …… 25
1 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して聞く …… 26
コラム①
【知識及び技能の指導】 …… 32
2 目的に応じて、必要な情報を聞き取る …… 34
3 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る …… 37
4 話を聞き、概要を捉える …… 41
授業アイディア例をお読みいただく際の留意点 …… 48
授業アイディア例１
「英語の音声を聞き、概要を捉える」 …… 50
5 話を聞き、要点を捉える …… 54
6 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して読む …… 57
7 目的に応じて、必要な情報を読み取る …… 60
8 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る …… 63

9 短い文章を読み、概要を捉える …… 67
授業アイディア例２
「短い文章を読み、概要を捉える」…… 70
コラム②
【物語を読んで概要を捉えるために】 …… 74
10 短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く …… 76
設問(1) …… 77
設問(2) …… 81
授業アイディア例３
「短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く」…… 86
11 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して書く …… 90
設問① …… 90
設問② …… 93
12 まとまりのある文章を書く …… 98
13 まとまりのある文章を書く …… 102
14 まとまりのある文章を書く …… 105
コラム③
【コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに重点を置いた
授業づくりと生徒の振り返り】 …… 110
15 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話す …… 111
設問(1) …… 112
設問(2)a …… 114
設問(2)b …… 118
授業アイディア例４
「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して即興で伝え合う」 … 122
コラム④
【話すことの評価について】 …… 126
16 まとまりのある内容を話す …… 127
17 まとまりのある内容を話す …… 131
18 まとまりのある内容を話す …… 134
19 話を聞いて、考えとその理由を話す …… 138

１．調 査 の 概 要

（１）調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（２）調査の対象とする児童生徒

【小学校調査】

小学校第６学年、義務教育学校前期課程第６学年、特別支援学校小学部第６学年

【中学校調査】

中学校第３学年、義務教育学校後期課程第３学年、
中等教育学校前期課程第３学年、特別支援学校中学部第３学年

（３）調査事項及び手法

①　児童生徒に対する調査

ア　教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語（中学校のみ）〕

出題内容はそれぞれ次の(ｱ)と(ｲ)を一体的に問うもの。

(ｱ) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(ｲ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※ 調査問題は学習指導要領（平成 29 年告示）に示された目標及び内容等に基づいて作成。

イ　質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を実施。

②　学校に対する質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査を実施。

※ 調査項目は毎年度文部科学省において決定。

（４）調査の方式

悉皆調査

（５）調査日時

○主な実施日

・教科に関する調査（中学校英語以外）
　令和８年４月 23 日（木）
・中学校英語
　「聞くこと」「読むこと」「書くこと」
　【当日実施期間】令和８年４月 20 日（月）～23 日（木）
　【予備日】　　令和８年４月 24 日（金）
　「話すこと」
　【当日実施期間】令和８年４月 24 日（金）、27 日（月）
　【期間内実施】　令和８年４月 28 日（火）～５月 29 日（金）
　　（学校外での実施も可能）
・児童質問調査
　【当日実施期間】令和８年４月 24 日（金）～５月８日（金）
・生徒質問調査
　【当日実施期間】令和８年４月 20 日（月）～23 日（木）
　【予備日】　　令和８年４月 24 日（金）

○後日実施期間

・教科に関する調査（中学校英語以外）
　令和８年４月 24 日（金）～30 日（木）
・中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」
　令和８年４月 27 日（月）～５月１日（金）（学校外での実施も可能）
・児童質問調査
　調査実施日翌日～令和８年５月８日（金）（学校外での実施も可能）
・生徒質問調査
　令和８年４月 27 日（月）～５月８日（金）（学校外での実施も可能）

【小学校調査】

Ａ．当日実施をする学校

○調査実施日（４月 23 日）

１時限目	２時限目
国語 （45 分）	算数 （45 分）

○児童質問調査の実施日（４月 24 日～５月８日のうち事前に学校ごとに調整された１日）

任意の１時限
児童質問調査 （20 分程度）

Ｂ．後日実施をする学校（注）

（注）調査の実施日に、調査を実施できないやむを得ない事情等がある学校や、実施時のトラブルや欠席等により調査を実施できなかった児童については、従来から教育委員会や学校等の判断により、後日実施期間に調査を実施することを可能としている。この場合の教科調査の結果は、全体の集計からは除外されるが、採点の上、教育委員会・学校に提供している。

Ａの当日実施の日程で一部又は全ての調査（国語、算数、児童質問調査）を実施できなかった学校・児童は、実施できなかった調査のうち、国語と算数を４月 24 日～４月 30 日に行うことができる。児童質問調査については、事前に学校ごとに調整された調査実施日の翌日から５月８日に行うことができ、自宅、病院、教育支援センター等の学校外での実施をより柔軟に取り扱うことが可能となる。

○国語、算数

日程	Ａ（４月 23 日）	Ｂ（４月 24 日～４月 30 日）
問題セット	紙冊子（１種類）	
実施場所	原則として学校で実施	

○児童質問調査

日程	Ａ（４月 24 日～５月８日）	Ｂ（調査実施日翌日～５月８日）
実施場所	原則として学校で実施	学校外（自宅等）での実施も可

【中学校調査（英語「話すこと」以外)】

Ａ．４月 20 日～22 日、24 日に英語、生徒質問調査を実施する学校

○英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」、生徒質問調査の実施日

（４月 20 日～22 日、24 日のうち事前に学校ごとに指定された１日の午前又は午後）

任意の２時限	
英語「読むこと」 「書くこと」 (50 分程度)	英語「聞くこと」 生徒質問調査 (50 分程度)

○調査実施日（４月 23 日）

１時限目	**２時限目**
国語 (50 分)	数学 (50 分)

Ｂ．４月 23 日（調査実施日）に全ての調査を実施する学校

○調査実施日（４月 23 日）

１時限目	**２時限目**	**３時限目**	**４時限目**
国語 (50 分)	数学 (50 分)	英語「読むこと」 「書くこと」 (50 分程度)	英語「聞くこと」 生徒質問調査 (50 分程度)

又は

１時限目	**２時限目**	**・・・**	**５時限目**	**６時限目**
国語 (50 分)	数学 (50 分)	・・・	英語「読むこと」 「書くこと」 (50 分程度)	英語「聞くこと」 生徒質問調査 (50 分程度)

C．４月 24 日以降に実施する学校・生徒（注）

（注）調査の実施日（予備日も含む）に、調査を実施できないやむを得ない事情等がある学校や、実施時のトラブルや欠席等により調査を実施できなかった生徒については、従来から教育委員会や学校等の判断により、後日調査期間に調査を実施することを可能としている。この場合の教科調査の結果は、全体の集計からは除外されるが、採点の上、教育委員会・学校に提供している。

Ａ又はＢの日程で一部又は全ての調査（国語、数学、英語、生徒質問調査）を実施できなかった学校・生徒は、実施できなかった調査のうち、国語と数学を４月 24 日以降に、CBT で行う英語と生徒質問調査を４月 27 日以降に行うことができる。このうち、英語と生徒質問調査については、自宅、病院、教育支援センター等の学校外での実施をより柔軟に取り扱うことを可能とする。

（国語、数学）

日程	Ａ・Ｂ（４月 23 日）	Ｃ（４月 24 日～４月 30 日）
問題セット	紙冊子（１種類）	
実施場所	原則として学校で実施	

（英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」、生徒質問調査）

日程	Ａ（４月 20 日～22 日、24 日） Ｂ（４月 23 日）	Ｃ ・英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」（４月 27 日～５月１日） ・生徒質問調査（４月 27 日～５月８日）
問題セット	公開問題、非公開問題で構成	公開問題のみで構成
実施場所	原則として学校で実施	学校外（自宅等）での実施も可

【中学校調査（英語「話すこと」）】

○当日実施校（４月 24 日、27 日）

指定日
英語「話すこと」 （20 分程度）

○期間内実施校（４月 28 日～５月 29 日）

指定日
英語「話すこと」 （20 分程度）

（６）集計児童生徒・学校数

①　集計基準

児童に対する調査については、令和８年４月 23 日（木）に実施した教科に関する調査及び令和８年４月 24 日（金）から５月８日（金）に実施した質問調査の結果を集計。

生徒に対する調査については、令和８年４月 23 日（木）に実施した国語・数学及び令和８年４月 20 日（月）から４月 24 日（金）に実施した英語（「話すこと」を除く。）・質問調査並びに令和８年４月 24 日（金）・27 日（月）に実施した英語（「話すこと」）に関する調査の当日実施校の結果を集計。

学校に対する質問調査については、在籍する児童生徒が調査を実施した学校の結果を集計。

②　集計児童生徒数

（小学校調査）

	調査対象児童数※1	４月23日に調査を実施した児童数※2	【参考】 ４月23日～４月30日に調査を実施した児童数
公立	990,870人	922,778人	942,551人
国立	6,264人	5,949人	6,110人
私立	13,580人	6,246人	6,443人
合計	1,010,714人	934,973人	955,104人

（中学校調査）

	調査対象生徒数※1	４月23日に国語・数学、４月20日～４月24日に英語（「話すこと」を除く。）をCBT方式で調査を実施した生徒数※2	【参考】 ４月20日～５月１日に調査を実施した生徒数（英語「話すこと」を除く。）
公立	953,990人	842,491人	856,534人
国立	9,826人	8,809人	9,350人
私立	84,223人	14,060人	14,934人
合計	1,048,039人	865,360人	880,818人

※１調査対象児童生徒数について、公立・国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、令和７年度学校基本調査による。調査当日までの転入出等により増減の可能性がある。

※２調査を実施した児童生徒数は、実施人数が最も多かった教科（小学校：算数、中学校：数学）の人数を記載。

③　集計学校数

（小学校調査）

	調査対象者の在籍する学校数	４月23日に調査を実施した学校数（実施率%）	【参考】 ４月23日～４月30日に調査を実施した学校数（実施率%）
公立	18,126校	18,077校 (99.7%)	18,097校 (99.8%)
国立	75校	74校 (98.7%)	75校 (100.0%)
私立	252校	120校 (47.6%)	124校 (49.2%)
合計	18,453校	18,271校 (99.0%)	18,296校 (99.1%)

（中学校調査）

	調査対象者の在籍する学校数	４月23日に国語・数学、４月20日～４月24日に英語（「話すこと」を除く。）をCBT方式で調査を実施した学校数（実施率%）	【参考】 ４月20日～５月１日に調査を実施した学校数（英語「話すこと」を除く。）（実施率%）
公立	9,249校	9,146校 (98.9%)	9,228校 (99.8%)
国立	80校	77校 (96.3%)	80校 (100.0%)
私立	799校	207校 (25.9%)	213校 (26.7%)
合計	10,128校	9,430校 (93.1%)	9,521校 (94.0%)

※調査の実施日に、調査を実施できないやむを得ない事情がある場合は、教育委員会及び学校等の判断により、後日実施期間に調査を実施することを可能としている。この場合の教科調査の結果は、全体の集計からは除外されるが、採点の上、教育委員会・学校に提供している。

（７）調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が特定の教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意が必要である。

各教育委員会、学校等においては、調査結果を十分活用して、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における学習指導の充実や学習状況の改善に役立てることが重要である。

調査結果の分析にあたっては、教科調査の平均正答数、平均正答率のみならず、個々の問題や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析したり、学習指導要領の趣旨を踏まえた取組、ICT 機器の活用、挑戦心・自己有用感・幸福感等に係る質問調査の結果と合わせて総合的に分析、評価したりすることを通じて、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。

＜用語説明＞

語　句	説　　明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均。
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語、算数・数学、英語ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率（概数）。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、問題ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
中央値	集団のデータを大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。 平均値とともに集団における代表値として捉えられる。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合（散らばりの度合い）を表す数値。標準偏差が０とは、ばらつきがない（データの値が全て同じ）ことを意味する。
最頻値	集団のデータにおいて、最も多く現れる値。
解答類型	各問題についての正答、予想される解答などの解答状況を分類し整理したもの。
パーセンタイル	データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値。小さい値から数えて、総数の1/4番目に当たる値が第一四分位（25 パーセンタイル）、真ん中に当たる値が第二四分位（中央値、50 パーセンタイル）、3/4 番目に当たる値が第三四分位（75 パーセンタイル）となる。

箱ひげ図	データを小さい順に並べて４等分した四分位数を用いて、データの散らばりを表すもの。箱ひげ図の中央の線は中央値になる。
IRT	項目反応理論。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさし（尺度）で比較できる。
IRT スコア	IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。各教科に CBT・IRT を導入する年の全国平均500を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。 基準値の全国平均は、算出された各生徒のスコアを足し合わせて平均をとっているため、500 に一致するとは限らない。 理想的な正規分布(データが平均の付近に集積するような分布)となった場合、標準偏差は100となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。
IRT バンド	IRT スコアを１～５の５段階に区切ったもので、平均バンドは３、最も高いバンドが５となる。各教科に CBT・IRT を導入する年の全国平均３を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。 IRT バンドは、生徒ごとに算出した IRT スコアを決められた幅に区切って設定。IRT バンドが理想的な正規分布となった場合、３が約40%、２・４が約23%、１・５が約７%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。
問題の難易度	５段階で表示し、非公開問題も含めた正誤状況に基づいて分析し、事後的に付与したもの。 例えば難易度３の問題は IRT バンド３の生徒がおおよそ（約８割の確率で）正答できると推定される。

「中学校英語」IRT を用いた結果返却について

IRT（Item Response Theory，項目反応理論）とは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論である。国際的な学力調査(PISA、TIMSS など)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFL など）で採用されているテスト理論であり、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できる。

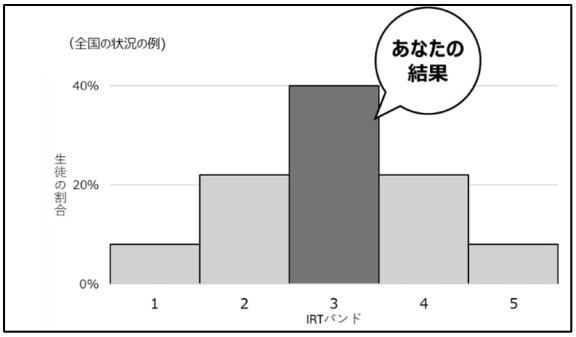
全国学力・学習状況調査に IRT を導入することにより、以下のようなことが実現できる。
・調査日の複数設定が可能になり、各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
・今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
・学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

CBT や IRT の導入を契機として、児童生徒一人一人の学力・学習状況が細やかに分かる示し方へと改善を進めていくため、令和８年度中学校英語では、令和７年度中学校理科と同様、IRT を用いた結果返却を以下の通り行う。

①学校(自治体)ごとの結果は 500 を基準とする IRT スコアで表示
「中学校英語」の結果を、各学校、教育委員会、都道府県ごとに IRT に基づいて算出し、500 を基準とした IRT スコアで表示する。次回以降も、令和８年度調査「中学校英語」の結果を基準とした IRT スコアで算出し、経年比較を可能とする。
（例）

	生徒数	IRTスコア
貴校	＊人	505
●●教育委員会	＊人	503
全国	●●●人	500

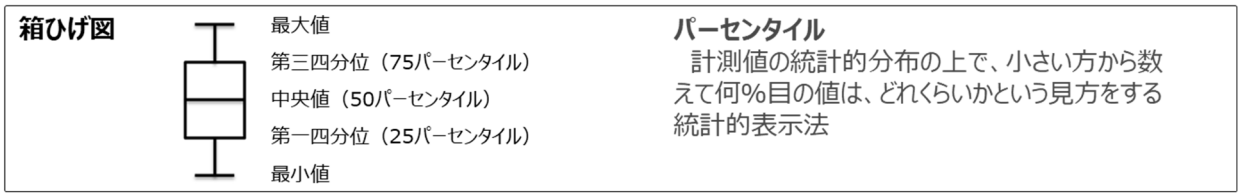
②個人の結果は５段階の IRT バンドで表示・返却
「中学校英語」の個人の結果は４技能（聞く・読む・書く・話す）での５段階の IRT バンドで表示・返却し、全国平均が３で、最も高いバンドが５となる。各生徒に対して出題された問題の正誤状況に基づき総合的に推定されるもので、学習評価で用いる評定とは異なる。また、IRT バンドは教科全体についてのみ示され、問題の分類（学習指導要領の領域、評価の観点等）別には示されない。



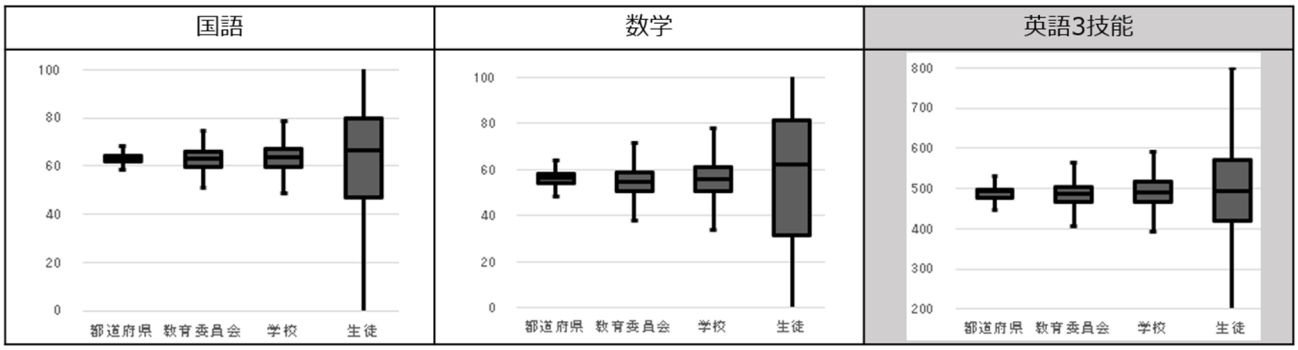
令和７年度「中学校理科」、令和８年度「中学校英語」の IRT 分析には、EasyEstimation 2.1.9 *を使用。データの加工・整形には R 及び Excel を用いた。
* 熊谷龍一 2009 初学者向けの項目反応理論分析プログラム EasyEstimation シリーズの開発 日本テスト学会誌，5，107-118

箱ひげ図やパーセンタイルを活用した結果提供について

箱ひげ図とは、データを小さい順に並べて４等分した四分位数を用いて、データの散らばりを表すものである。長方形の「箱」と「ひげ」と呼ばれる直線で構成されており、ひげの下側の末端が最小値、上側の末端が最大値を示す。また箱ひげ図を示す際には、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表すパーセンタイルの値を使用し、小さい値から数えて、箱の下底が第一四分位（25 パーセンタイル）、箱の中の横線が中央値（50 パーセンタイル）、箱の上底が第三四分位（75 パーセンタイル）となる。



分布や習熟度に目配りした統計表やグラフとして、箱ひげ図やパーセンタイルを活用することで、都道府県等の自治体、地域規模、学校等の様々な集計単位によって、学力がどのように分布しているかを示す。各教科に係る問題全体の平均正答率・スコアの散らばりに関する解釈を含め、調査結果を多面的に解釈することができるように結果提供を行う。



（８）関連資料ホームページ掲載リンク

①令和８年度　全国学力・学習状況調査　報告書・調査結果資料
https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/index.html

②IRT分析等にかかる研修動画
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/kensyushiryoudouga/26bunseki.html

③IRTを用いた結果返却に関する動画・リーフレット
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/zenkoku/mext_03311.html

２．教科に関する調査の結果（概要）

（１）調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている５つの領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」）別の目標及び内容に基づき、全ての領域から出題している。なお、中学校第２学年までの内容となるようにしている。

（例）■ 話を聞き、概要を捉える（「聞くこと」の領域）
■ 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る（「読むこと」の領域）
■ 短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く（「読むこと」、「書くこと」の領域）
■ 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話す（「話すこと[やり取り]」の領域）
■ 話を聞いて、考えとその理由を話す（「話すこと[発表]」の領域）

○課題等

聞くこと

◇ 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して聞くことはできている。〔1〕
◇ 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることはできている。〔2〕
◇ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることはできている。〔3〕
◆ 日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることに課題がある。〔4〕
◆ 社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることに課題がある。〔5〕

読むこと

◇ 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して読むことはできている。〔6〕
◇ 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることはできている。〔7〕
◇ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることはできている。〔8〕
◆ 日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることに課題がある。〔9〕
◆ 社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることに課題がある。〔10（１）〕

書くこと

◆ 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。〔10（２）〕
◆ 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して書くことに課題がある。〔11①、②〕
◆ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。〔12、13、14〕

話すこと［やり取り］

◆ 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題がある。〔15〕

話すこと［発表］

◆ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに課題がある。〔16、17、18〕
◆ 社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題がある。〔19〕

◇…比較的できている点　◆…課題のある点　〔 〕内は、問題番号

○指導改善のポイント

聞くこと

○　話を聞いて、概要を捉える指導の充実

話題を把握した上で、特定の部分にのみとらわれることなく、全体としてどのような話のあらましになっているのかを捉えることが重要である。指導に当たっては、話の最初から最後まで通して聞き、聞き取った情報や、情報と情報との関係、展開を表す表現などから場面の移り変わりを整理させることが大切である。その後、話を聞き、どのように場面の移り変わりを整理したのかをペアやグループで伝え合ったり、学級全体で確認したりすることが考えられる。

読むこと

○　文章を読んで、要点を捉える指導の充実

文章全体を通して読み、文章から取り出した複数の情報を比較することで、どの情報が最も重要であるかを判断することが重要である。指導に当たっては、文と文との関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落の関係などの文章全体の構成を理解することが大切である。また、文章を読んだ後で、書き手が最も伝えたいことは何か、なぜそう考えたのかを話し合う活動なども考えられる。

書くこと

○　社会的な話題に関して読んだことについて、考えと理由を書く指導の充実

文章を読み、書き手が最も伝えたいことを捉え、それについて感じたことや考えたことを、理由とともに書くことが重要である。指導に当たっては、文章を読んで要点を捉え、自分の考えとその理由をキーワードとしてメモなどに整理させた後、自分の考えとその理由を書くことが考えられる。書いた文章に対して生徒同士でコメントさせたり、教師がフィードバックを与えて表現を考えさせたりすることで文章を推敲することも大切である。

話すこと［やり取り］

○　事実や自分の考えなどを即興で伝え合う指導の充実

「即興で伝え合う」とは、話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく、不適切な間を置かずに相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合うことである。指導に当たっては、ペアでやり取りを行った後、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じてやり取りをするための視点や必要な表現を共有し、相手を変えて再度やり取りを行うなど、やり取りを繰り返し行うことが大切である。

話すこと［発表］

○　事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある内容を話す指導の充実

聞き手に伝わるように、１つのテーマに沿った発表をしたり、内容に一貫性があるスピーチをしたりするなどまとまりのある内容を話すことが重要である。指導に当たっては、「話すこと［やり取り］」の活動を充実させ、まとまりのある内容を話すことにつなげることが大切である。また、簡単な「話すこと［発表］」の活動を繰り返し行い、徐々に発話する量を増やしていくことが大切である。４文、５文と話す内容が増えてくると、話す内容や構成を整理する必要が出てくるため、その段階でキーワードなどをメモに書かせることが考えられる。

知識及び技能

○　音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して、聞く、読む、話す、書く技能を身に付ける指導の充実

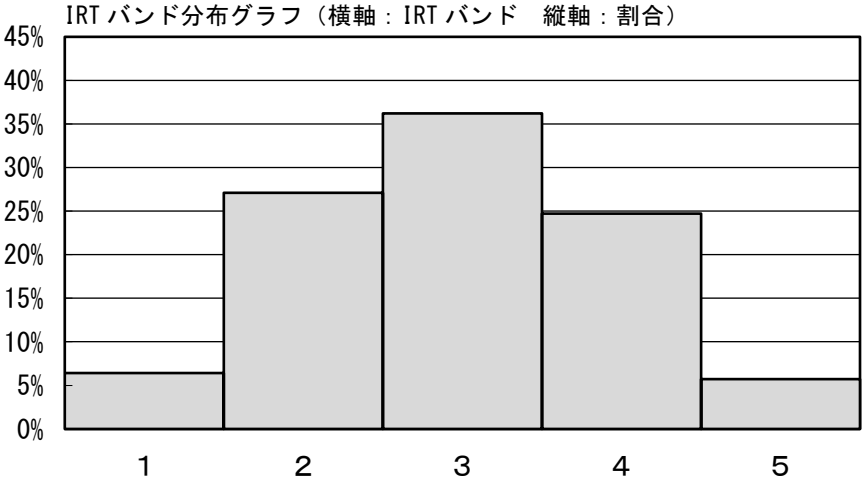
音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するだけではなく、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにすることが重要である。指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識し、実際に英語を用いた言語活動を行い、必要に応じて言語材料について理解したり練習したりするための指導を行うことが大切である。また、既習事項を繰り返し活用したり、既習事項と新出事項を比較して関連する文法事項を整理したりすることも大切である。

（２）集計結果（正答等の状況）
【英語（４技能)】

○IRT スコア・IRT バンドは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の英語４技能を統合したもので、「話すこと」の当日実施校（46,645 人分）のデータに基づいて全国値を算出している。

平均 IRT スコア	標準偏差	パーセンタイル値		
		25%	50%	75%
499	108.1	422	498	575

IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド　縦軸：割合）



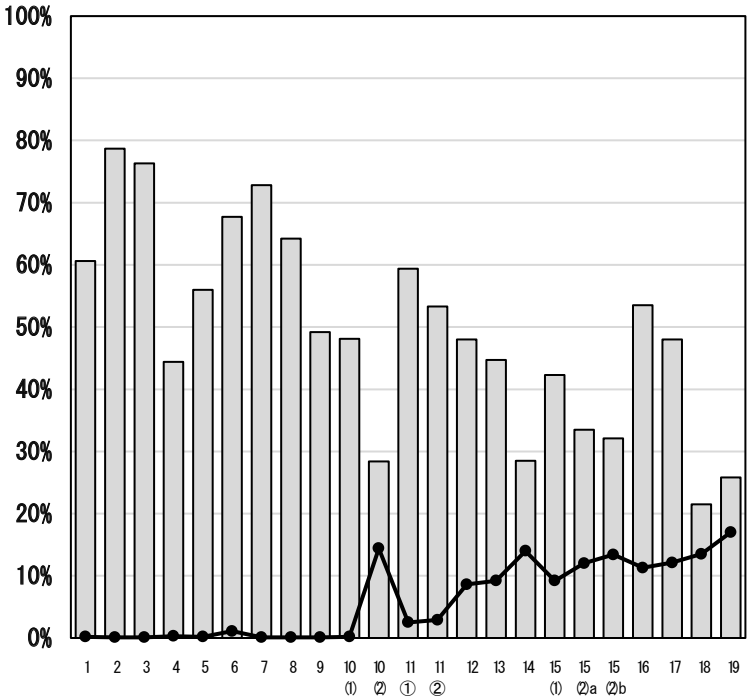
IRT バンド集計値

IRT バンド	全国（国公私立）	
	生徒数	割合(%)
5	2,674	5.7
4	11,518	24.7
3	16,869	36.2
2	12,620	27.1
1	2,964	6.4

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数（問）
学習指導要領の領域	聞くこと	5
	読むこと	5
	話すこと［やり取り］	3
	話すこと［発表］	4
	書くこと	6
評価の観点	知識・技能	7
	思考・判断・表現	16
	主体的に学習に取り組む態度	0
問題形式	選択式	10
	短答式／口述式	5
	記述式／口述式	8

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」
（横軸：問題番号、縦軸：生徒の割合）



※公開問題には、調査対象の生徒全員が取り組む問題と一部の生徒が取り組む問題があるため、各設問の調査実施生徒数が異なる。

問題別集計結果

○英語「聞くこと・読むこと・書くこと」の３技能については４月 20 日（月）～４月 24 日（金）、英語「話すこと」については４月 24 日（金）～４月 27 日（月）に調査を受けた全国の生徒の正答率を示している。

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率（％）	無解答率（％）	問題の難易度	全国（国公私立）対象生徒数
			聞くこと	読むこと	話すこと［やり取り］	話すこと［発表］	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式／口述式	記述式／口述式				
１	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	○※					○			○			60.6	0.2	4	861,464
２	ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			78.7	0.1	3	295,144
３	学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア						○		○			76.3	0.1	3	283,126
４	職場体験についての発表を聞き、その後に示される3枚の絵を体験した順になるように選択する	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる	イ						○		○			44.4	0.3	4	283,194
５	住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ						○		○			56.0	0.2	4	861,464
６	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる		○※				○			○			67.7	1.1	3	861,464
７	誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する	日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる		ア					○		○			72.8	0.1	3	295,754
８	友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる		ア					○		○			64.2	0.1	3	282,886
９	物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する	日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる		イ					○		○			49.2	0.1	5	282,824
１０（１）	インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる		ウ					○		○			48.1	0.2	4	861,464
１０（２）	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く						ウ		○				○	28.4	14.4	5	861,464

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率（％）	無解答率（％）	問題の難易度	全国（国公私立）対象生徒数
			聞くこと	読むこと	話すこと［やり取り］	話すこと［発表］	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式／口述式	記述式／口述式				
１１①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる					ア	○				○		59.4	2.5	3	861,464
１１②							ア	○				○		53.3	2.9	3	861,464
１２	中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○				○	48.0	8.6	4	295,673
１３	留学生との交流会で一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○				○	44.7	9.2	4	282,886
１４	学校で普段行うことを1つ取り上げ、それについての説明を書く	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる					イ		○				○	28.5	14.0	4	282,905
１５（１）	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる			○※			○				○		42.3	9.2	5	46,096
１５（２）ａ	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える				○※			○				○		33.5	12.0	4	25,779
１５（２）ｂ	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼する				○※			○				○		32.1	13.4	4	20,317
１６	留学生と一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる				イ			○				○	53.5	11.3	4	15,252
１７	自分の好きな人物を1人取り上げ、好きな理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる				イ			○				○	48.0	12.1	4	15,577
１８	自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を１つ取り上げ、その理由を話す	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる				イ			○				○	21.5	13.5	5	15,267
１９	学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す	社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる				ウ			○				○	25.8	17.0	5	46,096

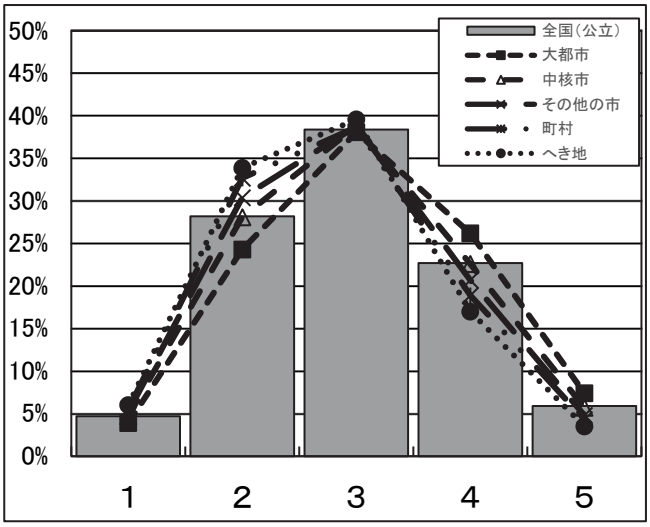
※「学習指導要領の領域」における「○」は、五つの領域別の目標に分類されない「知識及び技能」を示している。

（３）地域の規模等の状況

○　平均 IRT スコア、中央値、標準偏差を見ると、地域の規模等（公立：大都市、中核市、その他の市、町村、へき地）による大きな差は見られないが、大都市とへき地の間には平均 IRT スコアや分布に若干の差が見られる。

［英語３技能］

IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド、縦軸：生徒の割合）



	生徒数	平均IRTスコア	中央値	標準偏差
全国(公立)	839,203　人	499	494	113.7
大都市	213,572　人	514	511	115.5
中核市	195,637　人	499	494	112.8
その他の市	347,325　人	490	485	110.8
町村	72,679　人	484	476	108.8
へき地	12,313　人	477	470	106.1

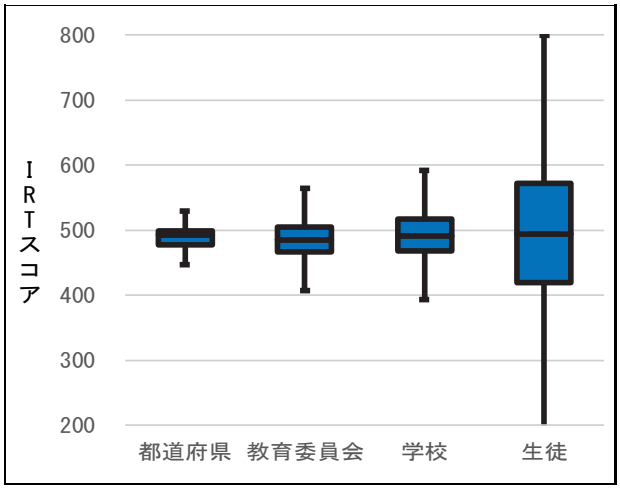
※大都市（政令指定都市及び東京 23 区）、中核市、その他の市、町村の値は、当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する生徒の調査結果（IRT スコア）を集計したものである（都道府県立学校は含まない）。
※へき地の値は、へき地教育振興法及び各都道府県の条例（規則）によって指定された学校に在籍する生徒の調査結果を集計したものである。大都市、中核市、その他の市、町村の値に重複する。

（４）都道府県・指定都市、教育委員会、学校の状況

○　都道府県・指定都市別の平均 IRT スコアについては、ばらつきの状況は極めて狭い範囲内に収まっている。各教育委員会、各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均 IRT スコアの標準偏差を見ると、前回調査と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

［英語３技能］

箱ひげ図

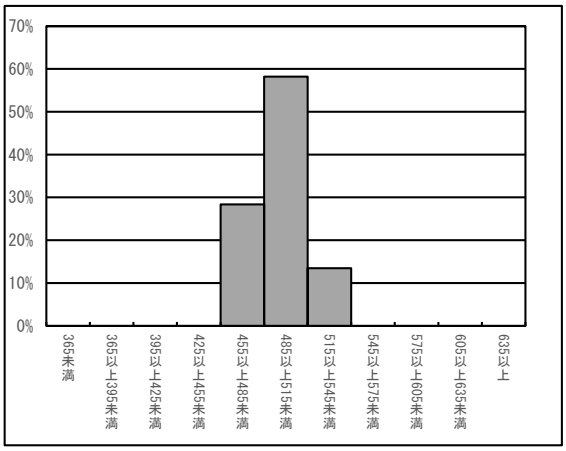


	都道府県	教育委員会	学校	生徒
IRTスコア	491.0	488.6	494.4	499.4
第３四分位	498.5	505.5	517.7	571.4
第２四分位	493.1	485.8	491.4	494.1
第１四分位	478.1	466.0	467.9	419.4
標準偏差	15.1	39.2	43.7	113.7

※都道府県は指定都市を含む。

①都道府県・指定都市の状況［英語３技能］

IRT スコア分布グラフ（横軸：IRT スコア分布、縦軸：都道府県市の割合）



全国（公立）の平均IRTスコア	全都道府県市（公立）中、最高平均IRTスコア【全国との差】	全都道府県市（公立）中、最低平均IRTスコア【全国との差】
495	533【+38】	464【-31】

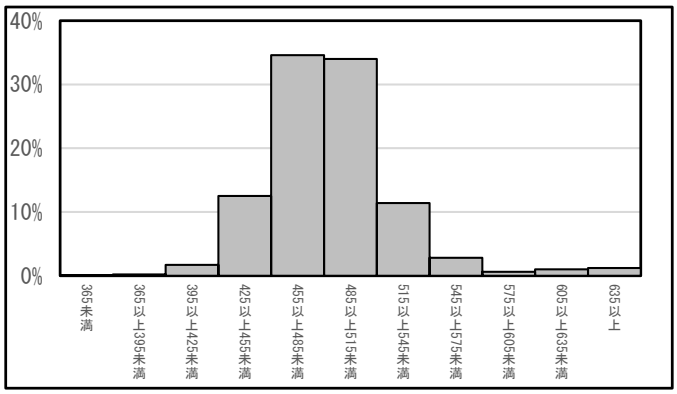
全国都道府県市数	全国都道府県市(公立中)の平均IRTスコア	全国都道府県市(公立中)の中央値	全国都道府県市(公立中)の標準偏差
67	495	495	17.2

※都道府県は指定都市を除く。全国（公立）の平均 IRT スコアは整数値で表示している。

②教育委員会の状況［英語３技能］

教育委員会数	教育委員会の平均IRTスコア	教育委員会の中央値	教育委員会の標準偏差
1,778	489	486	39.2

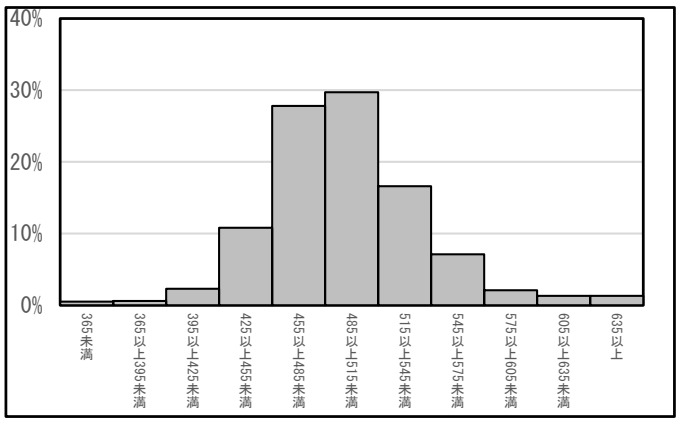
IRT スコア分布グラフ（横軸：IRT スコア分布　縦軸：教育委員会の割合）



③学校の状況［英語３技能］

学校数	学校の平均IRTスコア	学校の中央値	学校の標準偏差
9,303校	497	492	46.2

IRT スコア分布グラフ（横軸：IRT スコア分布　縦軸：学校の割合）

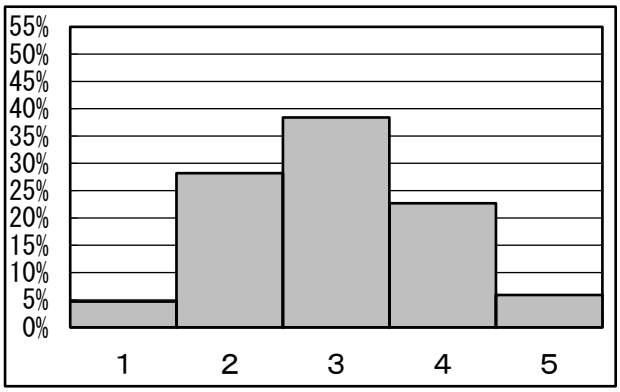


（５）国・公・私立学校の状況

○　国立・私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均 IRT スコアについて見ると、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

［英語３技能］

＜公立＞　IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド　縦軸：生徒の割合）

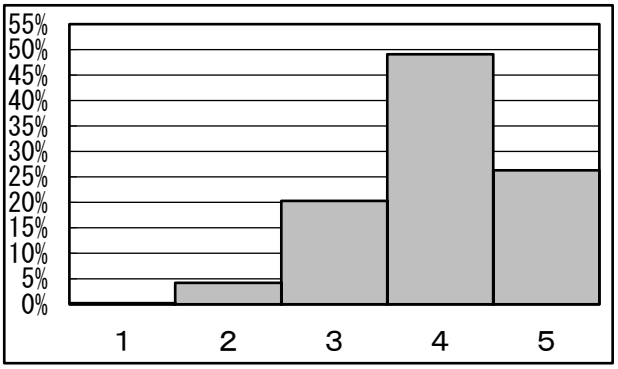


生徒数	平均IRT	中央値	標準偏差
839,203人	499	494	113.7

IRT バンドと IRT スコアの対応

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア	～329	330～443	444～558	559～673	674～

＜国立＞　IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド　縦軸：生徒の割合）

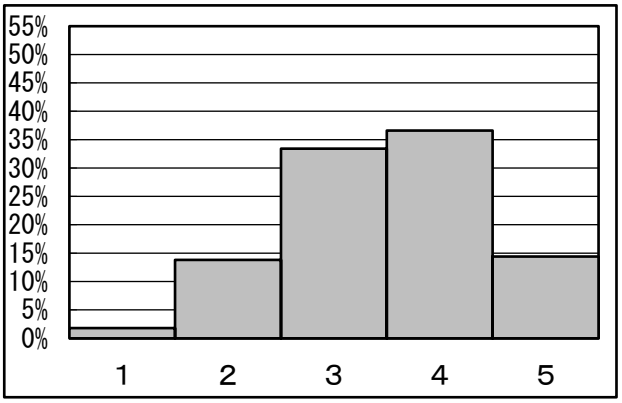


生徒数	平均IRT	中央値	標準偏差
8,945人	624	620	107.3

IRT バンドと IRT スコアの対応

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア	～329	330～443	444～558	559～673	674～

＜私立＞　IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド　縦軸：生徒の割合）



生徒数	平均IRT	中央値	標準偏差
13,316人	562	562	118.5

IRT バンドと IRT スコアの対応

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア	～329	330～443	444～558	559～673	674～

３．教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

（１）「３．教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方

調査問題について、出題の趣旨、学習指導要領における目標、領域・内容、評価の観点、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導に当たってなどを記述しています。

問題画像

調査問題を縮小して掲載しています。

出題の趣旨

問題ごとに出題の意図、把握しようとする力、場面設定などを記述しています。

趣旨

設問ごとの出題の意図、把握しようとする力などを記述しています。

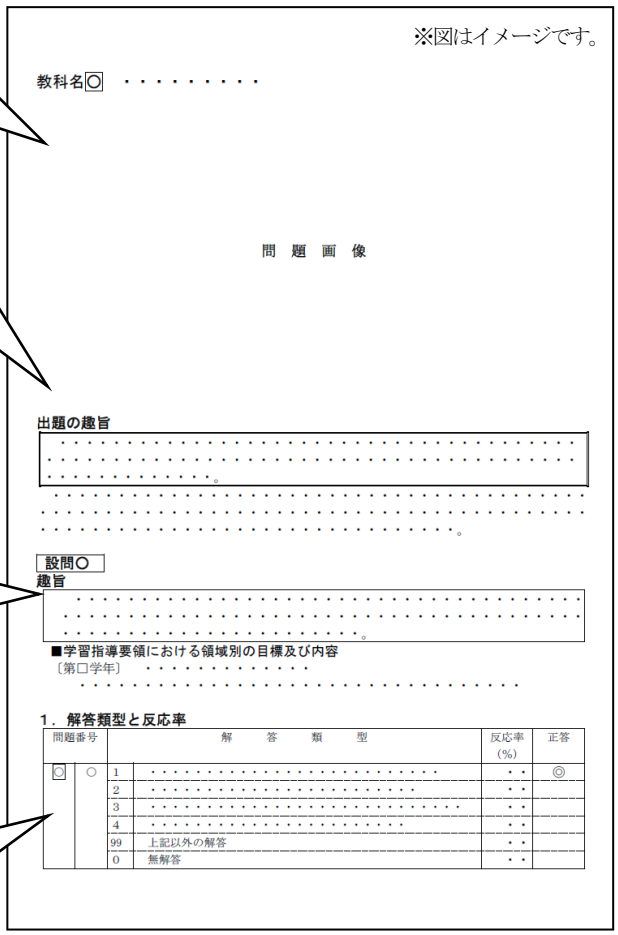
■学習指導要領における目標、領域・内容

調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際に参考となるように、関係する学習指導要領における領域別の目標及び内容を示しています。

■評価の観点

１．解答類型と反応率

解答類型ごとの反応率、正答の条件を示しています。（詳細は下欄参照）



解答類型と反応率

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。正誤だけではなく、児童生徒一人一人の解答の状況（どこでつまずいているのか）等に着目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

＜正答＞

「◎」… 解答として求める条件を全て満たしている正答

「○」… 問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

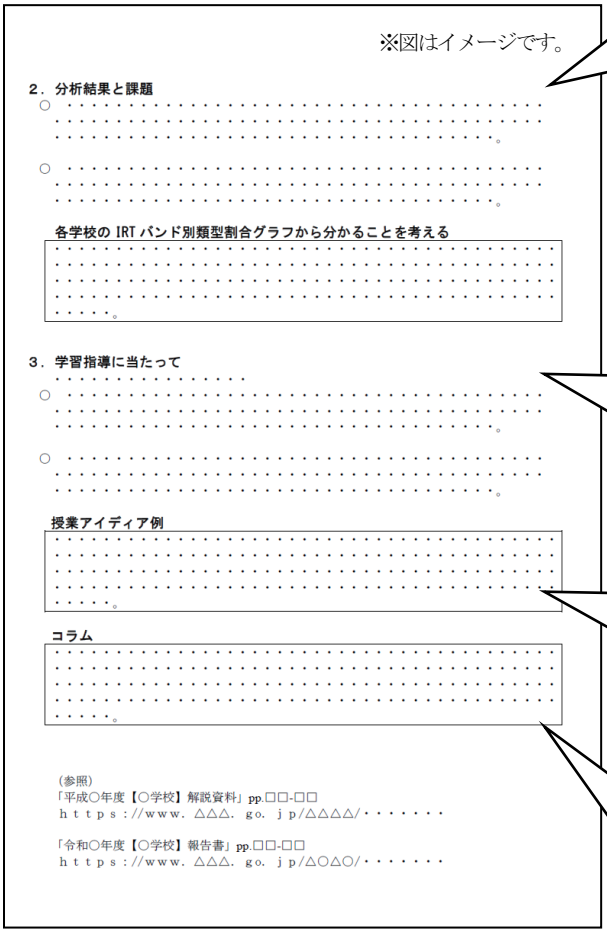
※反応率は小数第二位を四捨五入したものであるため、「◎」と「○」の反応率の合計と正答率が一致しない場合や合計が 100%にならない場合があります。クロス集計についても同様です。

※英語「聞くこと・読むこと・書くこと」の３技能については、４月 20 日（月）～４月 24 日（金）、英語「話すこと」については、４月 24 日（金）～４月 27 日（月）に調査を受けた全国の生徒の反応率を示しています。

分析結果と課題

問題ごとに、以下の内容について記述しています。

- 正答率、課題の有無
- 特徴的な解答について、反応率、解答例、課題の詳細
- これまでの調査で見られた課題との関連　　など



２．分析結果と課題

正答率、課題の有無、特徴的な解答の分析、これまでの調査で見られた課題との関連などを記述しています。
（詳細は前ページの下欄参照）

・分析方法①（思考発話調査）

一部の児童生徒に考えを発話しながら問題を解いてもらい、解答に至るまでの思考過程を分析しています。

・分析方法②（IRT バンド別類型割合グラフから分かることを考える）

自校の IRT バンドの分布や全国的な傾向との比較を通して、授業改善を考える際に参考となる情報を示しています。

３．学習指導に当たって

調査結果を受け、学習指導の改善・充実を図る際のポイントを問題ごとに記述しています。（詳細は下欄参照）

授業アイディア例

授業の改善・充実を図る際の参考となるよう、授業アイディアの一例を示しています。

コラム

調査問題に関連する内容について、学習内容の系統性や既習事項との関連などを解説し、学習指導の改善・充実を図る際に参考となる内容を記載しています。

学習指導に当たって（授業アイディア例含む）

調査問題に関係する領域別の目標及び内容について、各学年での日々の学習指導の改善・充実を図る際に「解説資料」（本年４月公表）と併せて御活用ください。

また、令和４年度から、授業の改善・充実により資するよう、これまで別途作成していた「授業アイディア例」を報告書に掲載し、調査結果の課題分析と課題の解決を図る事例を一体的に示すこととしました。

なお、関連する過去の調査の報告書や授業アイディア例など、これまで作成した資料の該当ページを記載していますので、これらの資料も併せて御活用ください。

本書では、以下の資料については略称を用いています。

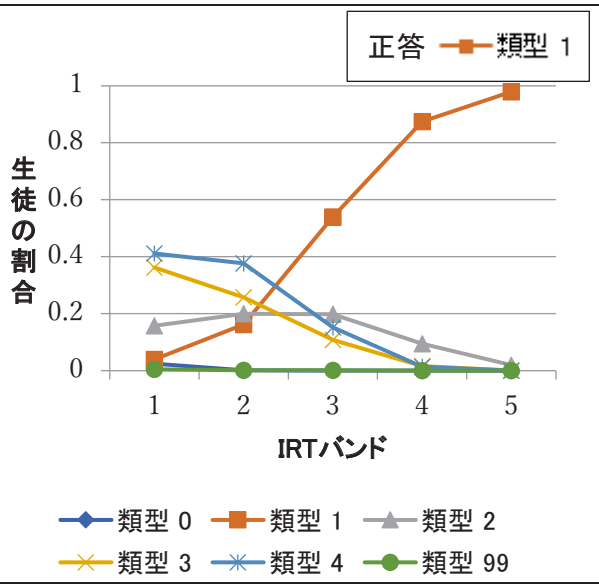
資　　料	略　　称
「平成○年度　全国学力・学習状況調査　解説資料　○学校　○○」	「平成○年度【○学校】解説資料」
「平成○年度　全国学力・学習状況調査　報告書　○学校　○○」	「平成○年度【○学校】報告書」
「平成○年度　全国学力・学習状況調査【○学校】の結果を踏まえた授業アイディア例」	「平成○年度【○学校】授業アイディア例」
「平成○年度　全国学力・学習状況調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に関する指導事例集」	「平成○年度【中学校英語】指導事例集（映像資料）」 「平成○年度【中学校英語】指導事例集（指導資料）」

IRT バンド別類型割合グラフ(IRT バンドに基づいた G-P 分析図)の見方について

令和８年度中学校英語では、IRT バンドごとに解答状況や傾向に特徴が見られた設問において、IRT バンドごとの解答類型別生徒割合を、IRT バンド別類型割合グラフ(IRT バンドに基づいた G-P 分析図※)で示します。なお、本報告書の IRT バンドは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の英語４技能を統合した IRT スコアに基づくもので、「話すこと」の当日実施校（46,645 人分）のデータより全国値を算出しています。

（※）G-P 分析図（Good-Poor Analysis）とは、調査実施生徒の学力レベルを分類して、段階ごとに解答パターンがどれくらいの比率でいるかを示したものです。本報告書では、横軸は受検者の学力レベル（5 段階の IRT バンド）を表し、縦軸は IRT バンドごとの各解答類型に属する生徒の割合を表しています。

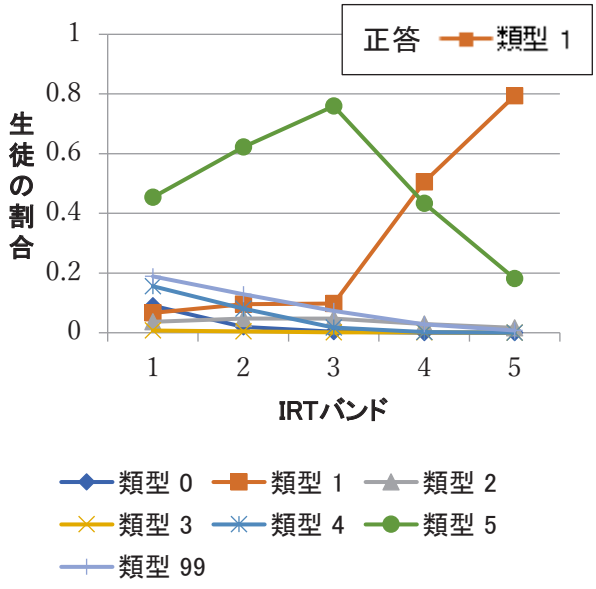
例①



正答となる類型１の折れ線グラフをみると、IRT バンド４に属する生徒の約８割が正答していることが分かります。一方で IRT バンド１、２に属する生徒は正答率が２割に届かず、一定の割合で類型３または４と解答し、誤答になっていることが分かります。

→本問題においては、誤答となる類型３、４の内容を分析することで、IRT バンド１、２に属する生徒の課題を把握し、当該バンドの生徒に対して指導すべき事柄を理解することができます。

例②



正答となる類型１の折れ線グラフをみると、IRT バンド１～３に属する生徒は正答率が２割未満にとどまっており、正答以外の解答をした生徒にとって、課題のある状況が推測されます。また、IRT バンド１～３に属する生徒において類型５の誤答の割合が４割以上であることがわかります。

→本問題においては、誤答となる類型５の内容を分析することで、IRT バンド１～３に属する生徒の課題を把握し、当該バンドの生徒に対して指導すべき事柄を理解することができます。

３．教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

（２）中学校　英語

●聞くこと
英語1　音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して聞く

<問題文>
レストランでの店員と客の会話を聞いて、客が注文したものを、<解答欄>の１から４までの中から１つ選びなさい。

▶ ← 再生ボタンを押してください

【レストランでの店員と客の会話】



<解答欄>



英語の音声スクリプト

店員	: Would you like some cake? We have cheesecake and chocolate cake today.
客	: Well, I love cheesecake, but I cannot eat any more food. Can I have a cup of coffee?
店員	: Of course. Any sugar and milk?
客	: Yes, please.

出題の趣旨

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

「聞くこと」の目標である、必要な情報を聞き取ったり、概要や要点を捉えたりするためには、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。そのためには、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことにおける実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図るとともに、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うことが求められる。

英語1では、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために、注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する問題とした。

■学習指導要領における領域・内容

聞くこと

内容（1）英語の特徴やきまりに関する事項

ア　音声

ウ　語、連語及び慣用表現

エ　文、文構造及び文法事項

■評価の観点

知識・技能

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
1		1	1 と解答しているもの	37.7	
		2	2 と解答しているもの	1.2	
		3	3 と解答しているもの	60.6	◎
		4	4 と解答しているもの	0.3	
		0	無解答	0.2	

（N= 861,464 人）

２．分析結果と課題

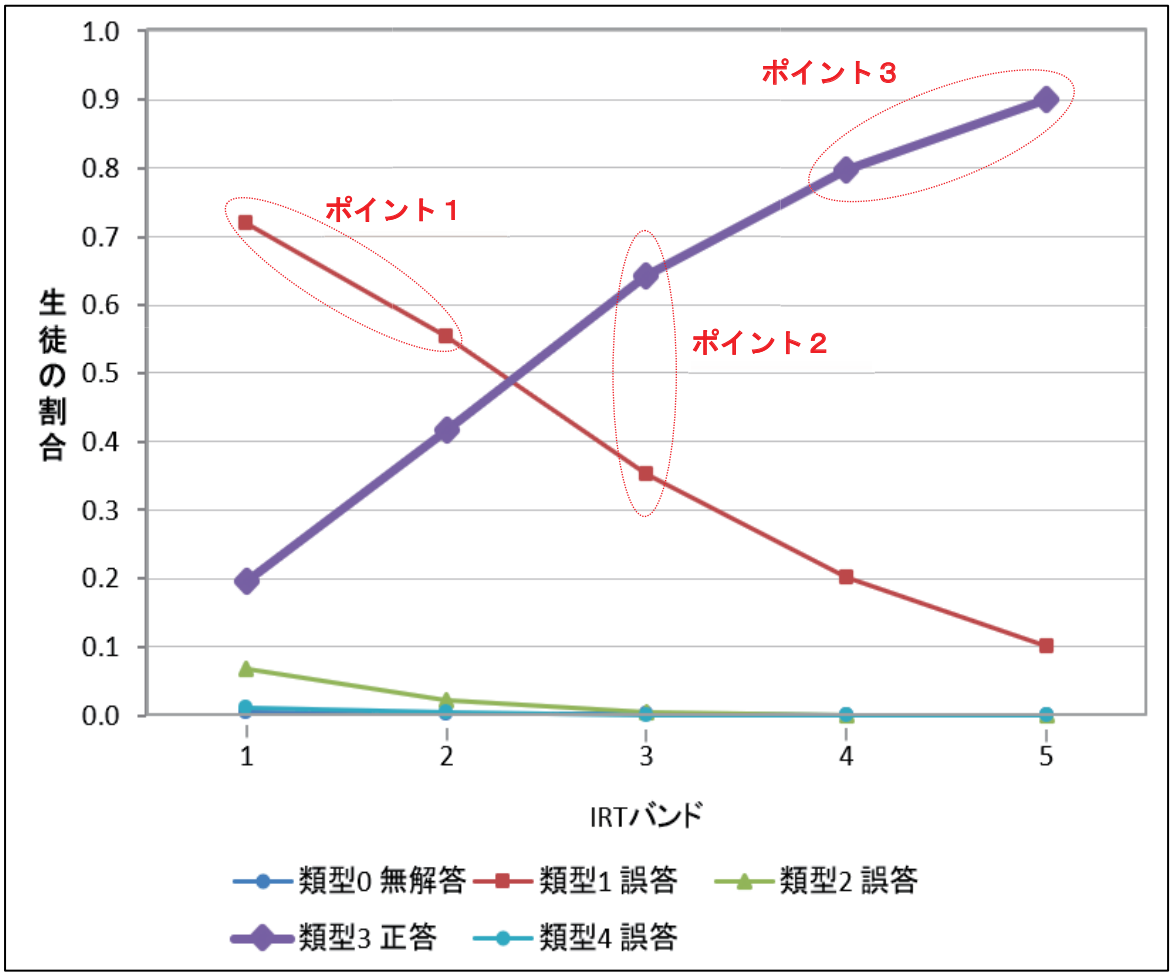
○　正答率は 60.6%である。注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する本問では、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して聞くことはおおむねできている。解答類型２の反応率 1.2%、解答類型４の反応率 0.3%と比較すると、誤答の中では解答類型１の反応率が 37.7%と高い。

○　解答類型１に該当する生徒は、“I love cheesecake, but I cannot eat any more food.”と「チーズケーキは好きだけれど、もう食べられない」という情報を聞き、チーズケーキは注文しないということを理解することができていないと考えられる。“I love cheesecake.” を聞いて、ケーキを注文すると誤って捉えたり、“I cannot eat any more food.” を理解することができていなかったりすると考えられる。“Any sugar and milk?” “Yes, please.”というやり取りから砂糖とミルクを注文するという情報を聞き取ることはできている。

※　思考発話調査では、“I love cheesecake.” を聞いて、ケーキを注文すると誤って捉えている生徒の様子が観察できた。また、正答である解答類型３を選択している生徒の中にも、音声をすべて理解して判断しているわけではなく、“I love cheesecake.” の後の “but” のみを聞き、チーズケーキを注文しないという判断をしている生徒の様子も観察できた。

思考発話調査については、pp. 22-23 を参照

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１に属する生徒の７割以上、および IRT バンド２に属する生徒の５割以上が誤答である解答類型１を選択しており、聞き取ることができた語句や表現のみから判断している可能性が考えられる。指導に当たっては、聞くことの活動を意識的に行い、音声スクリプトを確認させたり、学習者用デジタル教科書を活用して速度を落として聞かせたりすることが考えられる。 【p.31「学習指導に当たって」（１）～（３）】

・ポイント２について

IRT バンド３に属する生徒の６割以上が正答である解答類型３を選択することができている。一方、３割以上が誤答である解答類型１を選択しており、特定の情報のみを聞いて解答を判断している可能性が考えられる。指導に当たっては、前後の情報も合わせて判断する必要がある英語の音声を聞かせ、キーワードとなる箇所を丁寧に指導することなどが考えられる。 【p.31「学習指導に当たって」（４）】

・ポイント３について

IRT バンド４に属する生徒の約８割、IRT バンド５に属する生徒の約９割が、正答である解答類型３を選択しており、相当数の生徒が、注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを聞き取ることができていると考えられる。

IRT バンド別類型割合グラフから分かることを考える　その１

１．自校の IRT バンドの分布を確認する　※教師Ａ～Ｄは同じ中学校の同僚を想定している



教師 A

本校の IRT バンドの分布は図１のようになっています。

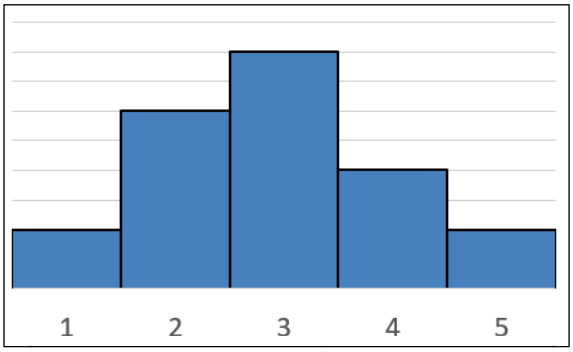


図１　Y 中学校の IRT バンドの分布



教師 B

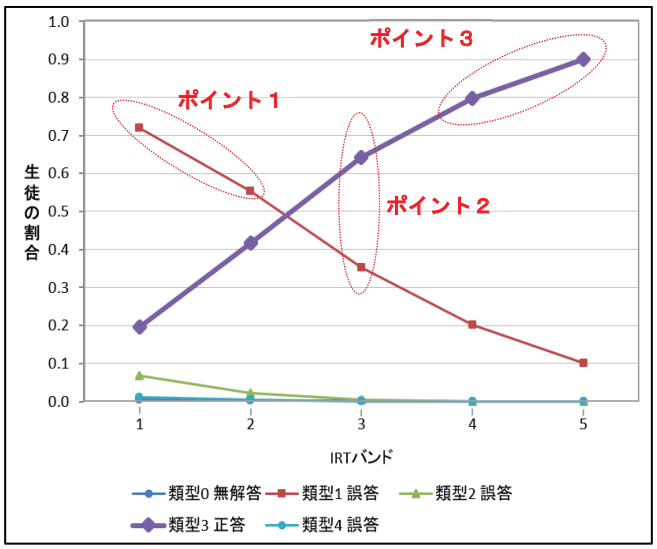
IRT バンド2や3に属する生徒の割合が高いですね。

２．報告書より全国的な傾向を確認する



教師 C

報告書では、全国的な傾向は次のように示されています。





店員	Would you like some cake? We have cheesecake and chocolate cake today.
客	Well, I love cheesecake, but I cannot eat any more food. Can I have a cup of coffee?
店員	Of course. Any sugar and milk?
客	Yes, please.

英語1　音声スクリプト



教師 D

IRT バンドⅠに属する生徒の7割以上、および IRT バンド2に属する生徒の5割以上が、誤答である解答類型Ⅰを選択していて、客が注文したものを聞き取ることに課題があります（ポイントⅠ）。IRT バンド4、5に属する生徒は、正答である解答類型3を選択することができています（ポイント3）。IRT バンド2や3に属する生徒が多い本校では、どのような授業改善が必要でしょうか。



IRT バンド3に属する生徒は、6 割以上が、客が注文したものを聞き取ることができていますが、3割以上が誤答である解答類型Ⅰを選択していることに留意して指導する必要がありそうです（ポイント2）。

3．全国的な傾向と自校の IRT バンドの分布を見て、指導の改善を考える

IRT バンド3～5の生徒でも、誤答である解答類型 I を選択していることを踏まえて、授業改善を図ることが大切ですね。なぜ解答類型 I を選択してしまうのでしょう…。

ミルクと砂糖を注文することは聞き取れています。しかし、“I love cheesecake.” を聞いて、ケーキを注文すると誤って捉えたり、“I cannot eat any more food.” を理解できていなかったりするのではないでしょうか。



生徒

どのように聞き取っているか、私が担当している生徒に聞いてみると、正答できている生徒でも“I love cheesecake.”のあとの、“but”のみを聞いてチーズケーキを注文しないと判断し、その後の“I cannot eat any more food.”は、音声を聞き取ることができなかったり、音声は聞き取れたけれど意味が理解できなかったりしたそうです。

どうやって「3」と判断したの？

but が聞こえたので…

生徒

“but” のみではなく、最後まで聞いて判断できるように指導することが大切ですね。IRT バンド3の割合が高い本校の場合には、聞くことの指導を丁寧に行う必要がありそうです。

報告書の「学習指導に当たって」には、「特定の情報のみを聞くのではなく、前後の情報も合わせて聞き取らせる」とありました。正答できたから聞き取れている、と捉えるのではなく、音声を聞いて判断しているか確認することが大切ですね。
IRT バンド２に属する生徒にはどのような指導が考えられるでしょうか。



学習者用デジタル教科書を使うと、次のような活動に、生徒が自分のペースで取り組むことができそうです。
①音の変化に着目して特定の箇所を聞く
②速度を落として聞く
③繰り返し聞く
④文と文の間にポーズを置いて聞く など



IRT バンド2に属する生徒の割合が高い本校では、有効な手立てになりそうです。それでも聞くことに難しさを感じる生徒がいる場合には、音声スクリプトを活用して、分からなかった箇所を各自で確認することもできそうです。IRT バンド別類型割合グラフから、生徒の状況を詳しく知り、それぞれの解答類型に対応した授業改善を図ることにつながりそうです。

このように、他の問題についても IRT バンド別類型割合グラフから生徒の学習の状況を把握し、授業改善の糸口を探ってみましょう。

３．学習指導に当たって

（１）聞くことの活動を意識的に行う

情報を聞き取ることができるようにするためには、授業の指導過程の中で、聞くことを通して理解する活動を繰り返し行うことが重要である。例えば、学習者用デジタル教科書の活用のほか、教師による最近の出来事についての話や、外国語指導助手（以降、ALT）などによる簡単なスピーチを聞く活動などが考えられる。このような活動を行うことによって、なるべく自然な口調で話される音声に触れさせ、慣れさせることが大切である。

情報を聞き取ることに難しさがある場合、抱えている課題が「知識」の側面なのか、「技能」の側面なのかを把握し、個々の課題に応じた支援が大切である。例えば、ゆっくりと話された音声であっても聞き取ることができない場合には、「知識」の側面に課題がある可能性がある。一方、ゆっくりと話された音声であれば聞き取ることができる場合には、自然な速さや口調で話された音声を聞き取ることに課題があるなど「技能」の側面に課題がある可能性がある。

（２）音声スクリプトを活用する

「知識」の側面に課題があると考えられる場合には、音声スクリプトを提示し、話された内容における語彙や表現、文法などを理解することができなかった箇所を各自で確認する機会を設ける。その後、書かれている内容の意味を理解するように指導したり、音の変化に着目して特定の箇所を聞かせたりすることが考えられる。音声スクリプトで話された内容を確認した後で、再度、音声のみで聞き、聞き取れなかった箇所を聞き取ることができるように指導することが大切である。

（３）学習者用デジタル教科書などを活用しながら、「聞くこと」の活動を繰り返し行う

「技能」の側面に課題があると考えられる場合には、学習者用デジタル教科書などを活用して、①音の変化に着目して特定の箇所を聞く、②速度を落として聞く、③繰り返し聞く、④文と文の間にポーズを置いて聞く、などの活動を行い、標準的な発音や語と語の連結による音の変化、抑揚やリズムなどの英語の音の特徴を具体的に指導することが考えられる。活動後には、再度、元の速度で話された音声を聞かせ、生徒が活動前と比較して聞き取ることができるようになった実感をもたせることが大切である。複数の単元を通して、生徒が①～④などの活動を行い、その後の単元や家庭学習では、生徒が自分に合った聞き方を選択できるようにすることも考えられる。

（４）特定の情報のみを聞くのではなく、前後の情報も合わせて聞き取らせる

音声を聞き、話された内容を理解するためには、特定の情報のみを聞いて判断したり推測したりするのではなく、その前後の情報も合わせて聞き取らせることが大切である。例えば、英語1においては、“I love cheese cake” を聞いて、チーズケーキを注文すると判断したと考えられる解答がみられたが、その後の男性客の “but I cannot eat any more food.” までを聞き、食べ物を勧められた男性客が、チーズケーキを注文しないことを理解する必要がある。“cannot eat” “any more food” など、キーワードとなる箇所を丁寧に指導することも大切である。

（５）学習活動の例

- 自然な速さで話される音声を聞いて、語と語の連結による音の変化や強勢による英語特有のリズム、イントネーションに慣れる活動
- 聞いた音声を、意味を考えながら話された通りに話したり書いたりして、自分で英文を組み立てる活動

コラム①

【知識及び技能の指導】

外国語科において身に付けるべき「知識及び技能」の資質・能力に関して、英語の特徴やきまりに関する事項として示される「音声」、「符号」、「語、連語及び慣用表現」及び「文、文構造及び文法事項」を扱うこととされています。これらの英語の特徴やきまりが実際のコミュニケーションにおいて活用される際には、言語の働きと関連付けることが重要です。例えば、「慣用表現 “Excuse me.” は『話し掛ける』、『呼び掛ける』、『謝る』などの言語の働きを示すために用いられる」、「助動詞 “can” は『許可』や『依頼』などの言語の働きを示すために用いられる」というような使い方についても指導するようにします。本調査の英語 15 （２）a では、明日留学生のサラと行うことについての考えや意図を述べることが求められています。未来の表現を用いて考えや意図を表現したり、“Let’s …” や “Why don’t you …?” などを用いて提案したりできるようにすることが必要です。

また、これらの個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼を置くのではなく、主体的に運用する技能が習熟・熟達することを目指して指導すること、つまり、知識の獲得にとどまるのではなく、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことという言語使用の際に活用できるようにすることが重要です。聞くことを指導する際には、語、文構造や文法事項等の知識だけではなく、どのように聞こえるのかという音声の指導が必要になります。“such as” という連語の知識があったとしても、連結という音の変化があった場合、聞き取れるとは限りません。既習の英語の特徴やきまりに関する事項を聞くことを繰り返す中で、聞くことの技能が習熟・熟達していきます。読むこと、話すこと、書くことについても同様です。

「知識及び技能」の指導に当たっては、「気付く」、「整理する」、「記憶する」、「使う」活動を適宜行うことが大切です。第１に、英語の特徴やきまりに関する事項に気付く機会を多く設けることです。新出の事項については、意味（どのような意味なのか）、言語形式（どのように発音するか、どのように綴るか、どのような語順なのか、どのような規則なのか、など）、使い方（どのような言語の働きを示すために使われるか、いつ使えるか、他の事項との違いは何か、など）について気付きを促すようにします。既出の事項であっても、気付きは重要な学びのプロセスになります。語であれば、聞いたり読んだりする中で、多様な語との組み合わせが用いられることに気付くことによって、語に関する深い知識を得ることができます。例えば、動詞 “wear” の意味が「着る」という意味で用いることを学んだ生徒が、聞いたり読んだりする中で、衣服だけでなく、“shoes” や “a pair of glasses” といった語や語句と組み合わせられることを学ぶことができます。また、文構造や文法事項がどのような言語の働きと関連して用いられているのかに関しても、聞いたり読んだりする中で気付くことによって学びを深めていくことができます。



第２に、文構造や文法事項等を整理する際には、既出の表現との意味、言語形式、使い方の違いを意識させることが大切です。中学校学習指導要領では、「英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとめて整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫すること。」とされています。例えば、明日行うことに関する考えや意図を伝える表現について、“will” “let’s”

“I want to” などの表現を用いることが可能ですが、それぞれどのような違いがあるのかを整理することが考えられます。言語使用の際に、どの表現を用いたらよいかという判断の一助となります。

第３に、英語の特徴やきまりに関する事項を記憶する際には繰り返しが重要です。時間が経てば、忘れていくものです。集中的に覚える努力をしたり、時間を空けながら記憶を確認したりすることが効果的です。その際、闇雲に記憶させるのではなく、言語活動と関連させて、何のために記憶するのかを示すことが重要です。例えば、あるトピックに関してやり取りをするという言語活動を行うために、そのトピックに関する複数の語を覚えようと意識づけます。「話すこと［やり取り］」の言語活動なので、語の発音を聞いてすぐに意味を理解したり、その意味を伝えたいと思った時にすぐに語を想起したりできるようにすることを意識して、語を覚える活動を設定していきましょう。

第４に、技能の習熟・熟達のためには、言語活動の中で、既出の英語の特徴やきまりに関する事項を繰り返し活用する機会を設けるようにしましょう。例えば、過去形を中学１年生で学んだとします。その後、新たな文構造や文法事項等を扱う際、過去形を使う機会がなければ、実際のコミュニケーションにおいて過去形を活用する技能の習熟・熟達は望めないでしょう。言語活動の中で、既出の英語の特徴やきまりに関する事項を駆使するように促し、適宜、正しい言語形式や使い方について指導しましょう。

英語 2　目的に応じて、必要な情報を聞き取る

<問題文>
あなたは、カバンを買うために、ショッピングセンターに来ています。英語の案内放送を聞いて、あなたが行くべき階(floor)として最も適切なものを、<解答欄>の１から４までの中から１つ選びなさい。

▶ ← 再生ボタンを押してください

【ショッピングセンター】



<解答欄>

○ 1　1st floor
○ 2　2nd floor
○ 3　3rd floor
○ 4　4th floor

英語の音声スクリプト

Welcome to our shopping center. This is the floor guide.
On the first floor, we have some restaurants. Also, we have a supermarket.
On the second floor, we have shops for computers, phones, and video games.
On the third floor, we have a bookstore.
On the same floor, we have many shops for bags, clothes, and shoes.
On the fourth floor, you will find a movie theater. We hope you'll enjoy shopping today.

英語の音声スクリプトの解説

"Welcome to our shopping center. This is the floor guide." は、ショッピングセンターのアナウンスであることを示している。" On the … floor," は、どの階の情報かを示し、 "we have ..." "you will find …" には、販売されている商品などの各階の説明に関する様々な情報が含まれている。"On the third floor, we have a bookstore. On the same floor, we have many shops for bags, clothes, and shoes." はカバンを買うために行くべき階に関する情報を示している。"We hope you'll enjoy shopping today." はアナウンスが終了したことを示している。

出題の趣旨

日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。

「必要な情報を聞き取る」とは、複数の情報が含まれるまとまりのある内容を聞き、話されることの全てではなく、聞き手として目的に応じて知りたいことや欲しい情報などを聞き取ることである。そのためには、話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて必要な情報を聞き取ったり、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのかを判断した上で聞き取ったりすることが求められる。

英語 2 では、日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるかどうかを把握するために、ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する問題とした。

■学習指導要領における目標

聞くこと

ア　はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

聞くこと

(ｲ) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
2		1	**1** と解答しているもの	1.6	
		2	**2** と解答しているもの	3.7	
		3	**3** と解答しているもの	78.7	◎
		4	**4** と解答しているもの	16.0	
		0	無解答	0.1	

（N= 295,144 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 78.7%である。ショッピングセンターでのアナウンスを聞き、行くべき階を選択する本問では、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができている。解答類型１の反応率 1.6%､解答類型２の反応率 3.7%と比較すると､誤答の中では解答類型４の反応率が 16.0%と高い。

○　解答類型４に該当する生徒は､「ショッピングセンターでカバンを買うため」という目的に応じて、必要な情報を聞き取ることに課題があると考えられる。“On the same floor,” を聞き取ることができず、３階の情報を４階の情報と聞き間違えていたり、“On the same floor, we have many shops for bags, clothes, and shoes.” と “On the fourth floor, you will find a movie theater.” を誤って関連付けて聞き取ったりしている可能性が考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にし、どのような情報を聞き取らなくてはならないかを把握させる

目的に応じて、必要な情報を聞き取るためには、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分にとって必要な情報は何かを把握することが重要である。話されることの全てを詳細に聞き取ろうとするのではなく、複数の情報から、自分にとって必要な情報とそうでない情報を区別して聞き取る必要がある。そのために、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にして、自分にとって必要な情報は何かをはっきりさせた上で英語の音声を聞かせることが大切である。

例えば、英語２においては、「ショッピングセンターでカバンを買うため」というコミュニケーションを行う目的に応じて、“On the third floor, we have a bookstore. On the same floor, we have many shops for bags, clothes, and shoes.” を必要な情報として聞き取る必要がある。

言語活動を行うに当たっては、日常的な話題に関して、実際に英語が話される状況に近い場面を設定するなど、生徒自身が課題意識をもって情報を得たいと思えるようなものを教材とするなどの工夫をすることも大切である。

（２）自分にとって必要な情報に関連する語句や表現を予測してから英語の音声を聞かせる

目的に応じて、必要な情報を聞き取る言語活動を行うに当たっては、聞く際のコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを示して、どのような情報が必要かを考えさせ、自分にとって必要な情報に関連する語句や表現を予測してから英語の音声を聞かせるようにすることが大切である。

例えば、英語２においては、「ショッピングセンターでカバンを買うため」というコミュニケーションを行う目的から、“bag”という商品名、“we have / sell …” や “on the … floor” といった案内に関する表現が用いられることが予測できる。このような表現に着目し、英語の音声を聞いて必要な情報を聞き取るように指導することが考えられる。英語の音声を聞く前に関連する語句や表現をペアやグループ、学級全体で共有した上で英語の音声を聞かせるということも考えられる。

（３）言語活動の例

- 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスを聞き、自分が必要とする情報を聞き取る活動
- 天気予報、交通情報などを聞き、自分が必要とする情報を聞き取る活動

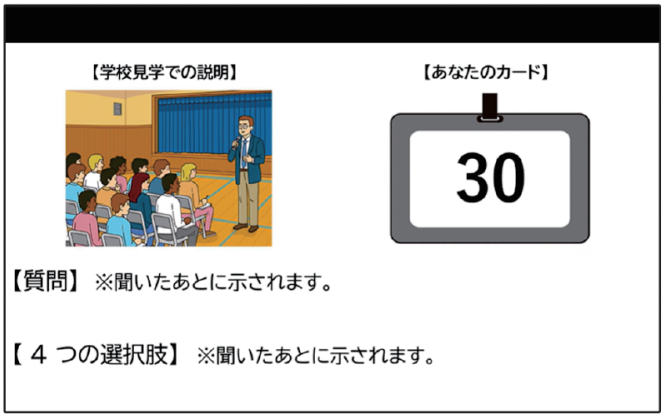
英語２は「聞き取ること」と「読み取ること」の違いはあるが、英語７と同じように「目的に応じて、必要な情報を捉えること」ができるかどうかをみる問題である。そのため、「目的に応じて、必要な情報を読み取ること」ができるようにする指導も併せて行うことが考えられる。

英語 3　自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る

【画面１】

＜問題文＞

あなたは、留学先で学校見学に参加し、体育館で先生の説明を聞くところです。【あなたのカード】の番号は「 30 」です。先生の説明を聞いたあと、【質問】が流れます。そのあと【４つの選択肢】が示されます。質問の答えとして最も適切なものを、＜解答欄＞の１から４までの中から１つ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。



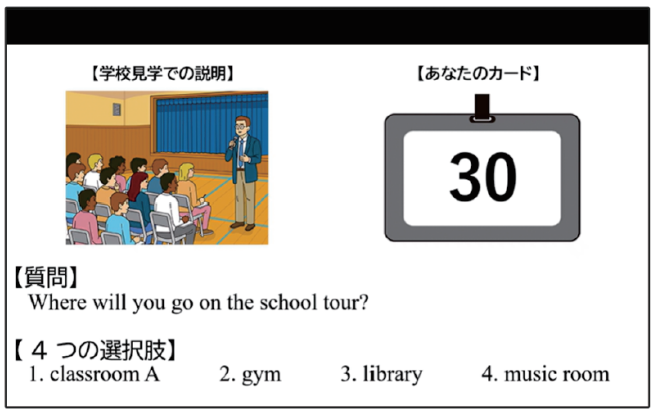
＜解答欄＞

○ 1　○ 2　○ 3　○ 4

【画面２】

＜問題文＞

あなたは、留学先で学校見学に参加し、体育館で先生の説明を聞くところです。【あなたのカード】の番号は「 30 」です。先生の説明を聞いたあと、【質問】が流れます。そのあと【４つの選択肢】が示されます。質問の答えとして最も適切なものを、＜解答欄＞の１から４までの中から１つ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。



＜解答欄＞

○ 1　○ 2　○ 3　○ 4

英語の音声スクリプト【画面１】

Thank you for joining our school tour. Please look at the number on your card. I will tell you the place to go and the thing to do. Number 1 to number 10, please stay in the gym. You will watch a movie about school life. Number 11 to number 20, please go to classroom A. You will experience a math class. Number 21 to number 30, please go to the music room. You will listen to the school song. Number 31 to number 40, please go to the library. You will talk with our students. Enjoy your tour!

英語の音声スクリプト【画面２】

Question: Where will you go on the school tour?

英語の音声スクリプトの解説

“Please look at the number on your card.” は、学校見学に参加する生徒がカードの番号を確認することを示している。“I will tell you the place to go and the thing to do.” は学校見学において、「行くべき場所」と「体験すること」について、これから説明することを示している。その後、“Number ○ to number ○” はカードの番号によるグループ分けの範囲を、“please …” は「行くべき場所」を、“You will …” は「体験すること」を示している。 “Enjoy your tour!” は学校見学の説明が終了したことを示している。

出題の趣旨

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる。

「必要な情報を聞き取る」とは、複数の情報が含まれるまとまりのある内容を聞き、話されることの全てではなく、聞き手として目的に応じて知りたいことや欲しい情報などを聞き取ることである。そのためには、話されることの全てを聞き取ろうとするのではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて必要な情報を聞き取ったり、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのかを判断した上で聞き取ったりすることが求められる。

英語3では、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を聞き取ることができるかどうかを把握するために、学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する問題とした。

なお、令和５年度の調査問題と同様に、英語2と英語3は、出題の趣旨において「必要な情報を聞き取る」という点では共通しているが、両者には次の相違点がある。

英語2では、英語の音声を聞く前から何を聞き取ったらよいかが示され、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることが求められる。それに対し、英語3では、英語の音声を聞く前は何を聞き取ったらよいのかは示されておらず、学校見学の説明の “I will tell you the place to go and the thing to do.” を聞いて、初めて何を聞き取ったらよいのかを把握し、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることが求められる。英語3における「自分の置かれた状況など」とは、「学校見学の説明を聞く場面で、自分のカードの番号は『30』であること」を指す。目的に応じて、必要な情報を聞き取ることだけでなく、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることも大切であることから、令和５年度に続き、両者を出題した。

令和８年度はCBT（Computer Based Testing）による出題によって可能となる出題形式を活用し、アニメーションを使用して、音声を聞いた後に質問と選択肢が示されるようにした。

■学習指導要領における目標

聞くこと

ア　はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

聞くこと

(ｲ) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
3		1	1 と解答しているもの	5.0	
		2	2 と解答しているもの	5.0	
		3	3 と解答しているもの	13.5	
		4	4 と解答しているもの	76.3	◎
		0	無解答	0.1	

（N= 283,126 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 76.3%である。学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する本問では、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができている。解答類型１の反応率 5.0%、解答類型２の反応率 5.0%と比較すると、誤答の中では解答類型３の反応率が 13.5%と高い。

○　解答類型３に該当する生徒は､｢学校見学の説明を聞く場面で､自分のカードの番号は『30』である」という自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることに課題があると考えられる。“No. 31（thirty-one）”と “No. 30（thirty）”を誤って捉えている可能性も考えられる。

○　令和５年【中学校】英語3では、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみるために、バーベキューパーティーについての説明を聞き、最も適切な番号を選択する問題を出題し、正答率は 41.9%であった。

３．学習指導に当たって

（１）自分の置かれた状況を理解させた上で、英語の音声を聞かせる

自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取るためには、自分の置かれた状況を理解し、英語の音声を聞く中で、聞く目的を把握していくことが求められる。そのため、まずは自分の置かれた状況を理解させることが重要である。

例えば、英語3において、「学校見学の説明を聞く場面で、自分のカードの番号は『30』であること」が自分の置かれた状況となる。この自分の置かれた状況を理解しておくことで、“Please look at the number on your card. I will tell you the place to go and the thing to do.” を聞いて、学校見学で取るべき行動を明確にするという目的のために、カードの番号が30番である自分が行くべき場所とそこで行うことを聞き取る必要があることを把握させることが大切である。授業では、ALTの話を聞かせたり、教師とやり取りしたりすることを通して、自分の置かれた状況を理解させることが考えられる。

（２）英語の音声を聞き、どのような情報を聞き取らなくてはならないかを把握させる

言語活動を行うに当たっては、自分の置かれた状況を理解した上で、英語の音声を聞いて、どのようなことが話されているか、どのような情報を聞き取らなくてはならないかを把握させ

ることが必要である。教師が質問をして確認したり、生徒同士で確認したりすることも考えられるが、学習が進む中で、英語の音声を聞きながら生徒自身が何を聞き取らなくてはならないのかを把握できるようにすることが大切である。

例えば、英語3において、自分の置かれた状況を理解し、“Please look at the number on your card. I will tell you the place to go and the thing to do.” を聞くことで、カードの番号、行くべき場所、体験することを聞き取らなくてはならないことを把握し、“Number 21 to number 30, please go to the music room. You will listen to the school song.” を必要な情報として聞き取る必要がある。

英語2では、音声を聞く前に目的を把握しているため、自分にとって必要な情報に関連する語句や表現を予測することができる。しかし、英語3の場合は、音声を聞く前に、聞く目的を把握することができないため、語句や表現を予測することができず、音声を聞きながら聞き取らなくてはならない情報を把握する必要がある。授業においては、一度、英語の音声を聞かせた後に、聞く目的とどういった情報を聞き取らなくてはならないかを確認させ、関連する語句や表現に着目して、再度、英語の音声を聞かせ、自分の置かれた状況などから、自分にとって必要な情報とそうでない情報を判断し、必要な情報を聞き取ることができるように指導することが考えられる。

（３）言語活動の例

- 友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞き、自分の置かれた状況などから判断して、適切に応じる活動
- 学校行事における係分担の説明や持ち物等の連絡などを聞き、自分の置かれた状況などから判断して、自分が必要とする情報を聞き取る活動

なお、英語3は「聞き取ること」と「読み取ること」の違いはあるが、英語8と同じように「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を捉えること」ができるかどうかをみる問題である。そのため、「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること」ができるようにする指導も併せて行うことが考えられる。

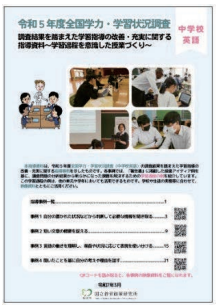
○関連する指導資料　　※画像をクリックするとリンク先にアクセスできます。

- 中学校英語指導事例集（令和７年３月）
  「自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を聞き取る」

映像資料



指導資料



英語 4　話を聞き、概要を捉える

【画面１】

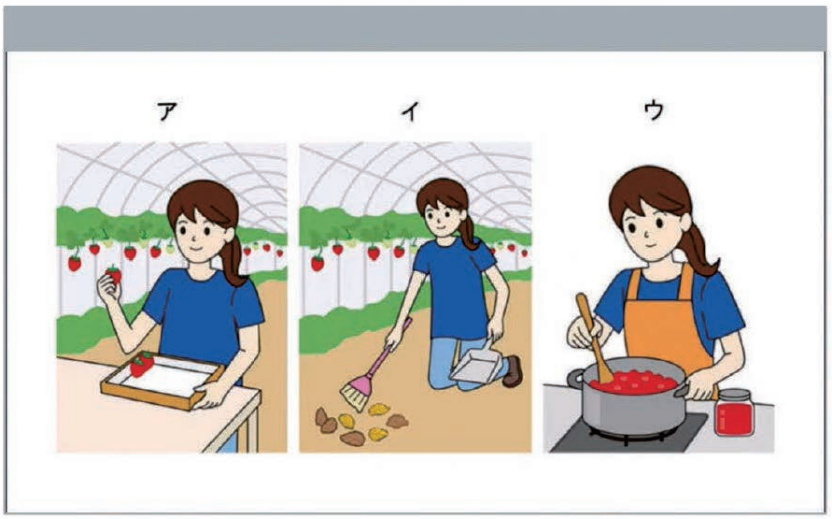
<問題文>
しおりが、先週、いちご農園で体験したことについて英語で発表します。しおりの発表を聞いたあと、ア、イ、ウの３枚の絵が示されます。しおりが体験した順に、①②③の中に入る絵を、１つずつ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。



<解答欄> ① 選択肢から選ぶ ⇨ ② 選択肢から選ぶ ⇨ ③ 選択肢から選ぶ

【画面２】

<問題文>
しおりが、先週、いちご農園で体験したことについて英語で発表します。しおりの発表を聞いたあと、ア、イ、ウの３枚の絵が示されます。しおりが体験した順に、①②③の中に入る絵を、１つずつ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。



<解答欄> ① 選択肢から選ぶ ⇨ ② 選択肢から選ぶ ⇨ ③ 選択肢から選ぶ

英語の音声スクリプト【画面１】

I had work experience at a strawberry farm last week. In the morning, I made strawberry jam. I put strawberries and sugar into a pot, and cooked them. After lunch, I picked strawberries. I checked their sizes and colors. I put them into the box. Finally, I cleaned around the farm. I saw old strawberry leaves on the ground, so I collected them. The work was hard, but I had a great experience.

英語の音声スクリプトの解説

“I had work experience at a strawberry farm last week.” は、これから発表する内容を示している。“ In the morning ” “ After lunch ” “ Finally ” は、時間の流れを示し、その後の “I made …” “I picked …” “I cleaned …” は、職場体験で行ったこととその詳細を示している。“The work was hard, but I had a great experience.” は、職場体験での感想を示している。

出題の趣旨

日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる。

「概要を捉える」とは、１つの話題に沿って話されるものなど、内容に一貫性のある英語を最初から最後まで聞き、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、全体としてどのような話のあらましになっているのかを捉えることである。

英語４は、日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかを把握するために、職場体験についての発表を聞き、その後に示される３枚の絵を体験した順になるように選択する問題とした。

英語４では、英語３と同様に CBT（Computer Based Testing）によって可能となる出題形式を活用し、アニメーションを使用して音声を聞いた後に選択肢の絵が示されるようにした。

■学習指導要領における目標

聞くこと

イ　はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

聞くこと

(ｴ) 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
4		1	ア→イ→ウと解答しているもの	4.0	
		2	ア→ウ→イと解答しているもの	21.5	
		3	イ→ア→ウと解答しているもの	19.6	
		4	イ→ウ→アと解答しているもの	2.8	
		5	ウ→ア→イと解答しているもの	44.4	◎
		6	ウ→イ→アと解答しているもの	5.0	
		99	上記以外の解答	2.5	
		0	無解答	0.3	

（N= 283,194 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 44.4%である。職場体験についての発表を聞き、その後に示される３枚の絵を体験した順になるように選択する本問では、日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることに課題がある。解答類型１の反応率 4.0%。解答類型４の反応率 2.8%、解答類型６の反応率 5.0%と比較すると、誤答の中では解答類型２の反応率が 21.5%、解答類型３の反応率が 19.6%と高い。

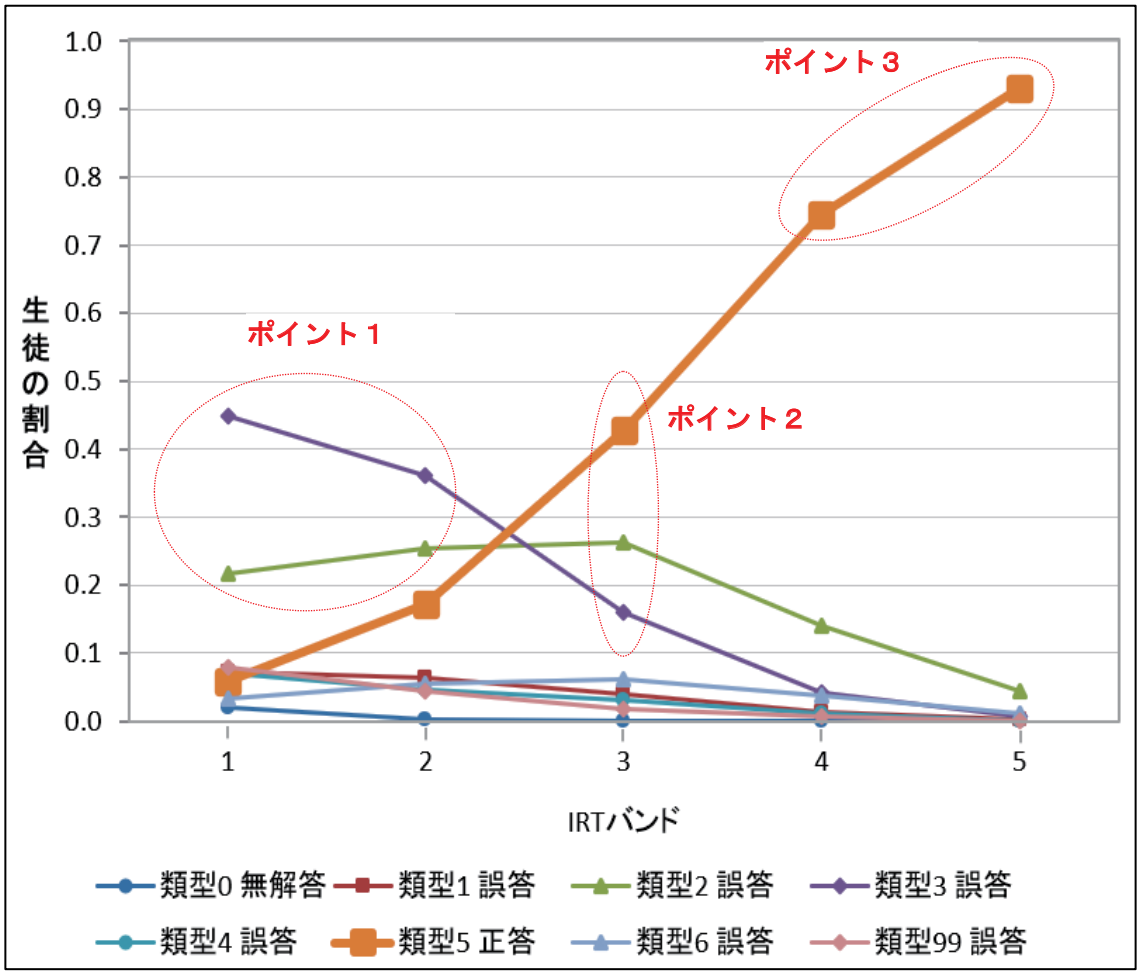
○　解答類型２に該当する生徒は、３つ目の場面 “Finally” と出来事を聞き取ることができているが、残る２つの場面と出来事を時間の流れに沿って聞き取ることができていないと考えられる。

※　思考発話調査では、“clean” や “ground” などの語句を聞き、３番目の絵が「イ．掃除をする」だと判断したが、その他の絵についての内容と順番は聞き取れていない生徒の様子が観察できた。

思考発話調査については、pp. 22-23 を参照

○　解答類型３に該当する生徒は、２つ目の場面 “After lunch” と出来事を聞き取ることができているが、残る２つの場面と出来事を時間の流れに沿って聞き取ることができていないと考えられる。ただし、１つ目の場面と出来事、および３つ目の場面と出来事を時間の流れに沿って捉えることができていないことから、２つ目の場面と出来事も聞き取ることができていない可能性が考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１に属する生徒の４割以上、および IRT バンド２に属する生徒の３割以上が誤答である解答類型３、IRT バンド１、２それぞれに属する生徒の２割以上が誤答である解答類型２と解答しており、相当数の生徒が、場面と出来事を時間の流れに沿って聞き取ることができていないと考えられる。指導に当たっては、話される順番に着目して英語の音声を聞き、まずは２つの場面と出来事の順番を聞き取らせ、徐々に３つ以上の場面と出来事の順番を捉えられるようにすることが考えられる。 【p.47「学習指導に当たって」（１）】

・ポイント２について

IRT バンド３に属する生徒の４割以上が正答である解答類型５と解答している。IRT バンド１、２それぞれに属する生徒と比較すると、解答類型３と解答している割合は低くなっているが、２割以上が解答類型２と解答しており、連続する２つの場面と出来事を時間の流れに沿って聞き取ることができていないと考えられる。指導に当たっては、“In the morning” “After lunch” “Finally” などの時間的な場面の移り変わりを表す表現と体験した内容に着目して音声を聞かせ、聞き取った情報から場面の移り変わりを整理させることが考えられる。

【p.47「学習指導に当たって」（２）】

・ポイント３について

IRT バンド４に属する生徒の７割以上、および IRT バンド５に属する生徒の９割以上が、正答である解答類型５と解答しており、相当数の生徒が、職場体験についての発表を聞き、その後に示される３枚の絵を体験した順になるように選択することができていると考えられる。

IRT バンド別類型割合グラフから分かることを考える　その２

１．自校の IRT バンドの分布を確認する　※教師Ａ～Ｄは同じ中学校の同僚を想定している



教師 A

本校の IRT バンドの分布は図１のように、IRT バンド2、3に属する生徒の割合が高くなっていましたね。



教師 B

話を聞いて、概要を捉える問題の解答状況を見てみましょう。

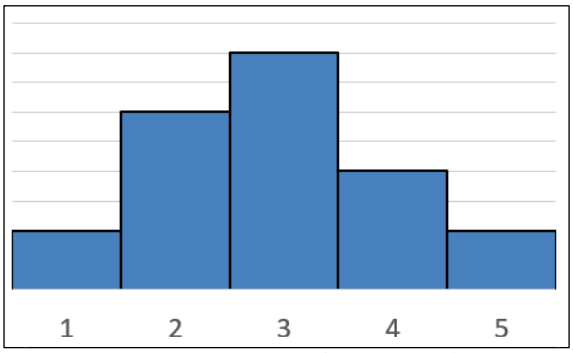


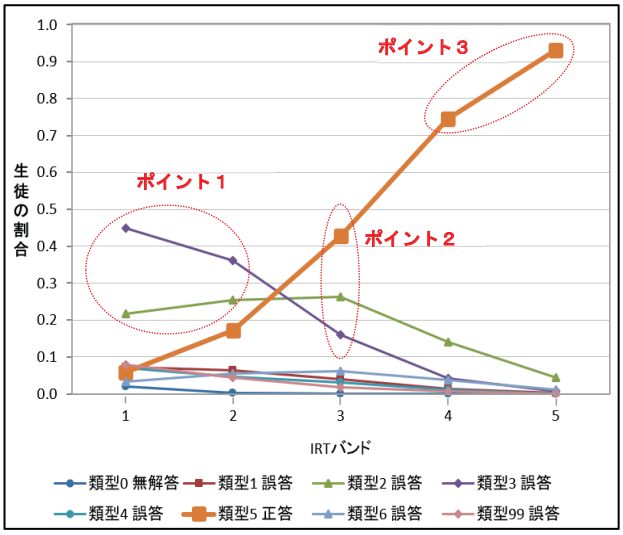
図１　Y 中学校の IRT バンドの分布

２．報告書より全国的な傾向を確認する



教師 C

誤答の解答類型が英語Ⅰのように１つに偏るのではなく、複数に分散しています。



I had work experience at a strawberry farm last week. In the morning, I made strawberry jam. I put strawberries and sugar into a pot, and cooked them. After lunch, I picked strawberries. I checked their sizes and colors. I put them into the box. Finally, I cleaned around the farm. I saw old strawberry leaves on the ground, so I collected them. The work was hard, but I had a great experience.

英語4　音声スクリプト



※音声を聞いた後に、絵が示される



教師 D

IRT バンド別類型割合グラフを見ると、IRT バンド4に属する生徒の7割以上、および IRT バンド5に属する生徒の9割以上が正答（ポイント3）、IRT バンド3に属する生徒の４割以上が正答しています。



IRT バンドⅠ、2に属する相当数の生徒が、解答類型2、3と解答していますが（ポイントⅠ）、IRT バンド3に属する生徒も誤答の中では解答類型2、3と解答する割合が高いです（ポイント2）。

3．全国的な傾向と自校の IRT バンドの分布を見て、指導の改善を考える

どの IRT バンドでも、誤答の中では、解答類型2と解答類型3の割合が高いのですね。多くの生徒が、解答類型2、3と解答する要因を考えてみましょう。

解答類型2では、3つ目の場面と出来事を捉えていますが、1 つ目と2つ目の場面と出来事を捉えることができていません。

解答類型2	ア→ウ→イ
解答類型3	イ→ア→ウ
解答類型5（正答）	ウ→ア→イ

この問題についても、どのように聞いているか、私が担当している生徒に聞いてみました。 pick、clean など、断片的に単語を聞き取っていましたが、その他の音声は聞き取ることが難しかったようです。音声ではなく、絵で判断してしまった生徒もいたようです。

どうして「ア→ウ→イ」と解答したの？

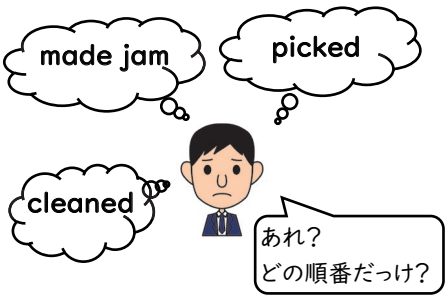
生徒

最後の clean は聞き取れたのですが、その前の順番が分からなかったので、イチゴを摘んでから、それらをジャムにするという流れから予想しました。

IRT バンド3になると、解答類型2、解答類型3と解答している生徒の割合が逆転しているので、IRT バンド3に属する生徒の方が、「最後に掃除をしたこと」は聞き取れているようです。

IRT バンド2、3に属する生徒の割合が高い本校において、話を聞いて、概要を捉えることができるようにするためには、どのような指導が必要でしょうか。

順番通りに聞くことができなかったり、場面の移り変わりを捉えることができなかったりするのではないでしょうか。解答類型2、3と解答している生徒にとっては、順番が分からなくなってしまったり、場面ごとの区切れが捉えにくかったりしているのかもしれません。



報告書の「学習指導に当たって」にある「話される順番に着目して英語の音声を聞く活動を行う」や「聞き取った情報から場面の移り変わりを整理させる」などが参考になりそうです。



場面の移り変わりを整理する生徒

本校では、「聞くこと」の指導について、重点的に取り組めていなかったので、もう一度各学年の目標を見直し、単元を通して、聞くことの力を高めていきましょう。

３．学習指導に当たって

（１）話される順番に着目して英語の音声を聞く活動を行う

話を聞いて、概要を捉えるためには、時間的な場面の移り変わりを順番通りに捉えることが大切である。例えば、ある人物が夏休みに行った２つの体験(「１日目に親戚の家を訪れたこと」と「２日目にキャンプに行ったこと」など）について話される英語の音声を聞き、その人物が体験した順番を確認させたり、時系列を整理するワークシートにメモを取らせたりすることが考えられる。はじめは、英語の音声を聞いて、２つの出来事の順番を捉える活動を繰り返し、徐々に３つ以上の体験を話された順番通りに捉えさせることが考えられる。

（２）聞き取った情報から場面の移り変わりを整理させる

話を聞いて、概要を捉えるためには、話題を把握した上で、特定の部分にのみとらわれることなく、話の最初から最後まで通して聞かせることが重要である。その際、どのような内容が話されているのかを理解するために、文章の構成を意識して聞いたり、メモしながら聞いたりすることが考えられる。話を聞いた後、聞き取った情報や、情報と情報との関係、展開を表す表現などから場面の移り変わりを整理することが大切である。その後、ペアやグループで場面の移り変わりをどのように整理したのかを伝え合ったり、学級全体で確認したりすることが考えられる。

場面の移り変わりを整理する際には、時間的な場面の移り変わりを表す表現や、空間的な場面の移り変わりを表す表現、出来事に関連した表現に着目するなど、何に着目するかによって複数の整理の仕方があることを共有することも考えられる。その上で、場面の移り変わりを意識して再度聞き、はじめは聞き取れなかった箇所を聞き取ることができたかどうかを確認することが大切である。

例えば、英語４では、“In the morning” “After lunch” “Finally”という時間的な場面の移り変わりを表す表現に着目して聞き、場面の移り変わりを整理することで概要を捉えることにつながると考えられる。

英語の音声を繰り返し聞かせるだけでは場面の移り変わりを整理することが難しいため、話された内容の音声スクリプトを読み、文章の構成や概要を捉えるための手がかりとなる語句や表現に着目して聞くように指導したりすることが大切である。その際に、音のつながり、音の変化などについても指導すると概要を捉えるための必要な語句や表現の聞き取りにも役立つと考えられる。生徒が音声スクリプトを見ながら英語を複数回聞いたり、音声スクリプトを活用して場面の移り変わりを整理したりする活動も考えられるが、徐々に英語の音声を聞く回数を減らし、最終的には英語の音声を１回のみ聞いて、自ら場面の移り変わりを整理し、概要を捉えることができるようにしていくことが大切である。

（３）言語活動の例

- 「お気に入りの日本食」について ALT の話を聞き、話全体の大まかな内容を捉える活動
- ある人物の生い立ちを聞き、そのあらましを把握し、主な出来事を他の生徒に伝える活動
- 「夏休みの思い出に残っていること」などのテーマについてのスピーチを聞き、主な発話内容を整理する活動
- 関心のある国や地域についての発表を聞き、話の流れを示すスライドを並べ替える活動

英語４は「聞くこと」と「読むこと」の違いはあるが、英語９と同じように「日常的な話題について、概要を捉えること」ができるかどうかをみる問題である。そのため、「日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えること」ができるようにする指導も併せて行うことが考えられる。

授業アイディア例をお読みいただく際の留意点

令和８年度全国学力・学習状況調査　報告書　中学校英語　では４つの授業アイディア例を掲載しています。授業アイディア例をご覧いただく際の留意点を吹き出しの赤字で記載しましたので、授業アイディア例と併せてご覧ください。

授業アイディア例１　英語の音声を聞き、概要を捉える

１．本アイディア例と関連する調査問題と正答率

英語4　正答率 44.4%　調査問題（クリック、読み込み）　音声スクリプト（クリック、読み込み）

2. 中学校学習指導要領における領域・内容

聞くこと　イ　はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を聞き取ることができるようにする。

詳細は、中学校学習指導要領解説を確認してください。
領域別の目標に基づき、単元の目標を設定します。

3. 単元計画

（１）単元の目標

聞いた内容について、感想を踏まえて他者に伝えるために、夏休みの思い出を聞き、概要を捉えることができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

※「記録に残す評価」は後日に行う。

生徒の活動の状況を見届けて生徒の学習改善や教師の指導改善に生かす評価は毎時間行いますが、「記録に残す評価」をどこで行うのかを示しています。

単元の流れを大まかに示していますが、生徒の学習状況や教科書の内容に応じて、活動を行う際の参考にしてください。

「指導上の留意点」では、単元の目標を達成するために、いつ何を指導しているかを示しています。

（３）単元展開

時間	■ねらい 知 知識及び技能　聞 聞くこと　読 読むこと や 話すこと［やり取り］　発 話すこと［発表］　書 書くこと 促したい生徒の気付き、振り返り	※指導上の留意点
1	■単元の目標を理解する。 聞　教師の友達が夏休みに体験した２つのことについて、教師の話を聞く。 発　夏休みの思い出について、ペアで紹介し合う。 聞　教師の友達が夏休みに体験したことについて、教師から感想を聞き、単元の目標を理解する。	※どのようなことが話されているかを考えながら聞くように伝える。 ※「聞いた内容について、感想を踏まえて他者に伝えるために」という概要を捉える目的を明確にする。

	聞いたことを他の人に伝えるためには、話の大まかな内容を聞く必要がありそうだ。 知　動名詞の特徴やきまりについて理解し、夏休みに楽しんだことについて表現する。	※第２時以降も動名詞の指導を継続して行う。 **それぞれの時間において、ねらいに沿って促したい生徒の気付き、振り返りなどを示しています。**
2	**■教科書の登場人物の週末の出来事を聞き、聞き取った情報について内容を理解する。** 聞　再度、週末の出来事について、メモを取りながら聞く。 聞　聞き取った情報のメモから、場面の移り変わりを整理し、どのように整理したかを、ペアや学級全体で共有する。 ある出来事に関連した表現に着目すると内容をまとめられそうだ。	※情報と情報との関係を把握させる。 ※場面の移り変わりを整理すると概要を捉えることにつながることを確認する。
…	・・・・・・	

４．第４時の展開案

１時間の授業における学習過程を示しています。

「ポイント」には、指導の留意点とその意図を示しています。

２．聞き取った情報から場面の移り変わりを整理する

ポイント　概要を捉えるために、時間的な場面の移り変わりを表す表現や出来事に関連する表現などに着目して、場面の移り変わりを整理させます。必要に応じて、個別支援を行います。

Listen to Mr. Smith's summer vacation. When you listen, take notes on your tablet yourself.

I went to Karuizawa in Nagano prefecture. Everything was new to me. On the 1st day, I took Shinkansen to Karuizawa. I ate soba at a local restaurant. It was very good, but using chopsticks was difficult for me. The next day, I went to Shiraito Falls by bus. I saw beautiful waterfalls and enjoyed taking many pictures. The view was surprising. After that, I returned to the station by bus and walked to the outlet mall. I bought some new goods, such as shoes, bags, and clothes. They were fashionable. I enjoyed my trip to Karuizawa. If you have a chance, why don't you visit?

※録音し、後の活動で生徒が聞くことができるようにします。



生徒が英語を聞きながら書いたメモ（例）

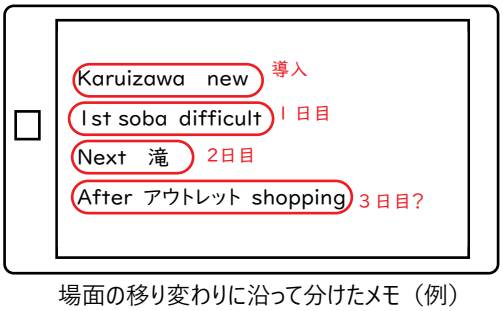
単元の初めは、複数回聞かせたり、音声スクリプトを見ながら聞かせたりしますが、徐々に音声を１回だけ聞いて、内容を整理できるようにします。

黄色の枠には、活動における教師の支援などを示しています。

大まかな内容を捉えるために、メモした表現を場面の移り変わりに沿って整理してみましょう。
Then, organize your notes.

聞き取れなかった箇所もあるけれど、２時間目に学習した「出来事に関連した表現」に着目して整理すると…

話がつながらないところもあるので、友達はどのように整理したのか聞いてみたい。



場面の移り変わりに沿って分けたメモ（例）

授業アイディア例１　英語の音声を聞き、概要を捉える

１．本アイディア例と関連する調査問題と正答率

英語[4]　正答率 44.4%　調査問題（クリック、読み込み）

音声スクリプト（クリック、読み込み）

2. 中学校学習指導要領における領域・内容

聞くこと　イ　はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を聞き取ることができるようにする。

3. 単元計画

（１）単元の目標

聞いた内容について、感想を踏まえて他者に伝えるために、夏休みの思い出を聞き、概要を捉えることができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・動名詞の特徴やきまりを理解している。 ・動名詞などの特徴やきまりの理解を基に、夏休みの思い出について聞く技能を身に付けている。	聞いた内容について、感想を踏まえて他者に伝えるために、夏休みの思い出を聞き、概要を捉えている。	聞いた内容について、感想を踏まえて他者に伝えるために、夏休みの思い出を聞き、概要を捉えようとしている。

※「記録に残す評価」は後日に行う。

（３）単元展開

時間	■ねらい	
	知 知識及び技能　聞 聞くこと　読 読むこと や 話すこと［やり取り］発 話すこと［発表］書 書くこと 促したい生徒の気付き、振り返り	※指導上の留意点
1	■単元の目標を理解する。	
	聞　教師の友達が夏休みに体験した２つのことについて、教師の話を聞く。 発　夏休みの思い出について、ペアで紹介し合う。 聞　教師の友達が夏休みに体験したことについて、教師から感想を聞き、単元の目標を理解する。 聞いたことを他の人に伝えるためには、話の大まかな内容を聞く必要がありそうだ。  知　動名詞の特徴やきまりについて理解し、夏休みに楽しんだことについて表現する。	※どのようなことが話されているかを考えながら聞くように伝える。 ※「聞いた内容について、感想を踏まえて他者に伝えるために」という概要を捉える目的を明確にする。 ※第２時以降も動名詞の指導を継続して行う。
2	■教科書の登場人物の週末の出来事を聞き、聞き取った情報について内容を理解する。	
	聞　動名詞を含む週末の出来事を聞き、聞き取った情報について、内容をペアで共有する。	※どのようなことが話されているかを考えながら聞くように伝える。

	聞　再度、週末の出来事について、メモを取りながら聞く。 聞　聞き取った情報のメモから、場面の移り変わりを整理し、どのように整理したかを、ペアや学級全体で共有する。 ある出来事に関連した表現に着目すると内容をまとめられそうだ。 	※情報と情報との関係を把握させる。 ※場面の移り変わりを整理すると概要を捉えることにつながることを確認する。
3	**■教科書の登場人物の夏休みの思い出を聞き、概要を捉える。**	
	聞　夏休みの思い出を聞いて、聞き取った情報のメモから、場面の移り変わりを整理し、学級全体で共有する。 聞　時間的な場面の移り変わりを表す表現に着目して、再度、話を聞いて、場面の移り変わりを整理する。必要に応じて音声スクリプトを参照する。 読　複数の文章から話の概要が書かれた文章としてふさわしいものを選択する。 出来事に関連した表現に加え、時間的な場面の移り変わりを表す表現にも着目して場面の移り変わりを整理すると概要を捉えられそうだ。 	※時間的な場面の移り変わりを表す表現に着目して場面の移り変わりを整理させ、話全体の概要を捉えさせる。 ※情報に偏りがある文章、一部の情報だけが詳細に述べられている文章などの選択肢を作成する。
4 本時	**■ALT が夏休みに旅行に行った思い出を聞き、概要を捉えることができる。**	
5	**■教科書の登場人物が週末の出来事について質問したり、答えたりしているやり取りを聞き、内容を理解する。**	
	聞　動名詞を含む対話を聞いて聞き取った情報をメモし、場面の移り変わりを整理した後、学級全体で共有する。 発　聞き取った表現を用いて、週末にしたことを紹介し合う。 や　友達と週末にしたことについて互いに紹介し合い、関連した質問をしたり、コメントをしたりする。 関連した質問をしたり、感じたことを話したりするために、話の全体を捉えることが大切だ。 	※週末の出来事を話す際に、事実と感じたことなどを話していることを確認する。
6	**■友達の夏休みの思い出を聞き、概要を捉える。**	
	発　１つの出来事について詳細をまとめたり、時間の流れが伝わったりするように話す内容を整理し、友達に伝える。 聞　ある出来事に関連した表現や時間的な場面の移り変わりを表す表現などに着目して友達の夏休みの思い出を聞く。聞いた内容を自分なりに表などに整理する。 ある出来事に関連した表現や時間的な場面の移り変わりを表す表現などに着目して聞くことで夏休み中の３つの体験とその感想を聞き取れた。 	※内容を２つか３つに絞り、出来事とそこで感じたことを話すなどの指示を与えて、支援する。 ※必要に応じて、単元前半で扱ったメモを活用して聞くように促す。
7	**■友達の夏休みの思い出を聞き、捉えた概要を感想とともに別の友達に伝える。**	
	発　第６時に整理した友達の夏休みの出来事を感想とともに別の友達に伝える。 聞　相手の友達から別の友達の夏休みの思い出を聞いて概要を捉え、その話題について感想を伝え合う。 友達の思い出について概要を捉えることで、複数の出来事について感想を伝えることができた。 	※友達の夏休みの思い出を相手に伝える際には、話の全体を過不足なく話すことを意識するように伝える。
後日	■ペーパーテスト　（令和８年度全国学力・学習状況調査　中学校英語4など）	

4. 第４時の展開案

１．コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握する

ポイント　意欲を高めたり、活動の見通しをもたせたりするために、「聞いた内容について感想を踏まえて他者に伝えるために」というコミュニケーションを行う目的を明確にします。

How was your summer vacation?


Mr. Smith (ALT)


教師

I went to Sapporo for three days. On the first day, I ate fresh seafood. It was delicious. The next day, I saw colorful flower gardens. On the last day, I visited a farm. I enjoyed eating sweet melon there.

You went to Sapporo. You ate seafood, saw colorful gardens and visited a farm. You made great memories. That's wonderful. What do you think?


生徒

I think it is nice. I want to go to Sapporo.

How was your summer vacation, Mr. Smith?



I had a great memory, too. Everything was new to me.

Can you tell us about your summer vacation?

Sure.



Today listen to the story about his summer vacation and get the outline. After that, share the impression of his summer vacation.

２．聞き取った情報から場面の移り変わりを整理する

ポイント　概要を捉えるために、時間的な場面の移り変わりを表す表現や出来事に関連する表現などに着目して、場面の移り変わりを整理させます。必要に応じて、個別支援を行います。



Listen to Mr. Smith's summer vacation. When you listen, take notes on your tablet yourself.



I went to Karuizawa in Nagano prefecture. Everything was new to me. On the 1st day, I took Shinkansen to Karuizawa. I ate soba at a local restaurant. It was very good, but using chopsticks was difficult for me. The next day, I went to Shiraito Falls by bus. I saw beautiful waterfalls and enjoyed taking many pictures. The view was surprising. After that, I returned to the station by bus and walked to the outlet mall. I bought some new goods, such as shoes, bags, and clothes. They were fashionable. I enjoyed my trip to Karuizawa. If you have a chance, why don't you visit there?

※録音し、後の活動で生徒が聞くことができるようにします。



生徒が英語を聞きながら書いたメモ（例）

単元の初めは、複数回聞かせたり、音声スクリプトを見ながら聞かせたりしますが、徐々に音声を１回だけ聞いて、内容を整理できるようにします。



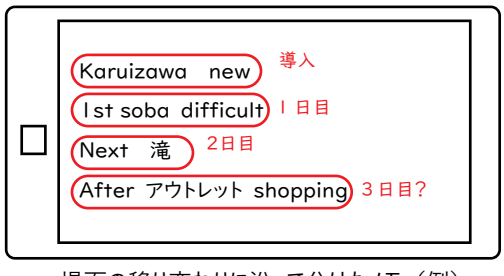
大まかな内容を捉えるために、メモした表現を場面の移り変わりに沿って整理してみましょう。
Then, organize your notes.

聞き取れなかった箇所もあるけれど、２時間目に学習した「出来事に関連した表現」に着目して整理すると…



話がつながらないところもあるので、友達はどのように整理したのか聞いてみたい。





場面の移り変わりに沿って分けたメモ（例）

3．グループや学級全体で場面の移り変わりの整理の仕方を共有する

ポイント　話の概要を捉えるために、整理したメモを基に、どのように場面の移り変わりを整理したのかをグループや学級全体で共有します。

How did you organize your notes? Share your ideas in your group.

①出来事に関連する表現に着目して整理しました。「そば」「滝」「買い物」の３つの内容で、３日間長野県の軽井沢に行ったということでしょうか。



②出来事に着目すると３日間に聞こえますね。時を表す表現に着目すると３つ目が After that だったので、２つ目と３つ目は同じ日で、２日間ですね。

③私は感想にも着目して good, surprising, fashionable もメモしました。新幹線→バス→バスと歩きの移動手段でも整理できそうです。

④感想があると new to me とつながりますね。場所だけに着目すると２つのまとまりになってしまうので、出来事と関わらせて３つにまとめるとよさそうです。

Listen to the audio at your own pace and organize your notes on your tablet again.

出来事に関連する表現に加えて、時間的な場面の移り変わりを表す表現や、感想を述べる表現にも着目して、話された順にまとめると、Mr. Smith の話の全体をさらに捉えることができそう。



□
導入
Karuizawa new　１日目
1st soba→good　chopsticks→difficult
Next 滝 surprising　2日目
~~3日目?~~ 2日目
After アウトレット shopping fashionable

生徒 A が再度整理したメモ（例）

You got the outline of Mr. Smith's summer vacation.

ポイント　話された内容の詳細を理解するために、音声スクリプトを活用して、聞き取れなかった語句や表現を確認させたり、音の変化に着目して特定の箇所を聞かせたりします。

Underline the words and phrases when you didn't understand. If you want, listen to the audio of Mr. Smith again, or listen to the audio at the slower speed.

（※オンライン辞書で調べる。）
goods が「商品」といった意味だった。確かに日本語でも「グッズ」という言葉はあるが、あまり結び付かなかった。

「サッチャーズ」が何のことか分からなかったけれど、ゆっくり聞いたり、繰り返したりして音声スクリプトを確認してから聞いたりすると、"such as" という音を聞き取ることができた。



□

After that, I returned to the station by bus and walked to the outlet mall. I bought some new goods, such as shoes, bags and clothes.

生徒が書いた下線（例）

4．話を聞いて、友達と感想を伝え合う

We listened to Mr. Smith's summer vacation. What do you think about it?

Mr. Smith saw beautiful waterfalls at Shiraito Falls. I want to see the picture.

Mr. Smith experienced Japanese culture. I am happy.

英語 5　話を聞き、要点を捉える

＜問題文＞

あなたは、「住みやすいまちづくり」についての意見交流会で、友達のたけるの話を聞くところです。話を聞いて、**たけるが最も伝えたいこと**を、＜解答欄＞の1から4までの中から1つ選びなさい。

▶ ← 再生ボタンを押してください

【たけるのスピーチ】



＜解答欄＞

1　Many people from different countries are living in our city.

2　We need to help people from abroad with many different languages.

3　Our city improved the website for people from abroad.

4　People from abroad can get useful information from the website.

英語の音声スクリプト

Many people from different countries are living in our city. Some of them don't understand Japanese. So, there are some language problems. I think we need to help people from abroad with many different languages. Five years ago, our city made its website in Japanese and English. However, people from abroad wanted it in other languages too. Then, our city improved it. They can get useful information from the website now. It is important to help them with many different languages.

英語の音声スクリプトの解説

“Many people from different countries are living in our city.” は、たけるが住むまちの現状を示している。“I think we need to help people from abroad with many different languages.” は、たけるが最も伝えたいことを示している。 “our city made its website in Japanese and English” と “Then, our city improved it.” は改善するための取組を、 “They can get useful information from the website now.” は取組の成果を示している。最後に “It is important to help them with many different languages.” とたけるが最も伝えたいことを、表現を変えて繰り返し、全体として問題とその解決という構成にしている。

出題の趣旨

社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる。

「要点を捉える」とは、話し手が伝えようとする最も重要なことは何であるかを判断して捉えることである。そのためには、ある程度の情報が入ったまとまりのある説明などを聞き、より重要な情報は何かを判断する必要がある。

英語5は、社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかを把握するために、住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する問題とした。

■学習指導要領における目標

聞くこと

ウ　はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

聞くこと

(ｴ) 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を聞き取る活動。また、その内容を英語で説明する活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
5		1	1　と解答しているもの	16.0	
		2	2　と解答しているもの	56.0	◎
		3	3　と解答しているもの	11.8	
		4	4　と解答しているもの	15.9	
		0	無解答	0.2	

（N= 861,464 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 56.0%である。住みやすいまちづくりについての発表を聞き、話し手が最も伝えたいことを選択する本問では、社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることに課題がある。解答類型１の反応率が 16.0%、解答類型３の反応率が 11.8%、解答類型４の反応率が 15.9%と、どの解答類型も 10%以上の生徒が選択している。

○　解答類型１、３、４に該当する生徒は、それぞれ、まちの現状、改善するための取組、取組の成果を、たけるが最も伝えたいことであると誤って捉えており、文章の構成を理解することができていないと考えられる。また、本問のようなまとまりのある内容の英語の音声を聞くことに慣れておらず、聞き取ることができた情報をそのまま話し手が最も伝えたいことであると判断した生徒も含まれていると考えられる。

○　令和５年度【中学校】英語4では、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみるために、水問題についての話を聞き、話し手が最も伝えたい内容を選択する問題を出題し、正答率は 55.3%であった。今回の結果から、社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることに引き続き課題があると考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）要点を捉えるための手がかりとなる語句や表現に着目して聞き、文章の構成を理解する

話を聞いて、要点を捉えることができるようにするためには、話題を把握した上で、意見とその理由、問題提起とその解決策の提案など、文章の構成を意識して英語の音声を聞くように指導することが大切である。

例えば、英語５においては、文章の構成が、たけるが住むまちの現状、たけるが最も伝えたいこと、改善するための取組、取組の成果、となっていることを理解することが大切である。文章の構成を理解するためには、 “I think …” “We need to …” といった表現から、話し手が最も伝えたいことであると判断したり、文と文の関係が、改善するための取組とその取組の成果といった関係になっていることを判断したりすることが大切である。さらに、音声スクリプトを読んで文章を確認した後､要点を捉えるための手がかりとなる語句や表現に着目して､再度、英語の音声を聞かせることも考えられる。単元を通して、徐々に生徒が自分の力で音声を聞いて要点を捉えることにつなげていくことが重要である。

（２）話し手が最も伝えたいことだと判断した根拠を話し合う

英語を聞いた後で､聞き取った複数の情報を比較したり､文と文との関係を検討したりして、話し手が最も伝えたいことを捉えることが大切である。話し手が最も伝えたいことは何か、なぜそう考えるのかをペアやグループで話し合う際に、考えや意図を伝える表現や、例示をするための表現などに着目させることで、文章の構成を理解させることが大切である。

（３）言語活動の例

- 自分のまちを活性化させるための中学生の取組についての話を聞き、その中の重要な情報を聞き取る活動
- 学校で実践できる環境を守る取組についての話を聞き、話し手が最も伝えたいことを捉える活動

なお、英語５は「聞くこと」と「読むこと」の違いはあるが、英語10（１）と同じように「社会的な話題について、要点を捉えること」ができるかどうかをみる問題である。そのため、「社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えること」ができるようにする指導も併せて行うことが考えられる。

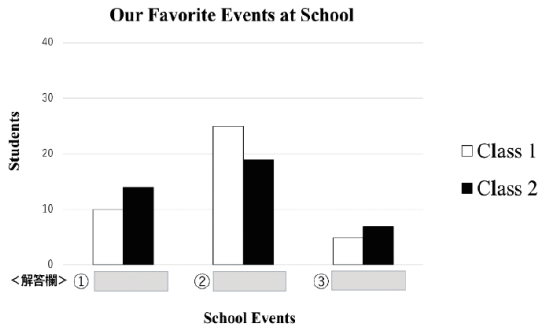
●読むこと
英語 6　音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して読む

次の【文章】を読み、【グラフ】の中の①②③の　　に入る学校行事を、下の＜選択肢＞の中からそれぞれ１つ選び、＜解答欄＞に移動させなさい。

【文章】

The students in Class 1 and Class 2 chose their favorite school events from the music festival, the school trip, and the sports festival. They like the school trip the best. The sports festival is more popular in Class 2 than in Class 1. Only a small number of students in both classes chose the music festival.

【グラフ】



＜選択肢＞

School trip	Sports festival	Music festival

※実際の画面の配置とは異なっている。

出題の趣旨

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

「読むこと」の目標である、必要な情報を読み取ったり、概要や要点を捉えたりするためには、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。そのためには、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことにおける実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図るとともに、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うことが求められる。

英語 6 では、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために、文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する問題とした。

■学習指導要領における領域・内容

読むこと

内容（1）英語の特徴やきまりに関する事項

イ　符号

ウ　語、連語及び慣用表現

エ　文、文構造及び文法事項

■評価の観点

知識・技能

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
6		1	①Sports festival ②School trip ③Music festival と解答しているもの	67.7	◎
		2	①Sports festival のみ正しく解答しているもの	5.3	
		3	②School trip のみ正しく解答しているもの	5.4	
		4	③Music festival のみ正しく解答しているもの	9.7	
		5	①②③とも正しく解答していないもの	10.5	
		99	上記以外の解答	0.3	
		0	無解答	1.1	

（N= 861,464 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 67.7%である。文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する本問では、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して読むことはおおむねできている。解答類型２の反応率 5.3%、解答類型３の反応率 5.4%と比較すると、誤答の中では解答類型４の反応率が 9.7%、解答類型５の反応率が 10.5%と高い。

○　解答類型４に該当する生徒は、“Only a small number of students in both classes chose the music festival.” というグラフに関する情報を読み取ることはできているが、“They like the school trip the best. The sports festival is more popular in Class 2 than in Class 1.” など、比較級や最上級を用いたグラフに関する情報を読み取ることに課題があると考えられる。

○　解答類型５に該当する生徒は、どのグラフに関する情報も読み取ることができていないと考えられる。“Only a small number of students in both classes chose the music festival.” というグラフに関する情報を読み取ることと “They like the school trip the best. The sports festival is more popular in Class 2 than in Class 1.” など、比較級や最上級を用いたグラフに関する情報を読み取ることに課題があると考えられる。

○　令和５年度【中学校】英語 5 （１）では、情報を正確に読み取ることができるかどうかをみるために、ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する問題を出題し、正答率は 56.6%であった。

３．学習指導に当たって

（１）意味のまとまりを捉えながら英文を読ませる

短い文章から情報を読み取るためには、文構造を適切に捉えることが大切である。英文を読む際には、主語と動詞、副詞句、前置詞句などの意味のまとまりを捉えながら読ませることが考えられる。修飾によって主語が長くなったり文の構造が複雑になったりしても、意味のまとまりを捉え、情報を読み取ることが大切である。

例えば、英語６においては、“The students in Class 1 and Class 2 chose their favorite school event from the music festival, the school trip, and the sports festival.” という文を読み、どの部分が主語で、どの部分が動詞であるかを考えさせ、“The students in Class 1 and Class 2” が主語で、“chose” が動詞であることを確認することが考えられる。また、“the best” “more” などの比較を表す表現や “only” などの限定する表現に着目して、文章を読ませることも考えられる。英語６のようにグラフや絵、写真などを説明する文章を理解するためには、“I” “you” 以外の “the sports festival” などの名詞が主語になる英文を読んだり、事実を伝えたりする活動を行うことも大切である。

これらの文章の意味を十分に理解させた上で、文の意味が聞き手に誤解なく伝わるように、意味のまとまりを意識して適切に区切りながら音読できるように指導することも考えられる。

（２）新出語句や分からない表現を各自で調べるようにする

生徒が文章を読む前に、単語カードやデジタル教科書の機能を用いて学級全体で新出語句や重要語句を指導する方法も考えられるが、生徒に文章を読ませ、新出語句や分からない表現を、教科書の巻末、辞書、１人１台端末を用いて、各自で調べたり、意味を推測させたりする時間を確保することも大切である。分からない表現は生徒それぞれで異なるため、生徒の学習状況に応じて個々で調べさせたり、調べた内容をペアや学級全体で共有したりして、複数の例文から語句や表現がもつ意味を理解させることも考えられる。

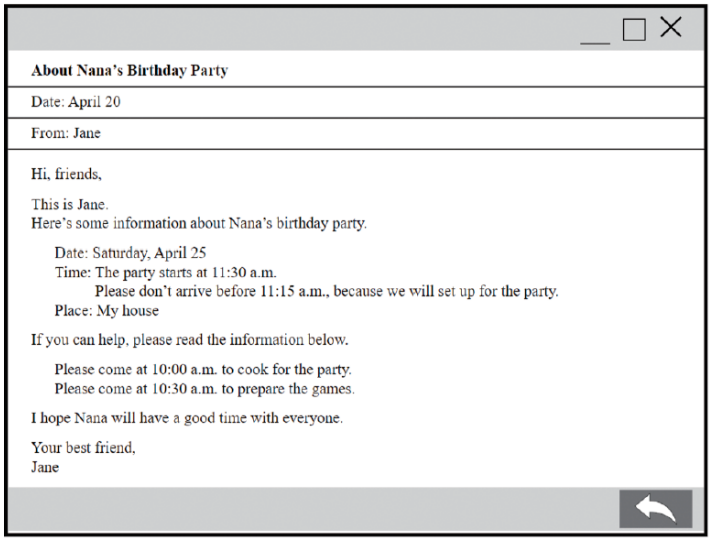
（３）学習活動の例

- 文章を読み、文中の主語と動詞はどこにあたるのかを確認したり、日本語との語順の違いを確認したりする活動
- 文章を読み、読んだ内容をイラストやグラフに表す活動
- 既習の語彙や文法事項などを含む文章を繰り返し読む活動

英語 7　目的に応じて、必要な情報を読み取る

あなたは、友達のナナ(Nana)の誕生日パーティーのために**料理をするのを手伝います**。主催者のジェーン(Jane)からの【メール】を読み、あなたがジェーンの家に行く時刻を、<解答欄>の１から４までの中から１つ選びなさい。

【メール】



About Nana's Birthday Party

Date: April 20

From: Jane

Hi, friends,

This is Jane.
Here's some information about Nana's birthday party.

Date: Saturday, April 25
Time: The party starts at 11:30 a.m.
Please don't arrive before 11:15 a.m., because we will set up for the party.
Place: My house

If you can help, please read the information below.

Please come at 10:00 a.m. to cook for the party.
Please come at 10:30 a.m. to prepare the games.

I hope Nana will have a good time with everyone.

Your best friend,
Jane

<解答欄>



(注) below: 下の

英語の文章の解説

“Here's some information about Nana's birthday party.” は、電子メールの用件の内容を示している。電子メールには、 誕生日パーティーの開催日、開始時間に関わる注意事項、準備を手伝ってくれる人へのメッセージなど､誕生日パーティーに関する様々な情報が含まれている。“Please come at 10:00 a.m. to cook for the party.” は、誕生日パーティーで料理をするのを手伝うためにジェーンの家に行く時刻に関する情報を示している。

出題の趣旨

日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。

「必要な情報を読み取る」とは、複数の情報が含まれるまとまりのある内容の英語を読み、書かれていることの全てではなく、読み手として目的に応じて知りたいことや欲しい情報などを読み取ることである。そのためには、書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて必要な情報を読み取ったり、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのかを判断した上で読み取ったりすることが求められる。

英語 7 では、日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうかを把握するために、誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する問題とした。

■学習指導要領における目標

読むこと

ア　日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

読むこと

(ｲ) 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
7		1	**1** と解答しているもの	72.8	◎
		2	**2** と解答しているもの	7.7	
		3	**3** と解答しているもの	12.8	
		4	**4** と解答しているもの	6.7	
		0	無解答	0.1	

（N= 295,754 人）

２．分析結果と課題

○ 正答率は 72.8%である。誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する本問では、日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができている。解答類型２の反応率 7.7%、解答類型４の反応率 6.7%と比較すると、誤答の中では解答類型３の反応率が 12.8%と高い。

○ 解答類型３に該当する生徒は、“Please don’t arrive before 11:15 a.m., because we will set up for the party.” が自分にとって必要な情報であると判断していると考えられる。“Please don’t arrive before 11:15 a.m., because we will set up for the party.” の文の意味が理解できていなかったり、“If you can help, please read the information below. Please come at 10:00 a.m. to cook for the party.” を読み飛ばしてしまったりしている可能性が考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にし、どのような情報を読み取らなくてはならないかを把握させる

目的に応じて、複数の情報が含まれる文章から必要な情報を読み取る言語活動を行うに当たっては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確にし、どのような情報を読み取らなければならないかを把握させることが重要である。書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、複数の情報から、自分にとって必要な情報とそうでない情報を区別して読み取る必要がある。

例えば、英語７においては、「誕生日パーティーで料理をするのを手伝うため」というコミュニケーションを行う目的に応じて、“Please come at 10:00 a.m. to cook for the party.” を必要な情報として読み取る必要がある。

言語活動を行うに当たっては、日常的な話題に関して、実際に英語が話される状況に近い場面を設定するなど、生徒自身がコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握し、情報を得たいと考えるようなものを教材とするなどの工夫をすることも大切である。

（２）自分にとって必要な情報に関連する語句や表現に着目して読ませる

自分にとって必要な情報は何か、何を読み取らなければならないかを明確にした上で、必要な情報に関連する語句や表現に着目して読むように指導することが大切である。

例えば、英語７においては、誕生日パーティーで料理をするのを手伝うために情報を得るというコミュニケーションを行う目的に応じて、“If you can help, …” “cook …” “Please come at …” といった語句や表現に着目させ、文章を読んで必要な情報を読み取るように指導することが考えられる。

関連する語句や表現については、ペアやグループ、学級全体で共有し、その後、関連する表現に着目して文章を読み、必要な情報とそうでない情報を判断しながら読むことができるように指導することも考えられる。

（３）言語活動の例

- 広告や予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動
- 取扱説明書から必要としている説明を読み取る活動
- スポーツクラブの複数のパンフレットを読み、自分が通うことのできる曜日に自分が体験したいスポーツを実施しているクラブはどれなのかを探す活動

なお、英語７は「聞き取ること」と「読み取ること」の違いはあるが、英語２と同じように「目的に応じて、必要な情報を捉えること」ができるかどうかをみる問題である。そのため、「目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ること」ができるようにする指導も併せて行うことが考えられる。

英語 8　自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る

あなたは、友達のジョン(John)から次の【メッセージ】を受け取りました。【メッセージ】の内容を基に、【４つのウェブサイト】から、ジョンに紹介するウェブサイトとして最も適切なものを、<解答欄>の１から４までの中から１つ選びなさい。タブを選択しただけでは、解答したことになりません。

【メッセージ】

John

How are you? I have a question. My friend, Bob, and his family are coming to our town next Friday and Saturday. Are there any good places to visit on Friday? They want to eat some sweets.

<解答欄>

○ 1　Hot Spring
○ 2　Nature Park
○ 3　Art Museum
○ 4　Temple

【４つのウェブサイト】（下の番号を選ぶとタブを切り替えられます）

1 2 3 4

www.thehotspring-spot.com

Hot Spring



■ **Experience**
This hot spring is on the mountain. You can see a very beautiful view from the bath if it's sunny.

■ **Opening hours**
Saturday and Sunday
10:00-17:00

1 2 3 4

www.naturepark-bike.com

Nature Park



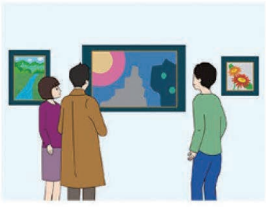
■ **Experience**
You can go around the park by bike and enjoy views. On the way, there is a famous Japanese sweets shop and you can eat some cake.

■ **Opening hours**
Sunday
10:00-17:00

1 2 3 4

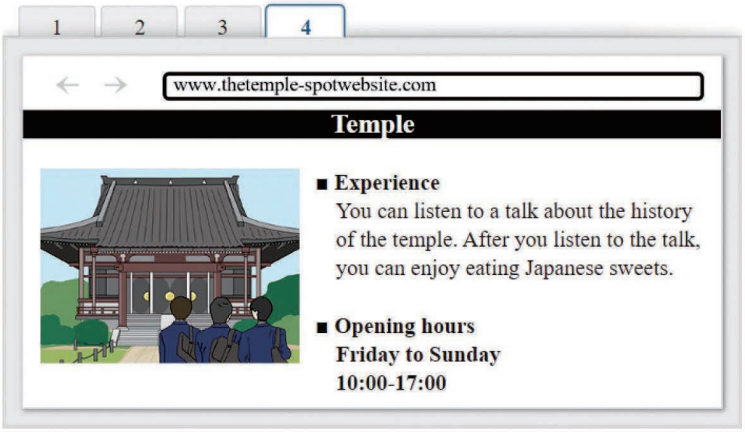
www.nature-art.website.com

Art Museum



■ **Experience**
This Art Museum is new. It has a lot of pictures of nature in our town. You can enjoy beautiful pictures of mountains.

■ **Opening hours**
Friday to Sunday
10:00-17:00



※実際の画面の配置とは異なっている。

英語の文章の解説

ジョンからの【メッセージ】にある、“I have a question.” は、読み手に尋ねたいことがあることを示している。“Are there any good places to visit on Friday?” はボブとその家族が都合のよい曜日を、“They want to eat some sweets.” は、ボブとその家族がしたいことを示している。【４つのウェブサイト】にある “Experience” は、それぞれの場所で体験できることを、“Opening hours” は、それぞれの場所の利用可能な曜日と営業している時間を示している。

出題の趣旨

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。

「必要な情報を読み取る」とは、複数の情報が含まれるまとまりのある内容の英語を読み、書かれていることの全てではなく、読み手として目的に応じて知りたいことや欲しい情報などを読み取ることである。そのためには、書かれていることの全てを読み取ろうとするのではなく、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて必要な情報を読み取ったり、自分の置かれた状況などから何が自分にとって必要な情報であるのかを判断した上で読み取ったりすることが求められる。

英語8では、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかを把握するために、友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する問題とした。

なお、英語7と英語8は、出題の趣旨において「必要な情報を読み取る」という点では共通しているが、両者には次の相違点がある。

英語7では、英語の文章を読む前から何を読み取ったらよいかが示され、目的に応じて、必要な情報を読み取ることが求められる。それに対し、英語8では、英語の文章を読む前は何を読み取ったらよいのかは示されておらず、ジョンからの【メッセージ】にある “Are there any good places to visit on Friday? They want to eat some sweets.” を読んで、初めて何を読み取ったらよいのかを把握し、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることが求められる。英語8における「自分の置かれた状況など」とは、「ジョンから【メッセージ】を受け取り、【４つのウェブサイト】を閲覧できる状況にあること」を指す。目的に応じて、必要な情報を読み取ることだけでなく、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることも大切であることから、両者を出題した。

■学習指導要領における目標

読むこと

ア　日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

読むこと

(ｲ)　日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
8		1	**1** と解答しているもの	10.1	
		2	**2** と解答しているもの	14.9	
		3	**3** と解答しているもの	10.7	
		4	**4** と解答しているもの	64.2	◎
		0	無解答	0.1	

（N= 282,886 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 64.2%である。友達からのメッセージを読み、相手が示した条件に合うウェブサイトを選択する本問では、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることはおおむねできている。解答類型１の反応率 10.1%、解答類型３の反応率 10.7%と比較すると、誤答の中では解答類型２の反応率が 14.9%と高い。

○　解答類型１に該当する生徒は、ボブとその家族が都合のよい曜日に関する情報とボブとその家族がしたいことに関する情報を読み取ることができていないと考えられる。

○　解答類型２に該当する生徒は、“there is a famous Japanese sweets shop” というボブとその家族がしたいことに関する情報を読み取ることはできているが、ボブとその家族が都合のよい曜日に関する情報を読み取ることはできていないと考えられる。

○　解答類型３に該当する生徒は、“Opening hours: Friday to Sunday” というボブとその家族が都合のよい曜日に関する情報を読み取ることはできているが、ボブとその家族がしたいことに関する情報を読み取ることはできていないと考えられる。

○　令和５年度【中学校】英語 6 では、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみるために、友達からのメールを読んで、相手が示した条件に合うイベントを選択する問題を出題し、正答率は 36.7%であった。

３．学習指導に当たって

（１）自分の置かれた状況を理解させた上で、文章などを読ませる

自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるようにするためには、問題文から得られる情報を理解したり、文章を読む中で、読む目的やどのような情報を読み取るべきかを明確にしたりすることが求められる。例えば、英語８においては、「ジョンから【メッセージ】を受け取り、【４つのウェブサイト】を閲覧できる状況にあること」が、自分の置かれた状況となる。授業では、“We have a message from John. He is one of your friends.”などと、ALTの話を聞いたり、教師とやり取りしたりすることを通して、自分の置かれた状況を理解させることが考えられる。その上で受け取ったメッセージを読み、おすすめの場所を選ぶために読むという目的を把握したり、“Are there any good places to visit on Friday? They want to eat some sweets.”から、相手が求めている条件を理解したりすることが重要である。このように自分の置かれた状況と読む目的、読み取るべき情報の条件から判断して必要な情報とそうでない情報を整理しながらウェブサイトに書かれている文章などを読むことが大切である。

（２）文章を読み、どういった情報を読み取らなくてはならないかを把握させる

言語活動を行うに当たっては、自分の置かれた状況を理解した上で、文章を読み、どういった情報を読み取ればよいかを把握させることが重要である。読み取るべき情報に関連する語句や表現に着目して、自分の置かれた状況などから、自分にとって必要な情報とそうでない情報を整理しながら読み、必要な情報を読み取ることができるように指導することが重要である。

例えば、英語８においては、ジョンからの【メッセージ】にある“Are there any good places to visit on Friday? They want to eat some sweets.”を読み、【４つのウェブサイト】から「金曜日に甘いものを食べることができる場所」が必要な情報であることを把握させることが大切である。

（３）言語活動の例

- 友達からのメールを読み、自分の置かれた状況などから判断して、複数のイベントのパンフレットから、相手が示した条件に合うイベントはどれかを、友達に提案する活動
- ALTからのメールを読み、自分の置かれた状況などから判断して、複数のウェブサイトから、ALTが示した条件に合う旅行先はどれかを、ALTに提案する活動

なお、英語８は「聞き取ること」と「読み取ること」の違いはあるが、英語３と同じように「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を捉えること」ができるかどうかをみる問題である。そのため、「自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ること」ができるようにする指導も併せて行うことが考えられる。

英語9　短い文章を読み、概要を捉える

次の文章は、留学生(exchange student)のジャック(Jack)が日本の学校で体験したことを題材にした【物語】です。「**【物語】のはじめから終わりまで、ジャックの気持ちがどのように変化したかをまとめたもの」として**最も適切なものを、＜解答欄＞の１から４までの中から１つ選びなさい。

【物語】

Jack studied Japanese at school when he was in Australia. The school decided to send him to Japan as an exchange student, so he was excited about studying in Japan.

At school in Japan, Jack made a short speech in Japanese. When he was speaking Japanese, he made mistakes. He thought his classmates did not understand his speech. He felt sad, but he finished his speech.

Later at lunch time, a girl came to Jack and said, "I'm Misato. Your speech was great! I was able to understand your Japanese." Jack smiled and said, "Thank you for your kind words." He felt happy. After that, he tried to use Japanese more.

＜解答欄＞

○ 1　Jack was excited about studying in Japan.
At school in Japan, he felt happy when he heard Misato's kind words.
Later, he felt sad during his speech in Japanese.

○ 2　Jack studied Japanese at school in Australia.
At school in Japan, he felt happy when he heard Misato's kind words.
Later, he felt sad during his speech in Japanese.

○ 3　Jack was excited about studying in Japan.
At school in Japan, he felt sad during his speech in Japanese.
Later, he felt happy when he heard Misato's kind words.

○ 4　Jack studied Japanese at school in Australia.
At school in Japan, he felt sad during his speech in Japanese.
Later, he felt happy when he heard Misato's kind words.

英語の文章の解説

この物語は、ジャックが日本の学校で体験したことを題材にしており、"when he was in Australia" "At school in Japan" "Later at lunch time" の３つの場面がある。"Jack studied …" "Jack made …" "a girl came …" は３つの場面での登場人物の行動、"excited" "sad" "happy" はそれぞれ３つの場面でのジャックの気持ちとなっている。物語のはじめから終わりまでのジャックの気持ちは、" excited " " sad " " happy " の順に変化し、それらをまとめたものが物語の概要となっている。

出題の趣旨

日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる。

「概要を捉える」とは、物語文や説明文などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじ、書き手が述べていることの大まかな内容などを捉えることである。物語の概要を捉える際には、物語全体の時間の流れや場所などの場面に沿って、登場人物の行動や出来事と、その時の心情に着目して文章を読むことが重要である。また、説明文の概要を捉える際には、段落ごとに、その話題と主な内容を把握し、それらを段落間の関係に沿ってつなぐことが重要である。

英語9では、日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかを把握するために、物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する問題とした。

■学習指導要領における目標

読むこと

イ　日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

読むこと

(ｳ) 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
9		1	**1** と解答しているもの	7.3	
		2	**2** と解答しているもの	14.9	
		3	**3** と解答しているもの	49.2	◎
		4	**4** と解答しているもの	28.5	
		0	無解答	0.1	

（N= 282,824 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 49.2%である。物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する本問では、日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることに課題がある。解答類型１の反応率 7.3%、解答類型２の反応率 14.9%と比較すると、誤答の中では解答類型４の反応率が 28.5%と高い。

○　解答類型２に該当する生徒は、１つ目の場面 “when he was in Australia” における出来事 “Jack studied Japanese at school” を捉えることはできているが、その時のジャックの気持ち “excited” を捉えることができていない可能性が考えられる。さらに、２つ目の場面 “At school in Japan” と３つ目の場面 “Later at lunch time” における出来事とジャックの気持ちを誤って捉えていると考えられる。

○　解答類型４に該当する生徒は、３つの場面に沿った出来事を捉えることができているが、物語の１つ目の場面 “when he was in Australia” におけるジャックの気持ち “excited” を捉えることができていない可能性が考えられる。

○　令和５年度【中学校】英語 7 （２）では、日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみるために、図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する問題を出題し、正答率は 35.2%であった。今回の結果から日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることに引き続き課題があると考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）「場面」、「出来事」、「登場人物の気持ち」を把握させる

物語を読んで、概要を捉えるためには、まとまりのある文章を最初から最後まで読み、特定の部分にのみとらわれることなく、登場人物の行動や気持ちの変化、全体のあらすじなど、大まかな内容を捉えることが重要である。

言語活動を行うに当たっては、「場面」、「出来事」、「登場人物の気持ち」を把握することが必要である。「場面」を把握するには時間的な場面の移り変わりや、空間的な場面の移り変わりを表す表現に着目して読んだり、「出来事」を把握するには動詞などに着目して読んだりすることが考えられる。「登場人物の気持ち」を把握するには、形容詞や動詞など明示的に心情が書かれている表現に着目して読むだけでなく、登場人物の言動などから「登場人物の気持ち」を推測

することも重要である。

授業においては、「場面」、「出来事」、「登場人物の気持ち」に着目して物語を読んだ後、ペアやグループで「場面」を確認し、「場面」ごとに「出来事」と「登場人物の気持ち」を整理する活動が考えられる。

例えば、英語9においては、“when he was in Australia” “At school in Japan” “Later at lunch time”という３つの「場面」ごとに、“Jack studied …” “Jack made …” “a girl came …” という「出来事」と、“excited” “sad” “happy”という「登場人物の気持ち」を捉えていくようにする。

文章を読んで概要を捉える際には、説明文や物語など読んでいる文章に応じた指導を行うことが大切である。例えば、物語の場合には、登場人物の気持ちの変化に沿ったあらすじを概要として捉えることが考えられるが、説明文の場合には、段落と段落の関係を捉えた上で、各段落の主な内容を集めたものを概要として捉えることが考えられる。このように、読んでいる文章に応じて様々な概要の捉え方を指導することが求められる。

（２）概要として最も適切なものを選ばせたり、物語の概要を英語で表現させたりする

物語を読んで、その概要を捉えることができたかどうかを確認するために、物語の概要としてまとめた複数の文章を読み、概要として最も適切なものを選ばせたり、物語の概要を話したり書いたりさせることが大切である。概要として最も適切なものを選ぶ際は、なぜ選んだ文章が概要としてふさわしいのか、グループや学級全体で検討することが考えられる。物語の概要を英語で書く際には、ある場面から次の場面への移り変わりに着目し、“then” “after that” などの表現を用いて書いたり、異なる登場人物の視点から物語の概要を書いたりすることが考えられる。これらの活動を行った後で、場面の移り変わりや、それぞれの場面での出来事の関連、登場人物の気持ちの変化などを整理し、概要を捉えることができているかをペアやグループ、学級全体で共有することが考えられる。

（３）言語活動の例

- 物語などの文章全体を読んだ上で、時系列に情報を整理したり、大まかな内容などを把握したりする活動
- 友人や教師が休日を過ごした中で感じたことが書かれた日記などを読み、出来事を時系列に沿って整理し、伝えようとしている内容を絵や簡単な英語で表現する活動

英語9は「聞くこと」と「読むこと」の違いはあるが、英語4と同じように「日常的な話題について、概要を捉えること」ができるかどうかをみる問題である。そのため、「日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えること」ができるようにする指導も併せて行うことが考えられる。

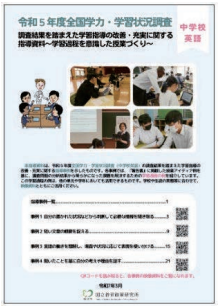
○関連する指導資料　※画像をクリックするとリンク先にアクセスできます。

・中学校英語指導事例集（令和７年３月）
「短い文章の概要を捉える」

映像資料



指導資料



授業アイディア例２　短い文章を読み、概要を捉える

１．関連する問題の正答率

英語 9　正答率　49.2%　　調査問題（クリック、読み込み）

２．中学校学習指導要領における目標

読むこと　イ　日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。

3．単元計画

（１）単元の目標

考えたことや感じたことを伝え合うために、物語を読んで、概要を捉えることができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・to 不定詞の特徴やきまりを理解している。 ・to 不定詞などの特徴やきまりの理解を基に、物語の内容を読み取る技能を身に付けている。	考えたことや感じたことを伝え合うために、物語を読んで、概要を捉えている。	考えたことや感じたことを伝え合うために、物語を読んで、概要を捉えようとしている。

※「記録に残す評価」は第８時と後日に行う。

（３）単元展開

時間	■ねらい	
	知 知識及び技能　聞 聞くこと　読 読むこと や 話すこと［やり取り］発 話すこと［発表］書 書くこと 促したい生徒の気付き、振り返り	※指導上の留意点
1 2	**■単元の目標を理解する。** 聞　教師が好きな物語の題名と主人公に関する情報を聞く。 読　教師が好きな物語の概要が書かれた文章を読む。 や　ペアでその物語の概要を読んで感じたことや考えたことをやり取りし、単元の目標を理解する。 考えたことや感じたことを伝えるために、物語の大まかな流れを捉えていこう。  知　to 不定詞の特徴やきまりなどについて理解し、物語のある場面を英語で描写する。	※物語の主人公の設定を明確にする。 ※概要として、場面、出来事、登場人物の気持ちが書かれている文章を提示する。 ※第３時以降も to 不定詞の指導を継続して行う。
3	**■教科書の登場人物が紹介している物語を読み、場面を把握する。** 読　to 不定詞を含む教科書の登場人物が紹介している物語を読み、どのような場面があるか把握する。 読　物語の流れに沿って場面ごとの絵を並べ替える。 読　絵の並び順の理由をペアや学級全体で共有する。その際、場面の移り変わりを表す表現を確認する。	※物語の概要を捉えるために、場面を把握することを確認する。 ※時間的、空間的な場面の移り変わりを表す表現に着目させる。

	読　並べ替えた絵を用いて、場面の移り変わりを表す表現を用いて、物語を再話する。 時間や場所を表す表現に着目すると、場面を把握できた。	
4	**■教科書の登場人物が物語について話している対話文を読み、それぞれの場面における出来事、登場人物の心情を捉える。** 読　to 不定詞を含む対話文を読み、出来事や登場人物の気持ちに触れながら、感じたことや考えたことを伝え合っていることを理解する。 読　第３時で扱った物語を再度読んで、場面ごとに出来事と登場人物の心情をワークシートなどに整理する。 や　物語を読んで、感じたことや考えたことをペアで伝え合う。 場面ごとに出来事とその時の登場人物の気持ちを整理していくと、物語の概要を捉えやすかった。	※場面ごとに出来事や登場人物の気持ちを捉えることが、物語の概要を捉えることにつながることを確認する。 ※出来事を捉えるために動作を表す動詞に着目したり、気持ちを捉えるために形容詞や登場人物の言動に着目したりすることを確認する。
5 6	**■日本人留学生の海外での体験記を読み、概要を捉える。** 読　日本人留学生の海外での体験記を読み、場面を捉え、ペアやグループで確認した後、学級全体で場面の移り変わりを表す表現を共有する。 読　それぞれの場面における出来事と主人公の気持ちを、ワークシートなどを使って整理する。 書　日本人留学生の海外での体験記を再度読み、ワークシートに整理した内容を基に、その概要を書いて、学級全体で共有する。その際、場面ごとの出来事と心情を捉えているかという視点で見直す。 や　日本人留学生の体験記を読んで感じたことや考えたことを伝え合う。 場面、出来事、登場人物の気持ちの順で書くと、概要を書くことができそう。	※時間的、空間的な場面の移り変わりを表す表現に着目して文章を読ませる。 ※概要を捉えるための支援として、それぞれの場面における出来事や登場人物の気持ちを整理するためのワークシートを用意する。
7 本時	**■中学生の体験記を読んで、その概要を捉える。**	
8	**■ALT の日本での体験記を読んで、その概要を捉え、感じたことや考えたことを伝え合う。** 読　ALT の日本での体験記を読んで、その概要を捉える。 書　ワークシートに整理した内容を基に、その概要を書いてまとめる。 や　体験記を読んで感じたことや考えたことを伝え合う。 これまでの学習を生かして、場面、出来事、登場人物の気持ちに着目して読むことで、概要を捉えることができた。	※第７時と同様の活動を繰り返し、生徒自身の力で概要を捉えることができるようにする。
後日	■ペーパーテスト　（令和８年度全国学力・学習状況調査　中学校英語9など）	

４．第７時の展開案

１．コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握する

ポイント　意欲を高めたり、活動の見通しをもたせたりするために、「登場人物について考えたことを伝え合うために」というコミュニケーションを行う目的を明確にします。


生徒

We read two stories in the textbook. What do you think about them?

The story about a Japanese exchange student was interesting. I want to go abroad and try many things.


Mr. Li (ALT)


教師

Both stories were very impressive. Each character had interesting experiences. Then, I remembered a story of one student.

I'm interested in the story. Today read the story, and get the outline first. Later, talk about the characters. I want to know your thoughts about them.

２．物語を読み、場面ごとに分ける

ポイント　登場人物を確認した上で、個人で物語全体を通して読ませ、時間的な場面の移り変わりを表す表現などを手がかりにしながら、場面がどこで区切れるかを考えさせます。生徒自身が考えてまとめることができるようにするために、単元を進めるにつれて支援を減らしていきます。



When you are reading the story, underline the key phrases to get the outline.

Saki, a Japanese junior high school student, loved studying English. One Friday, her teacher asked her to make a welcome poster in English for the new ALT. He will come next Thursday. Saki felt excited to make it. She spent a lot of time for making the poster. Alex, her classmate, saw her making it. He was disappointed because their teacher didn't ask him to do it. Next Tuesday, while Saki was painting, Alex talked to her. At that time, he bumped into a bucket and spilled water on the poster. The pictures and letters disappeared, and she was shocked. The next day, Saki was going to the teacher's room to say she could not finish the poster. Then, Alex came and handed a new sheet of paper for the poster, and said "I'm very sorry, Saki. Let me help you." "Thank you," she said with a big smile.

今日は、自分で考えて場面を分けて、出来事や気持ちを整理しないといけないので、前の時間に使った表形式でまとめてみよう。



□

Scene	Event	Feeling
One Friday		
Next Tuesday		

生徒が書いたメモ（例）

生徒が自分で場面、出来事、気持ちを整理できるように、生徒の学習状況に応じて、第４時や第５時での学習を想起させます。

辞書や１人１台端末を活用し、自分に合った調べ方で分からない表現を確認させます。

時間的な場面の移り変わりを表す表現等に着目して場面を捉える

How many scenes are there?

There are three scenes.

What are the key phrases that change from the 1st scene to the next scene?


生徒


教師

They're "One Friday" and "Next Tuesday."

Are there any other scenes?

"The next day" is the last scene.

How about "next Thursday" in the 2nd line?



新しい ALT の先生が来る日のことで、場面は変わっていないと思います。
We have three scenes.

3．場面ごとの出来事と登場人物の気持ちを整理して概要を捉える

ポイント　概要を捉えるために、場面ごとの出来事と登場人物の気持ちの変化を把握させます。出来事を把握するために動詞に着目させたり、気持ちを把握するために形容詞や登場人物の言動に着目させたりします。

What happened in each scene? How did Saki feel then? Let's check in your groups.

① The 3rd scene started with the phrase, "The next day." What happened in that scene?

② Alex passed a new sheet to Saki and said, "Let me help you."

③ How did Saki feel? Was she still sad?

④ Look at the last line. "With a big smile". She felt happy.

３つ目の場面では、気持ちを表している形容詞はありませんが、Saki の言動を表す表現から気持ちを捉えることができましたね。That's an important point to understand the feeling of the character.

☐

Scene	Event	Feeling
One Friday	make poster	excited
Next Tuesday	The pictures disappear	sad
On the next day	Alex passed a new sheet	

場面ごとの「出来事」「気持ち」を書き加えた生徒のメモ（例）

数名の生徒を指名し、場面ごとの出来事や気持ちの変化を整理して、概要を捉えることができているかを確認することで、４の活動へのステップとします。

Can you tell Mr. Li the outline of the story? What happened in each scene? How did Saki feel in each scene? You can check your notes on your tablet.

（まとめた表を見ながら）One Friday, Saki started to make a poster, and she was excited. Next Tuesday, Alex spilled water on the poster. So, she became sad. On the next day, Alex said, "I'm sorry" and he tried to help Saki. She was very happy.

概要を捉えることができているかを確認するために、次のような活動も考えられます。
・Saki や Alex などの登場人物の視点から物語の概要を伝える活動
・物語を読んでその概要を書く活動
・概要として書かれた複数の文章からふさわしい概要はどれかを理由とともに伝え合う活動

4．概要を踏まえ、考えたことや感じたことを伝え合う

ポイント　物語の概要を適切に捉えるとともに、概要を捉える必要感をもたせるために、出来事や心情の変化から、登場人物について考えたことや感じたことを伝え合うなどの活動を設定します。

You told me the scenes, events, and Saki's feeling, so I understood the story well. Now, let's talk about the characters. I think Saki is hard-working. Maybe she made a nice poster for the new ALT. What do you think about Saki?

Saki worked hard with Alex, and maybe they became good friends.

I think so too. How about Alex? What do you think about him?

Alex is kind. He passed a new sheet for the poster and tried to help Saki.

コラム②

【物語を読んで概要を捉えるために】

令和８年度調査 英語9は、留学生が日本の学校で体験したことという日常的な話題を題材にした物語を読み、「はじめから終わりまで、留学生の気持ちがどのように変化したかをまとめたもの」として最も適切なものを選ぶ問題です。中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説には、「読むこと」の領域で「概要を捉える」ことについて、「例えば物語などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど、書き手が述べていることの大まかな内容を捉えること」(p. 21）と述べられています。これに基づくと、英語9のように物語の登場人物の気持ちの変化を読み取ることは、外国語科において「大まかな内容」、すなわち「概要」を捉えることの一側面と理解できます。

物語の概要を捉えるには、「登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじなど」を読み取ることが重要です。「登場人物の行動の変化」は動作を表す動詞などを手がかりに、また「全体のあらすじ」は、時間的、空間的な場面の移り変わりを表す表現や、段落の区切りなどをたどりながら捉えることができます。そして「登場人物の気持ちの変化」を読み取るためには、文章に含まれる感情を表す表現などに着目しながら、全体を読み通すことが求められます。英語9でも、３つの場面それぞれにおける留学生の気持ちが “excited” “sad” “happy” という語で表されており、それらをすべて含めた選択肢を概要と判断する必要があります。

令和５年度調査 英語7（２）では、図書館という生徒に身近な施設を日常的な話題として設定し、その変化について述べた複数段落から成る説明文を読み、概要として最も適切なものを選択する問題がありました。説明文の「概要を捉えること」は、「ある話題について書き手が述べている具体や主張、理由、根拠などの大まかな内容を文章全体の構成に沿って読み取ること」（「令和５年度全国学力・学習状況調査報告書 中学校 英語」p. 48）と整理され、段落の区切りが、話題の切り替わりを捉える手がかりになります。この問題でも、段落ごとに話題と主な内容を把握し、それらを段落間の関係に沿ってつなぎ合わせていくことにより、文章全体の概要（大まかな内容）を読み取ることが求められました。

また、令和８年度調査 英語4でも、職場体験という日常的な話題についての発表を聞き、話し手が体験した順に絵を選択する形式で、概要を捉える問題があります。中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説には、「聞くこと」の領域で「概要を捉える」ことについて、「１つの話題に沿って話されるものなど、内容に一貫性のある英語を最初から最後まで聞き、一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、全体としてどのような話のあらましになっているのかを捉えること」(p. 19）と述べられています。話し手が「いつ」「何をしたのか」を把握する手がかりになるのが、時や場面の移り変わりを表す表現（“In the morning” “After lunch” “Finally”）と、動作を表す動詞（“I made …” “I picked …” “I cleaned …”）です。

このように、まとまりのある文章の「概要を捉える」ためには、説明文や物語文などのテキストタイプに応じて、適切な手がかりをたどることが大切です。

さらに、まとまりのある文章の「概要を捉える」ことは、「要点を捉える」ことと深く関連しています。つまり、「一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、文章全体を読み通す」（「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語編」p. 21）ことは「概要を捉える」ことと共通ですが、「要点を捉える」ためには、「聞くこと」では「話し手が伝えようとする最も重要なことは何であるかを判断して捉える」（同 p. 19）、「読むこと」では「文章から複数の情報を取り出し、どの情報がその説明の中で最も重要であるかを判断する」（同 p. 21）といった情報の精査や重要度の判断が含まれます。「概要を捉える」ことが、「要点を捉える」ことの基盤となることからも、その指導を丁寧に行うことが大切です。

中学校国語科では、第 1 学年において、構造と内容の把握の学習過程に位置付けられている文学的文章に関する事項として、「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること」があります。描写とは、物事の様子や場面、登場人物の行動や心情などを、読み手が言葉を通して具体的に想像できるように描いたものです。心情は直接描写される場合もあれば、人物の関係や行動、会話、情景などを通して暗示的に表される場合もあります。そのため、細部の描写にも着目しながら物事の様子や場面、行動や心情などの変化を丁寧に捉えていくことが求められています。

こうした国語科での学びを基盤としつつ、外国語科においても、描写を手がかりに心情を捉えるプロセスは共通しています。外国語科における心情の把握は、主に物語の「概要を捉える」ための一要素として位置付けられており、全体の流れに沿って心情の変化を捉えることが重視されます。ここでのねらいは、得られた理解を「自分の考えや気持ちを伝え合うための土台」として最大限に活用し、実際のコミュニケーションへと繋げていくことにあります。

では、「概要を捉える力」を実際の授業でどのように育むことができるでしょうか。まとまりのある文章の全体像をつかもうとする意識を育むために、時や場面の移り変わりを表す表現などをすばやく捉える読む活動を取り入れることができます。また、情報の整理を助けるためには視覚ツールが有効です。物語であれば登場人物の変化を折れ線で表してみたり、説明文であれば、段落ごとの要旨をマッピングしたりする活動ができます。さらに、捉えた概要に自分の考えや感想を付け加えて伝え合うなど「発信」へと繋げるプロセスの確立も重要です。

概要を捉えることは、それ自体がゴールではありません。把握したストーリーや主張を、キーワードを頼りに自分の言葉で語り直すリテリング、あるいは「自分ならこの場面でどう感じるか」を簡潔な英語で共有し合うといった活動につなげます。こうした発信の場を設定することで、生徒にとって「概要を把握すること」が、単なる読解作業ではなく、自分の考えを伝えるための「意味のある準備」へと変わっていきます。国語科との読みの共通基盤を大切にしながらも、外国語科ならではの「コミュニケーションを目的とした読み」を意識することで、生徒がより目的意識を持って英語の文章に向き合えるようになると期待できます。

●読むこと、書くこと
英語 10　短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(１)と(２)の問いに答えなさい。

(１)【まいこが書いた文章】を読み、まいこが最も伝えたいことを、<解答欄>の１から４までの中から１つ選びなさい。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

<解答欄>

○ 1　Many junior high school students use the internet to play games.

○ 2　Junior high school students should use the internet for learning more often.

○ 3　There are many good videos for learning English.

○ 4　We can find the meaning of an English word quickly.

(２) まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

<解答欄> ※半角で入力してください

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか

※実際の画面の配置とは異なっている。

英語の文章の解説

“Today, many junior high school students use the internet to play games.” は、中学生の現状を示している。 “I think we should use the internet for leaning more often because it is useful.” は、まいこが最も伝えたいことを示している。“For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand.” は、インターネットの使用が学習に役立つ１つ目の具体例とその詳細を、“Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.” は、２つ目の具体例とその詳細を示している。

出題の趣旨

社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

「要点を捉える」とは、例えば、説明文などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、含まれている複数の情報の中から、書き手が最も伝えたいことは何かを判断して捉えることである。文章全体を読み通した上で、複数の情報を取り出し、どの情報がその説明の中で最も重要であるかを判断することが求められる。

また、「自分の考えとその理由を書く」とは、「聞いたり読んだりしたこと」の要点を捉え、自分が考えたことや感じたことなどを、その理由を交えて書くことである。その際、聞いたり読んだりした内容に関する賛否や自分の意見を述べたり、自分の意見や主張とその理由や根拠の関係を明確にしたり、内容を整理して述べたりすることなど、論点を明らかにしたり順序付けを行ったりすることにより、読み手にとって読みやすく分かりやすい文章を書くことが重要である。

英語10では、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることができるかどうかを把握するとともに、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかを把握することをねらいとしている。

設問（１）は、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることができるかどうかを把握するために、インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する問題とした。

設問（２）は、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかを把握するために、インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く問題とした。

設問（１）

趣旨

社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における目標

読むこと

ウ　社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

読むこと

(ｴ) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
10	(1)	1	**1** と解答しているもの	8.6	
		2	**2** と解答しているもの	48.1	◎
		3	**3** と解答しているもの	19.1	
		4	**4** と解答しているもの	23.9	
		0	無解答	0.2	

（N= 861,464 人）

２．分析結果と課題

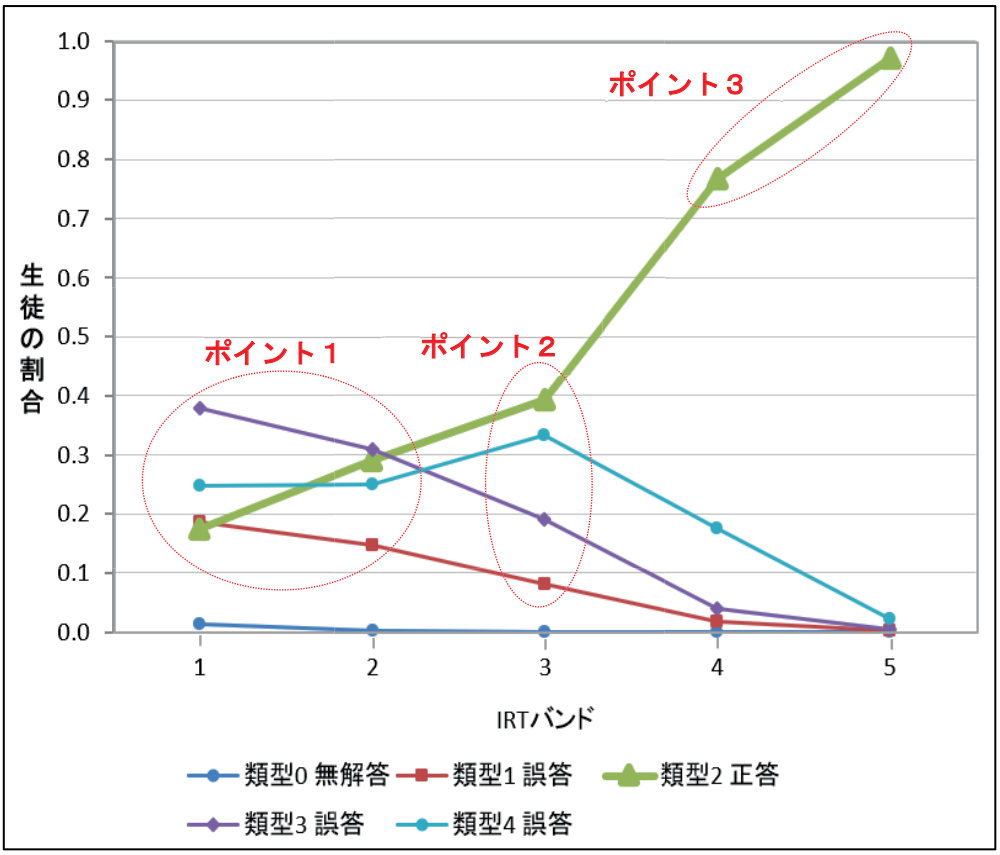
○　正答率は 48.1%である。インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する本問では、社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることに課題がある。解答類型１の反応率 8.6%と比較すると、誤答の中では解答類型３の反応率が 19.1%、解答類型４の反応率が 23.9%と高い。

○　解答類型３に該当する生徒は、インターネットの使用が学習に役立つ具体例を、まいこが最も伝えたいことであると誤って捉えていると考えられる。選択肢３の英文が　“many” “good” といった主観を表す形容詞を用いており、書き手が最も伝えたいことだと誤って捉えた可能性が考えられる。あるいは、 “I think …”や “we should …” などの表現を、書き手が伝えたいことを表す表現だと判断することができなかった可能性も考えられる。

○　解答類型４に該当する生徒も、解答類型３と同様に、インターネットの使用が学習に役立つ具体例を、まいこが最も伝えたいことであると誤って捉えていると考えられる。選択肢４の英文が “We can find …” と助動詞を用いており、書き手が最も伝えたいことだと誤って捉えた可能性が考えられる。あるいは、文章全体の最後に、選択肢４の英文が書かれているため、大事なことは文章の最後に書かれていると誤って捉えた可能性も考えられる。

○　令和５年度【中学校】英語 8 （１）では、社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみるために、ロボットについて書かれた英文を読み、書き手が最も伝えたい内容を選択する問題を出題し、正答率は 56.6%であった。今回の結果から、社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることに引き続き課題があると考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１に属する生徒の約４割、および IRT バンド２に属する生徒の３割以上が、誤答である解答類型３を選択している。また、IRT バンド１、２それぞれに属する生徒の２割以上が解答類型４、１割以上が解答類型１と解答している。つまり、IRT バンド１、２に属する生徒の多くが、「インターネットの使用が学習に役立つ具体例」または「中学生の現状」を「書き手が最も伝えたいこと」であると誤って捉えていると考えられる。指導に当たっては、英語で書かれた文章（意見文）には、「書き手が最も伝えたいこと」と、それを支える理由として具体例が書かれているという文章の構成があることを理解させることが考えられる。

【p.80「学習指導に当たって」（１）】

・ポイント２について

IRT バンド３に属する生徒は、IRT バンド１、２に属する生徒と比較すると誤答である類解答類１、３を選択する割合は低くなっているが、３割以上が解答類型４を選択している。文章における「書き手が最も伝えたいこと」と「その具体例」という文と文との関係を捉えることができていないと考えられる。指導に当たっては、“I think …” や “We should …” などの考えを伝える表現や “For example” などの具体例を表す表現に着目させて文と文との関係を捉えるようにすることが大切である。その際、書き手が最も伝えたいことだと判断した根拠を話し合う活動を行い、事実と考えに分けて文章の構成を確認させることも考えられる。

【p.80「学習指導に当たって」（２）（３）】

・ポイント３について

IRT バンド４に属する生徒の７割以上、および IRT バンド５に属する生徒の９割以上は、正答である解答類型２を選択しており、相当数の生徒が、インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択することができていると考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）英語で書かれた文章の構成を理解させる

英語で書かれた文章（意見文）を読んで要点を捉えさせるには、文章の構成の１つとして、文章が「書き手が最も伝えたいこと（主張）」と、それを支える理由（例示・経験・比較など）で構成されていることを指導することが大切である。文章を読む前に、あらかじめ「意見文には主張と理由が書かれている」という文章の構成があることを理解することができていれば、生徒は全体の展開を見通しながら文章を読み進め、要点を捉えることにつながると考えられる。

（２）文と文との関係を捉え、文章の構成を理解させる

社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えるためには、特定の部分にのみとらわれることなく、文章全体を通して読み、文と文との関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落との関係などの文章の構成を理解することが大切である。

言語活動を行うに当たっては、文と文との関係を把握することなどを通して、文章から取り出した複数の情報を比較することで、どの情報が最も重要であるかを判断し、書き手が最も伝えたいことを捉えることが重要である。

例えば、英語 10（１）においては “I think we should use the internet for leaning more often because it is useful.” は、“I think …” や “We should …” などの考えを伝える表現、 “For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand.” は、“For example” という例を挙げる表現を用いていることから、インターネットの使用が学習に役立つという主張と、それを支える１つ目の具体例とその詳細であるという文章の構成を捉えることが大切である。

（３）書き手が最も伝えたいことだと判断した根拠を話し合う活動を設定する

文章を読んで、要点を捉えるためには、文章を読んだ後で、書き手が最も伝えたいことは何か、なぜそう考えたのかをペアやグループで話し合う活動などが考えられる。ペアやグループで話し合ったことを学級全体で共有する際に、事実と考えに分けて文章の構成を確認させたり、考えを伝える表現や、例示をするための表現などに着目させたりすることで、他の文章を読んでも要点を捉えることができるように指導することが大切である。

（４）言語活動の例

- 健康的な食生活、インターネットの使用、皆が過ごしやすい学校づくりなどの話題に関して書かれた教科書の登場人物の意見文を読み、書き手が最も伝えたいことを捉える活動
- スピーチ、新聞、ホームページなどへの投稿文の形式で書かれた文章を読み、書き手が最も伝えたいことを捉える活動
- 身近にあるロボットなどの科学技術に関して教師や ALT が書いた意見文を読んで、最も伝えたいことを捉える活動

なお、平成 31 年度（令和元年度）【中学校】英語 7 のように、複数の段落からなる文章を読んで、要点を捉えることも大切である。その際には、段落相互の関係を捉える指導などが考えられる。

英語 10（１）は、「聞くこと」と「読むこと」の違いはあるが、英語 5 と同じように「社会的な話題について、要点を捉えること」ができるかどうかをみる問題である。そのため、「社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えること」ができるようにする指導も併せて行うことが考えられる。

設問（２）

趣旨

社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における目標

書くこと

ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

書くこと

(ｴ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。

１．解答類型と反応率

問題番号			解　答　類　型	反応率（%）	正答
10	(2)		（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 条件①　書き手の意見に対する自分の考えを書いている。 〈解答欄〉の「あなたの考え」に該当する部分 条件②　条件①の理由を書いている。 〈解答欄〉の「なぜそう考えるのか」に該当する部分		
		1	条件①、条件②を満たして解答しているもの	22.8	◎
		2	文法事項など※に誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答しているもの	5.5	○
		3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	35.4	
		4	条件①を満たして解答しているが、条件②に関わる記述がないもの	8.2	
		5	条件①を満たしていないが、条件②を満たして解答しているもの	2.0	
		6	条件①に関わる記述はないが、条件②を満たして解答しているもの	0.2	
		7	条件①、条件②を満たさないで解答しているもの	9.6	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	2.0	
		0	無解答	14.4	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す。

（N= 861,464 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 28.4%である。インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書くという本問では、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型３の反応率が 35.4%、解答類型７の反応率が 9.6%、無解答の反応率が 14.4%と高い。

○　令和５年度【中学校】英語8（２）では、社会的な話題に関して読んだことについて、考えと理由を書くことができるかどうかをみるために、ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く問題を出題し、正答率は 20.1％であった。今回の結果から、社会的な話題に関して読んだことについて、考えと理由を書くことに引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

・Your opinion is good. Students can get a lot of information for learning on the internet.
・Yes, I do. Because we can practice and learn English for free on the internet.
・I agree with you. I often use the internet to study English.
・No, I don’t. Because the internet is not good for our eyes.

解答類型１に該当する生徒は、インターネットの使用に関して読んだことについて、考え（条件①）とその理由（条件②）を書くことができている。このことから、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができていると考えられる。

※解答欄を２つに分けているため、本問では Because から始まる従属節の単独使用は文法事項などの誤りには含めていない。

○　解答類型２の例

・_ Opinion is good. Because the internet has a lot of. information.　（所有格の欠落）
・I think your opinion is good. The video is easy in learning English.　（前置詞の誤り）
・Yes, I do. I think many good dictionaries is on the internet.　（be 動詞の誤り）
・No, I don't. Because internet sometimes making mistakes.　（動詞の活用の誤り）

解答類型２に該当する生徒は、英語の表現に関して、所有格の誤り、be 動詞の誤り、形容詞の誤り、前置詞の誤り、動詞の活用の誤り、軽微な綴りの誤りなど一部不正確な表現は見られるが、読み手に伝わる英語で書いている。

※解答類型３以降は、語順の誤り、主語の誤り、一般動詞の欠落、条件に関する記述なし、内容の矛盾などがあるため、「条件①」または「条件②」あるいはそのどちらも満たしていないとしている。

○　解答類型３の例

・I think your opinion is good. I think students will find is very good.
・I agree with you. I think paper dictionaries is more useful than internet.　（内容の矛盾）
・No, I don’t. The internet is not to play games.

解答類型３に該当する生徒は、自分の考え（条件①）を書くことはできているが、理由（条件②）を書くことができていない。

○　解答類型４の例

・Your opinion is good.
・I think we should use the internet.

解答類型４に該当する生徒は、自分の考え（条件①）を書くことはできているが、理由（条件②）に関わる記述がない。書く内容が思い浮かばなかった、あるいは書く内容は思い浮かんだが、理由を書くために必要な表現が身に付いていないことが考えられる。

○　解答類型５の例

・I think for learning English. We can get new ideas on the internet.
・I think my opinion is videos for learning English. Because they are easy to understand.

解答類型５に該当する生徒は、自分の考え（条件①）を書くことはできていないが、理由（条件②）を書くことはできている。書き手の意見に賛成したり、反対したりするなどの自分の考えを書くために必要な表現が身に付いていないと考えられる。

○　解答類型６の例

・There are a lot of information on the internet.
・There are many English dictionaries on the internet.

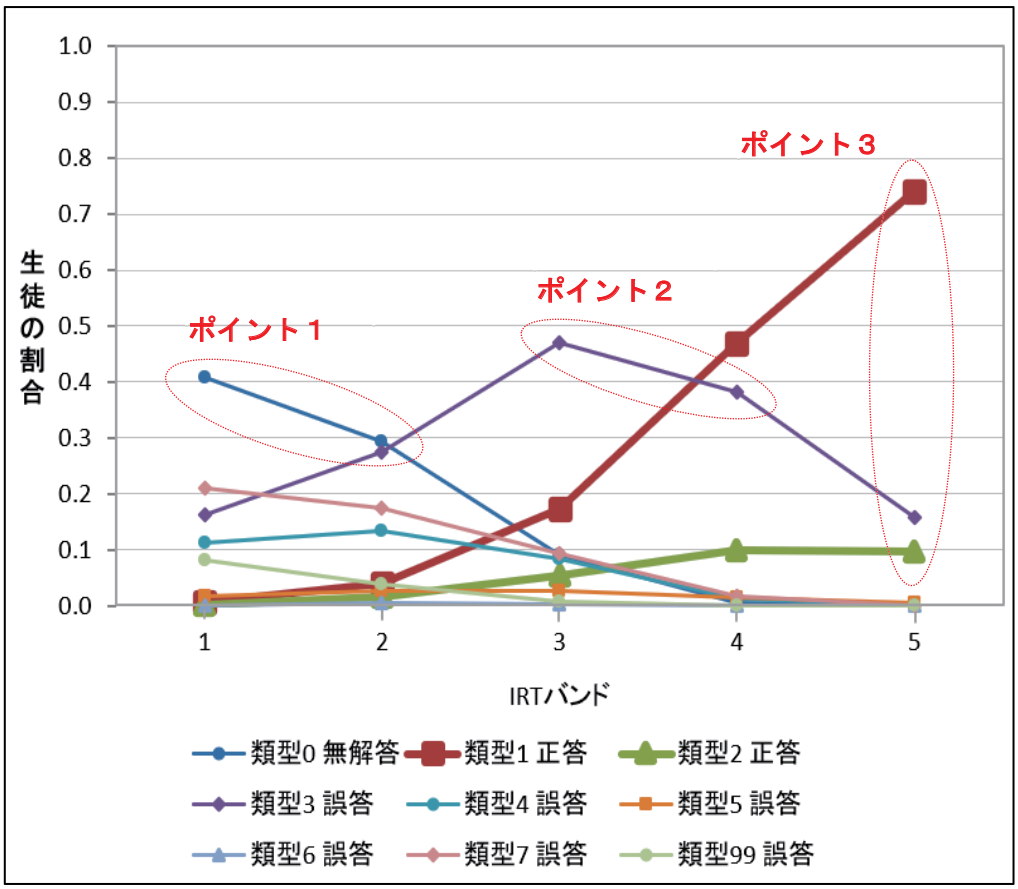
解答類型６に該当する生徒は、理由（条件②）を書くことはできているが、自分の考え（条件①）に関わる記述がない。書き手の意見に賛成したり、反対したりするなどの自分の考えを書くために必要な表現が身に付いていないと考えられる。

○　解答類型７の例

・I think should use to study good.
・I’m nice junior high school student learning English. I’m good dictionaries on the internet.
・I am leaning English because English word.
・You is good.

解答類型７に該当する生徒は、自分の考え（条件①）とその理由（条件②）を書くことができていない。書く内容が思い浮かばなかった、あるいは書く内容は思い浮かんだが、自分の考えとその理由を書くために必要な表現が身に付いていないと考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１に属する生徒の４割以上、および IRT バンド２に属する生徒の約３割が無解答である。書くことができなかった要因として、①文章の内容が読み取れず、書くべきことが分からなかった、②文章の内容は読み取ることができたが、何を書いたらよいのか思い浮かばなかった、③文章の内容は読み取ることができ、書く内容も思い浮かんだが、英語の表現が分からなかった、などが考えられるため、生徒の課題がどこにあるのかを見取り、それぞれに応じた指導を行うことが大切である。指導に当たっては、書かれている文章の内容と問われていることを確認した上で、書き手の意見に対して、賛成か反対かなどの立場を明確にさせ、それを「自分の考え」として書くことから指導していくことが考えられる。

【p.85「学習指導に当たって」(１)(２)】

・ポイント２について

IRT バンド３に属する生徒の４割以上、および IRT バンド４に属する生徒の約４割が、誤答である解答類型３に分類されており、自分の考えを支える理由を書くことに課題があると考えられる。何かしらの英語を書いてはいるが、内容に矛盾があったり、コミュニケーションに支障をきたす誤りがあったりするため、指導に当たっては、読み手に伝わる表現で理由を書くことができるように生徒同士でコメントさせ合ったり、教師からのフィードバックを与えて表現を考えさせたりすることが考えられる。　【p.85「学習指導に当たって」(３)】

・ポイント３について

IRT バンド５に属する生徒の８割以上が、正答である解答類型１、２に分類されており、おおむねの生徒が、インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができていると考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）文章を読んで要点を捉えた後、自分の考えをメモに整理させる

読んだことを基に、その内容に関する自分の意見や感想などを書く際には、主張とその理由を明らかにしたり、順序付けを行ったりすることにより、読み手にとって分かりやすい文章を書けるようにすることが重要である。

そのためには、文章を読んで要点を確認した後、自分の考えをキーワードとしてメモなどに整理させたり、思考ツールに整理させたりすることが考えられる。例えば、書き手の意見に対して賛否をメモに書かせたり、賛成の場合は、理由も同じなのかどうか、反対の場合は、その理由をメモに整理させたりすることが考えられる。

メモに整理させても、賛否を示せなかったり、理由が思い浮かばなかったりする場合には、書き手の意見に対して感じたことや考えたことをペアでやり取りさせ、話題に関する理解を深めてからメモに整理させることも考えられる。ただし、いつでもペアで話してから書くのではなく、単元を通して次第にペアで話さなくても読んだことについて書く力を身に付けさせていくことに留意する。

このようにメモに自分の考えを整理することで、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して、読み手に伝わるように自分の考えや感想などを書かせることが大切である。

（２）簡単な「書くこと」の活動を繰り返す

読んだことについて自分の考えとその理由を書くこと、まとまりのある内容を書くことができるようにするためには、簡単な「書くこと」の活動を繰り返すことが大切である。例えば、“I agree / don’t agree with… because…” などの表現を用いて書き手の意見に対する賛否とその理由などを話した後に、話した内容を１～２文程度で書かせることが考えられる。また、書いた文章を互いに読み合い、自分が書いた文章に必要な内容を書き加えることなども考えられる。

（３）正確に書く力を高めるために、生徒同士でコメントさせ合ったり、教師からのフィードバックを与えて表現を考えさせたりする

英語 10（２）では、条件①「自分の考え」を書いているが、条件②「なぜそう考えるのか」を書いていない解答類型３の反応率が 35.4％となっており、他のどの解答類型の反応率よりも高い。解答類型３に分類される生徒は、「なぜそう考えるのか」について何らかの英語を書いてはいるが、コミュニケーションに支障をきたす誤りがある。このことから、読み手に伝わる表現となるように伝えたい内容を正確に書く力を高めることが重要である。

読み手に伝わるように正確に書く力を高めるためには、生徒同士でコメントさせ合ったり、教師からのフィードバックを与えて表現を考えさせたりすることが大切である。生徒同士でコメントさせ合う際には、自分の考えとその理由が伝わるかという視点から、語句の選択、語順などの文構造、動詞の活用、語の綴りなどについてコメントし合うことが考えられる。教師がフィードバックを与える際には、どのような課題があるのかを把握する必要がある。多くの生徒に共通した誤りがある場合や、重要な文法事項などに関する誤りがある場合には、学級全体で確認することが考えられる。生徒ごとに異なる誤りがある場合には、辞書を活用させたり、教科書にある表現を確認するように促したり、インターネットや AI などを活用させたりして、表現の誤りを訂正させることが考えられる。

（４）言語活動の例

- 身近な環境問題に関わる意見文を読み、友達に納得してもらえるように、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く活動
- 平和な世界を築くために大切なことについて書かれた新聞への投稿文を読み、読み手に共感してもらえるように、自分の考えとその理由を書く活動

授業アイディア例３　短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く

１．関連する調査問題と正答率

英語 10 （１）　読むこと　正答率　48.1％　　調査問題（クリック、読み込み）
（２）　書くこと　正答率　28.4％

２．中学校学習指導要領における目標

読むこと　ウ　社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

書くこと　ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

３．　単元計画

（１）単元の目標

未来のロボットの在り方について読み手に納得してもらえるように、ロボットに関する意見文を読み、その内容に基づいて自分の考えと理由を書くことができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・比較表現の特徴やきまりを理解している。 ・比較表現などを用いて、自分が考えたことや感じたこと、その理由などを書く技能を身に付けている。	未来のロボットの在り方について読み手に納得してもらえるように、ロボットに関する意見文を読み、その内容に基づいて自分の考えと理由を書いている。	未来のロボットの在り方について読み手に納得してもらえるように、ロボットに関する意見文を読み、その内容に基づいて自分の考えと理由を書こうとしている。

※「記録に残す評価」は第８時と後日に行う。

（３）単元展開

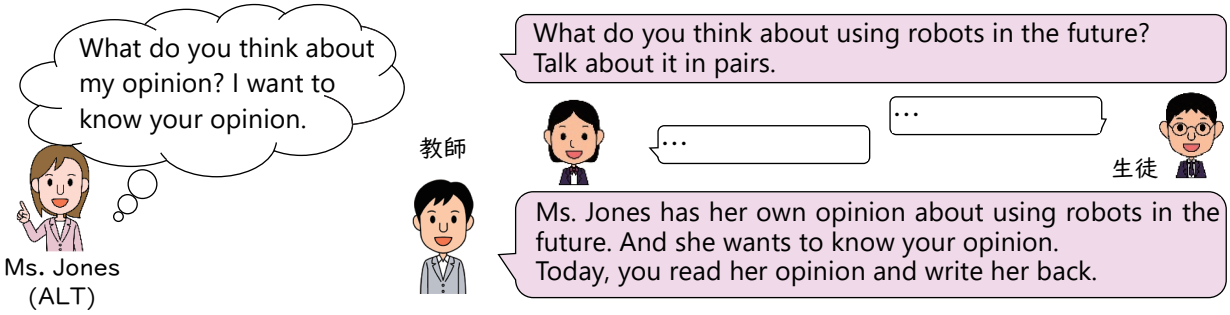
時間	■ねらい 知 知識及び技能　聞 聞くこと　読 読むこと や 話すこと［やり取り］発 話すこと［発表］書 書くこと 促したい生徒の気付き、振り返り	※指導上の留意点
1 2	■単元の目標を理解する。 聞　身近なロボットについての教師の話を聞き、単元の目標を理解する。 「なるほど！」と言ってもらえるように、自分の考えを書いて伝えたいな。  や　身近なロボットについて、友達とやり取りする。 知　比較表現の特徴ときまりを理解し、比較表現を用いて、ロボットについて表現する。	※「未来のロボットの在り方について読み手に納得してもらえるように」というコミュニケーションを行う目的を明確にする。 ※第３時以降も比較表現の指導を継続して行う。
3	■ロボットができることについて書かれた教科書の文章を読み、その内容に基づいて考えたことや感じたことを伝え合い、書いて表現する。 読　比較表現を含む文章を読み、（１）ロボットに出会ったこと（２）それができることの具体例、をメモや線を書きながらワークシートに整理する。	※情報と情報との関係を把握させる。

	「ロボットができること」が２つ書かれている。 や（１）と（２）のそれぞれについて、考えたことや感じたことをやり取りし、学級全体で共有する。その際、「相手に納得してもらえるかどうか」という視点から内容と表現を振り返る。 書　やり取りした内容を踏まえて、考えたことや感じたことを書く。 ロボットができることや自分の経験を話すと相手に納得してもらえる理由になりそうだ。	※ロボットに出会ったことがあるか、それは何ができたのか、どう思うかなど生徒が話した内容を板書する。 ※生徒同士のやり取りから、“I saw the robot, too.” など、理由として、経験を伝える表現を取り上げて板書する。
4	**■教科書の登場人物がロボットを使用する賛否を話している対話文を読み、その内容に基づいて考えたことや感じたことを理由とともに伝え合い、書いて表現する。**	
	読　比較表現を含む対話文を読み（１）登場人物の考え（２）理由をメモや線を書きながらワークシートに整理する。 や　（１）と（２）のそれぞれについて、考えたことや感じたことを理由とともにやり取りし、学級全体で共有する。その際、「相手に納得してもらえるかどうか」という視点から内容と表現を振り返る。 書　やり取りした内容を踏まえて、考えたことや感じたことを理由とともにメモに整理して書く。 書き手の考えには賛成だけど、理由は同じではなかった。より納得してもらえる理由を考えたい。	※情報と情報との関係を把握させる。 ※登場人物の考えに対する賛否、理由が同じかどうか、他に理由がないかなど生徒が話した内容を板書する。 ※生徒のやり取りから、“I agree with …” などの賛否を表す表現や “because …” などの理由を述べる表現などを板書する。
5 6	**■教科書の登場人物がロボットの使用のよさが書かれている意見文を読み、その内容に基づいて考えたことや感じたことを理由とともに書いて表現する。**	
	読　比較表現を含む意見文を読み、情報と情報の関係や “I think …” などの表現に着目して登場人物が最も伝えたいことを整理する。 読　登場人物が最も伝えたいこととその理由を学級全体で共有する。 書　登場人物が最も伝えたいこととその理由について、考えたことや感じたことを理由とともに整理し文章を書く。 書　AI を用いて、読み手に納得してもらえる内容になっているかという内容面と伝えたい内容が正確に伝わるかという言語面から自分が書いた文章を見直す。 書　修正した文章を学級全体で共有し、文章を書き直す。 書き手の意見に対する考えに加え、理由を詳しく述べることで、自分の考えが読み手に納得してもらえる文章を書くことができたと思う。	※情報と情報の関係を把握した上で、要点を捉えさせる。生徒自身で書かれている内容を整理させる。 ※必要に応じて、登場人物の考えに賛成か反対か、理由が同じかどうか、他に理由がないかを尋ね、書く内容を板書する。 ※コミュニケーションを行う目的に立ち返り、内容面と言語面から書いた文章を振り返らせる。
7 本時	**■未来のロボットの在り方について読み手に納得してもらえるように、ALT が書いたロボットに関する意見文を読み、その内容を基づいて自分の考えと理由を書いて表現する。**	
8	**■未来のロボットの在り方について読み手に納得してもらえるように、教師が書いたロボットに関する文章を読み、その内容を基づいて自分の考えと理由を書いて表現する。**	
	書　教師が最も伝えたいこととその理由について、考えたことや感じたことを理由とともに書く。	※第７時の活動を繰り返し、生徒自身の力でできるようにする。
後日	ペーパーテスト（令和８年度　全国学力・学習状況調査　中学校英語10など）	

４．第７時の展開案

１．コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを把握する

ポイント　意欲を高めたり、活動の見通しをもたせたりするために、「読み手に納得してもらえるように」というコミュニケーションを行う目的を明確にします。



２．文章を読んで書き手が最も伝えたいことを捉え、それに対する考えを整理する

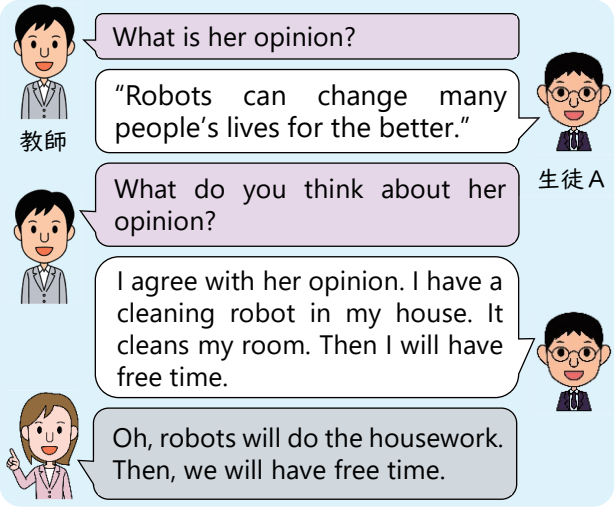
ポイント　情報と情報との関係を把握し要点を捉えるために、文章にメモや線を書いて整理させます。単元前半はワークシートを用いることが考えられますが、単元後半には生徒自身で整理させます。

文章へのメモや線の書き込み（例）　※文章は R5　全国学力・学習状況調査　中学校英語　英語 8

例 Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. 例 At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. 例 We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



分からない表現は各自で調べさせたり、教師が個別支援を行ったりします。



単元前半は、教師が書き手の意見は何か、それに対する賛否、その理由を尋ねて、生徒の考えを引き出します。
単元後半では、生徒の意見を We などに置き替えて一般化したり、客観的に表現する語彙を用いてフィードバックしたりして、より納得してもらえる理由となるように支援します。



Organize your idea, and write your opinion and the reasons to Ms. Jones.

Jones 先生や友達に納得してもらえるように、３時間目に学習した自分の経験を理由として述べるだけではなく、多くの人にとって役立つことを入れてみよう。

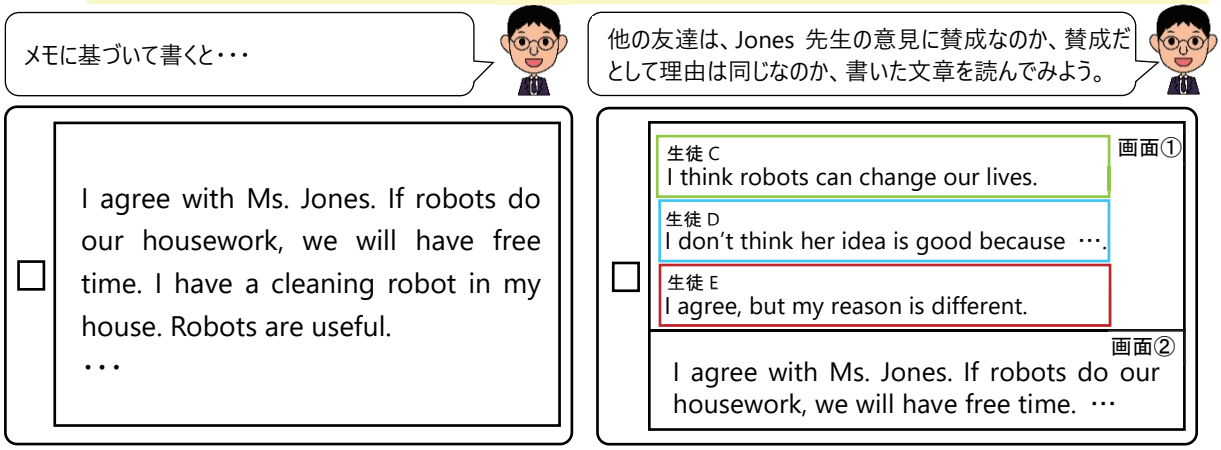


□ Ms. Jones の意見について
agree
理由
cleaning robots（housework）（経験）
↓
free time　※ "We" の視点

生徒 A のメモ（例）

３．書き手が最も伝えたいことに対する自分の考えと理由を書く

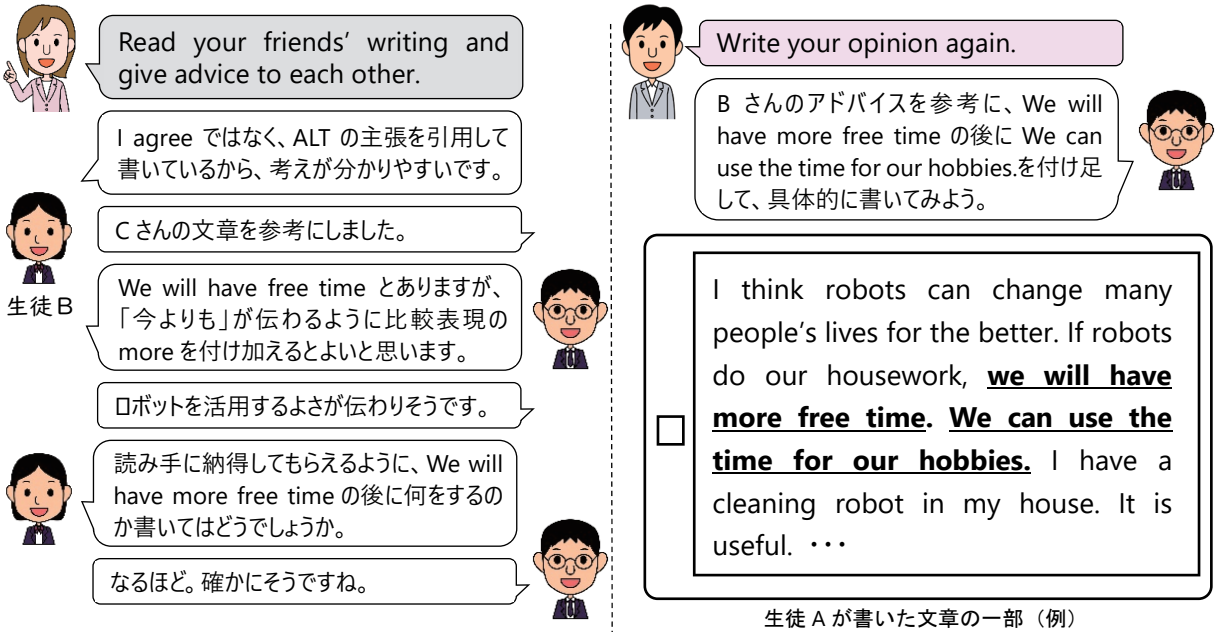
ポイント　整理したメモを基に個人で自分の考えを書かせます。その後、「読み手に納得してもらえるように」というコミュニケーションを行う目的に応じて表現するために、AI を使用させたり、友達の書いた文章を参照させたりすることが考えられます。



生徒 A が書いた文章の一部（例）　　生徒 A が書いた文章の一部（例）

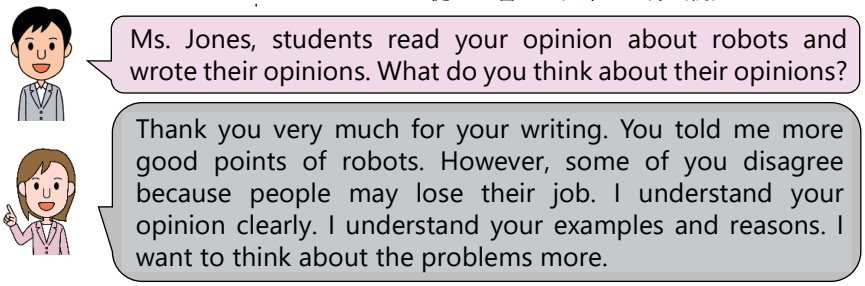
４．書いた文章を読み合い、内容面と言語面から見直す

ポイント　書いた文章を推敲するために、友達が書いた文章を読み合わせ、読み手に納得してもらえる文章になっているかどうか、正しく伝わるかどうかという視点から振り返らせます。



生徒 A が書いた文章の一部（例）

生徒の考えを知りたいと願っていた ALT からフィードバックをもらい、「納得してもらえるように」というコミュニケーションを行う目的が達成されていたかどうかを確認します。



英語11　音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して書く

留学生のメイ(Mei)に昨日の出来事について質問し、分かったことを下の【表】にまとめました。【表】を見て、例を参考にしながら、①メイが行った場所、②メイがしたことを、それぞれ英文１文で書きなさい。

【表】

例	メイが起きた時刻	7時(seven)
①	メイが行った場所	公園(the park)
②	メイがしたこと	テニス(tennis)

＜解答欄＞　※半角で入力してください

例	Mei got up at seven.
①	
②	

出題の趣旨

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

「書くこと」の目標にある、まとまりのある文章を書いたり、聞いたことや読んだことについて書いたりするためには、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、書くことにおける実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。そのためには、文構造や文法事項を正しく用いて正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に捉え、整理したり確認したりしながら書くことが求められる。

英語11では、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために、与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く問題とした。

設問①

趣旨

不規則動詞の過去形を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けているかどうかをみる。

■学習指導要領における目標・内容

書くこと

ア　関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

内容（1）英語の特徴やきまりに関する事項

ウ　語、連語及び慣用表現

エ　文、文構造及び文法事項

■評価の観点

知識・技能

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
11	①	1	不規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの	45.7	◎
		2	大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるが、不規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの	8.7	◎
		3	余分な語や抜けている語などの誤りがあるが、不規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの	5.0	○
		4	不規則動詞の過去形を用いているが、主語に誤りがあるもの	1.0	
		5	不規則動詞の過去形を用いているが、be 動詞と混在しているもの	0.4	
		6	不規則動詞の過去形を用いているが、語順に誤りがあるもの、または不要な語があるもの	0.9	
		7	不規則動詞の過去形を用いていないが、過去のことを表現しようとしているもの	1.3	
		8	現在形や現在進行形、完了形などを用いて解答しているもの	18.8	
		9	be 動詞と一般動詞が混在しており、どちらも過去を表す形になっていないもの	1.0	
		10	want を用いて解答しているもの	1.7	
		11	類型 10 までとは異なる誤りがあるもの	12.7	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	0.4	
		0	無解答	2.5	

（N= 861,464 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 59.4%である。与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く本問では、不規則動詞の過去形（went）を理解し、その知識を活用して書くことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型８の反応率が 18.8%、解答類型 11 の反応率が 12.7%と高い。

○　解答類型１の例

・Mei went to the park.　　・She went to the park.

解答類型１に該当する生徒は、不規則動詞の過去形（went）を用いて正しい語順で書くことができている。このことから、不規則動詞の過去形（went）を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型２の例

・Mei went to the park（ピリオドなし）・mei went to the park.　・Mei went to the Park.

解答類型２に該当する生徒は、大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるが、不規則動詞の過去形（went）を用いて正しい語順で書いている。このことから、不規則動詞の過去形（went）を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型３の例

・Mei went _ the park.　　・Mei went to in the park.　・Mei went to tha park.

解答類型３に該当する生徒は、余分な語や抜けている語などの誤りがあるが、不規則動詞の過去形（went）を用いて正しい語順で書いている。

○　解答類型４の例

・I went to the park.　　・We went to the park.

解答類型４に該当する生徒は、主語を正しく書いたり、示された状況における主語を選択したりすることに課題があると考えられる。

○　解答類型５の例

・Mei was went to the park.　　・She is went to the park.

解答類型５に該当する生徒は、be 動詞と一般動詞を混同して用いており、動詞を正しく用いることに課題があると考えられる。

○　解答類型６の例

・Mei went to go to the park.　・Mei went go to the park.

解答類型６に該当する生徒は、不要な語があるなど、正しい文構造で書くことに課題があると考えられる。

○　解答類型７の例

・Mei wents to the park.　　・Mei was go to the park.

解答類型７に該当する生徒は、与えられた状況について、過去のことについて書くことは理解しているが、動詞を正しく活用することに課題があると考えられる。

○　解答類型８の例

・Mei go to the park.　　・Mei is going to the park.　　・Mei goes to the park.

解答類型８に該当する生徒は、正しい語順で書くことはできているが、与えられた状況について、過去のことについて書くことを理解できていない、あるいは go の過去形が went であることを理解できていないと考えられる。

○　解答類型９の例

・Mei is go to the park.　　・Mei is goes the park.　　・I am go to in the park.

解答類型９に該当する生徒は、be 動詞と一般動詞を混同して用いていたり、過去のことについて書くことを理解していなかったりするなど、動詞を正しく用いることに課題があると考えられる。

○　解答類型 10 の例

・Mei want to the park.　　・Mei wants to park.　　・Mei want to go to the park.

解答類型 10 に該当する生徒は、went と want を混同していると考えられる。

○　解答類型 11 の例

・Mei going to the park.　　・Mei been to the park.　　・Mei is the park

解答類型 11 に該当する生徒は、書くべき内容を理解できていない、あるいは「主語＋動詞」という文構造が理解できていないと考えられる。

設問②

趣旨

規則動詞の過去形を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けているかどうかをみる。

■学習指導要領における目標・内容

書くこと

ア　関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

内容（1）英語の特徴やきまりに関する事項

ウ　語、連語及び慣用表現

エ　文、文構造及び文法事項

■評価の観点

知識・技能

1．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
11	②	1	規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの	40.6	◎
		2	大文字・小文字の書き分けなどに誤りがあるが、規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの	9.2	◎
		3	余分な語などの誤りがあるが、規則動詞の過去形を用いて正しい語順で解答しているもの	3.5	○
		4	規則動詞の過去形を用いているが、主語に誤りがあるもの	1.3	
		5	規則動詞の過去形を用いているが、be 動詞と混在しているもの	1.5	
		6	規則動詞の過去形を用いているが、語順に誤りがあるもの、または不要な語があるもの	0.3	
		7	規則動詞の過去形を用いていないが、過去のことを表現しようとしているもの	2.9	
		8	現在形や現在進行形、完了形などを用いて解答しているもの	14.8	
		9	be 動詞と一般動詞が混在しており、どちらも過去を表す形になっていないもの	2.5	
		10	類型９までとは異なる誤りがあるもの	20.1	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	0.5	
		0	無解答	2.9	

（N= 861,464 人）

2．分析結果と課題

○　正答率は 53.3%である。与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く本問では、規則動詞の過去形（played）を理解し、その知識を活用して書くことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型８の反応率が 14.8%、解答類型 10 の反応率が 20.1%と高い。

○　解答類型１の例

・Mei played tennis.　　・She played tennis.

解答類型１に該当する生徒は、規則動詞の過去形（played）を用いて正しい語順で書くことができている。このことから、規則動詞の過去形（played）を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型２の例

・Mei played tennis　（ピリオドなし）　・she played tennis.

解答類型２に該当する生徒は、ピリオドの付け忘れや大文字・小文字の書き分けの誤りがあるが、規則動詞の過去形（played）を用いて正しい語順で書いている。このことから、規則動詞の過去形（played）を理解し、その知識を活用して書く技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型３の例

・Mei played the tennis.　　・Mei played a tennis.

解答類型３に該当する生徒は、余分な語などの誤りがあるが、規則動詞の過去形（played）を用いて正しい語順で書いている。

○　解答類型４の例

・I played tennis.　　・We played tennis.

解答類型４に該当する生徒は、主語を正しく書いたり、示された状況における主語を選択したりすることに課題があると考えられる。

○　解答類型５の例

・Mei was played tennis.　　・Mei were played tennis.

解答類型５に該当する生徒は、be 動詞と一般動詞を混同して用いており、動詞を正しく用いることに課題があると考えられる。

○　解答類型６の例

・Mei does played tennis.　　・Mei went to played tennis.

解答類型６に該当する生徒は、不要な語があるなど、正しい文構造で書くことに課題があると考えられる。

○　解答類型７の例

・Mei plaid tennis.　　・Mei plaied tennis.　　・Mei was play tennis.

解答類型７に該当する生徒は、与えられた状況について、過去のことについて書くことは理解しているが、動詞を正しく用いることに課題があると考えられる。

○　解答類型８の例

・Mei play tennis.　　・Mei will play tennis.

解答類型８に該当する生徒は、正しい語順で書くことはできているが、与えられた状況について、過去のことについて書くことを理解できていないと考えられる。

○　解答類型９の例

・Mei is play tennis.　　・Mei is plays tennis.

解答類型９に該当する生徒は、be 動詞と一般動詞を混同して用いていたり、過去のことについて書くことを理解していなかったりするなど、動詞を正しく用いることに課題があると考えられる。

○　解答類型 10 の例

・Mei playing tennis.　　・Mei went to tennis.　　・Mei is tennis.

解答類型４に該当する生徒は、書くべき内容を理解できていない、あるいは「主語＋動詞」という文構造が理解できていないと考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）場面や状況から活用すべき文法事項などを判断させる

正確に書くことができるようにするためには、場面や状況から活用すべき文法事項などを判断することが重要である。英語11では「留学生のメイが行った場所」と「メイがしたこと」を書くという場面や状況から、誰が何をしたという主語と動詞がある文で書く必要があることを判断したり、「昨日の出来事」を書くということから、動詞の過去形を用いて書くことを判断したりすることが大切である。

指導に当たっては、以下のような学習活動に取り組むことが考えられる。

・ある場面と関連付けて文法事項などを活用して英語を書き、いつ使えるかなど使い方を把握する活動
・短い文章を読み、文章の時制が過去形で書かれているのか、現在形で書かれているのかを整理する活動

（２）関連のある文法事項をまとめて整理する

正確に書くことができるようにするためには、既習の文法事項などを適切に使い分けて表現することが重要である。そのためには、新しい文法事項などを扱ったり、言語活動を行ったりする際に、関連のある文法事項をまとめて整理し、違いを理解することが大切である。例えば、現在進行形の特徴やきまりを学習する際には、現在形との違いを整理して使い分けたり、to 不定詞の特徴やきまりを学習する際には、動名詞との違いを整理して使い分けたりさせることが考えられる。

指導に当たっては、以下のような学習活動に取り組むことが考えられる。

・既習の文法事項と新しく学んだ文法事項とを比較し、共通点や相違点を考える活動
・ある特定の場面を設定し、適切な表現を選択して書く活動

（３）I、you 以外の主語を用いて書く指導を行う

文章を書く際には、“I” “you” を用いて自分や相手のことについて書くだけではなく、“I” “you” 以外の主語（we、he、she、it、they、人物名、固有名詞など）を用いて、事実を伝えたり、状況を説明したりする文を書くことが重要である。

そのため、書く指導を行う前に、英語で書かれた文章を読ませ、何が主語で何が動詞であるかなど、「主語＋動詞＋補語」などの文構造を意識させ、“I” “you” 以外にも様々な表現が主語になっていることに気付かせることが考えられる。その上で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、適切な主語は何かなどを考えて、「主語＋動詞＋補語」などの文構造を意識して文章を書かせることが考えられる。また、“I” “you” 以外の主語を用いて書く指導だけではなく、話す活動も併せて行うことが大切である。

指導に当たっては、以下のような学習活動に取り組むことが考えられる。

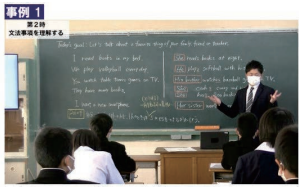
・先週末にしたことについて日記を書く活動
・夏休みの思い出について紹介する文章を書く活動
・絵や写真の状況を説明する活動
・調べたことについて説明をしたり、報告をしたりする活動
・場所やものなどの特徴を紹介する活動

〇関連する指導資料　※画像をクリックするとリンク先にアクセスできます。

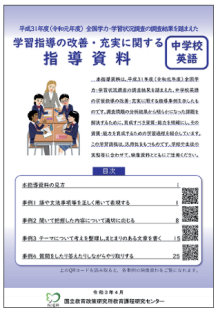
・中学校英語指導事例集（令和３年４月）

「語や文法事項等を正しく用いて表現する」

映像資料



指導資料



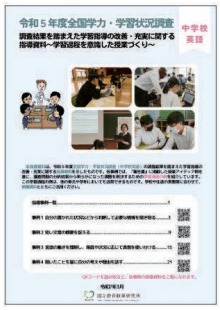
・中学校英語指導事例集（令和７年３月）

「言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける」

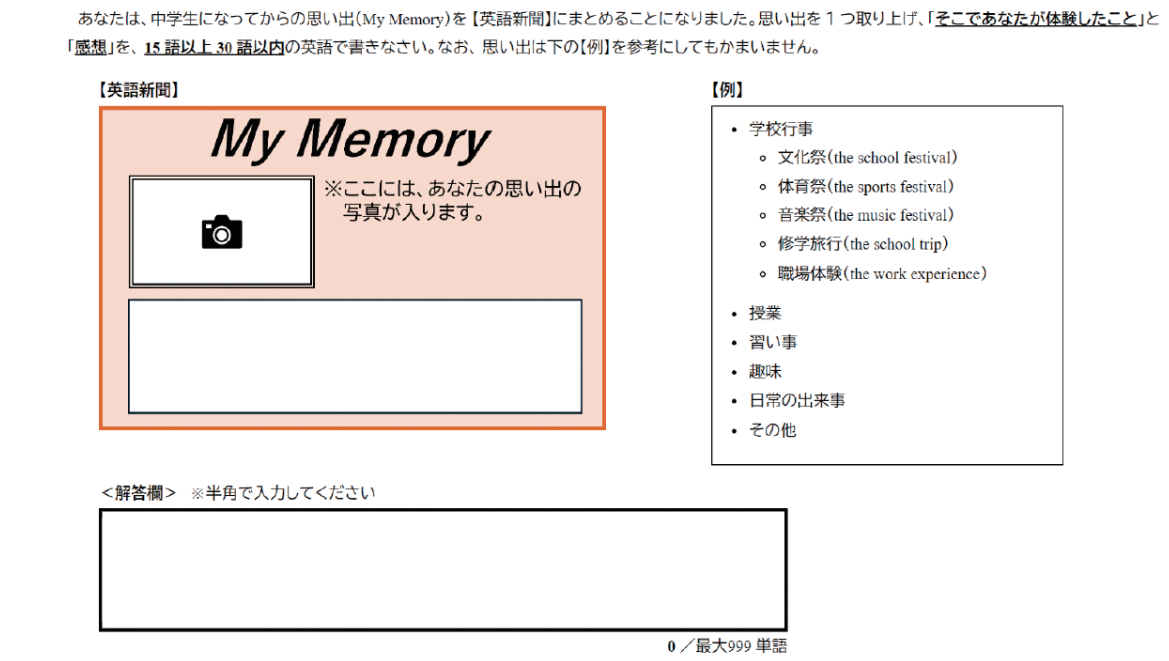
映像資料



指導資料



英語12　まとまりのある文章を書く



出題の趣旨

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことである。そのためには、「導入－本論－結論」や「主張－根拠や具体－主題の言い換えや要約」など、文章の構成を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くことが重要である。また、出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする場合において、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫して書き表すことも必要である。

英語12は、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかを把握するために、中学生になってからの思い出を１つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く問題とした。

■学習指導要領における目標

書くこと

イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

書くこと

(ｳ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
12			（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 条件①　15 語以上 30 語以内の英語で書いている。 条件②　中学校での思い出を１つ取り上げ、そこで体験したことを書いている。 条件③　条件②の感想を書いている。		
		1	条件①、条件②、条件③を満たして解答しているもの	23.7	◎
		2	文法事項など※に誤りがあるが、条件①、条件②、条件③を満たして解答しているもの	24.4	○
		3	条件①、条件②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	11.2	
		4	条件①、条件③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	3.7	
		5	条件①を満たし、条件②、条件③を満たさないで解答しているもの	3.0	
		6	10 語～14 語で解答しているもの	9.0	
		7	６語～９語で解答しているもの	8.8	
		8	１語～５語で解答しているもの	6.9	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	0.7	
		0	無解答	8.6	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 295,673 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 48.0%である。中学生になってからの思い出を１つ取り上げ、そこで体験したこととその感想を書く本問では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型３の反応率が 11.2%と高い。

○　令和５年度【中学校】英語10では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみるために、学校の英語版ウェブサイトに掲載する学校紹介文を書く問題を出題し、正答率は 7.7%であった。令和５年度【中学校】英語10では、 “Our school …” や “We …” といった主語を用いて、学校を紹介する文章を書くことに課題があった。英語12は、解答する生徒自身が体験したこととその感想を書く問題であったため、生徒にとっては比較的書きやすい内容であったと考えられる。

○　解答類型１の例

- I enjoyed the school trip in June. I went to Okinawa. I saw the beautiful ocean. It was great.
- My best memory is the music festival. It was exciting to sing a song. I had a beautiful time.
- My memory is the work experience. Many students said, "Thank you" to me. I felt glad.
- My memory is summer vacation. I stayed at my grandparent’s house. I was glad to see them for the first time in three years.

解答類型１に該当する生徒は、中学生になってからの思い出を１つ取り上げ、そこで体験したこと（条件②）とその感想（条件③）を書くことができている。このことから、日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができていると考えられる。

○　解答類型２の例

・My memory is the work experience. I work at a train station. It is very excited.
（動詞の活用の誤り）、（形容詞の誤り）
・My memory is the school trip because I enjoyed go to the（遊園地名）with a friend. The memory is the best in all. （動詞の活用の誤り）、（前置詞の誤り）

解答類型２に該当する生徒は、英語の表現に関して、所有格の誤り、be 動詞の誤り、形容詞の誤り、前置詞の誤り、動詞の活用の誤り、軽微な綴りの誤り、Because から始まる従属節の単独使用など一部不正確な表現は見られるが、読み手に伝わる表現で書いている。

※解答類型３以降は、語順の誤り、主語の誤り、一般動詞の欠落、条件に関する記述なし、内容の矛盾などがあるため、「条件②」または「条件③」あるいはそのどちらも満たしていないとしている。

○　解答類型３の例

・My memory is the music festival. I sang a song. I was win the festival in my class.
・My memory is the work experience. The work experience is we are need and is very enjoyed.

解答類型３に該当する生徒は、中学校での思い出を１つ取り上げ、そこで体験したこと（条件②）を書いているが、その感想（条件③）を書くことはできていない。

○　解答類型４の例

・My memory is went to school to play volleyball game. I won. It was very fun.
・The work experience, I worked in library. I was hard, but I was excited.

解答類型４に該当する生徒は、中学生になってからの思い出について体験したこと（条件②）を書くことはできていないが、その感想（条件③）を書くことはできている。

○　解答類型５の例

・I want to the school festival. I want to the sports festival. I want to the school trip.
・I am remember the school festival. Because I excited watching movie. I love remember best.

解答類型５に該当する生徒は、中学生になってからの思い出について、体験したこと（条件②）とその感想（条件③）を書くことができていない。

○　解答類型６の例

・My memory is the school trip. I was very enjoyed.
・The music festival is very good because I sing beautiful song very much.

○　解答類型７の例

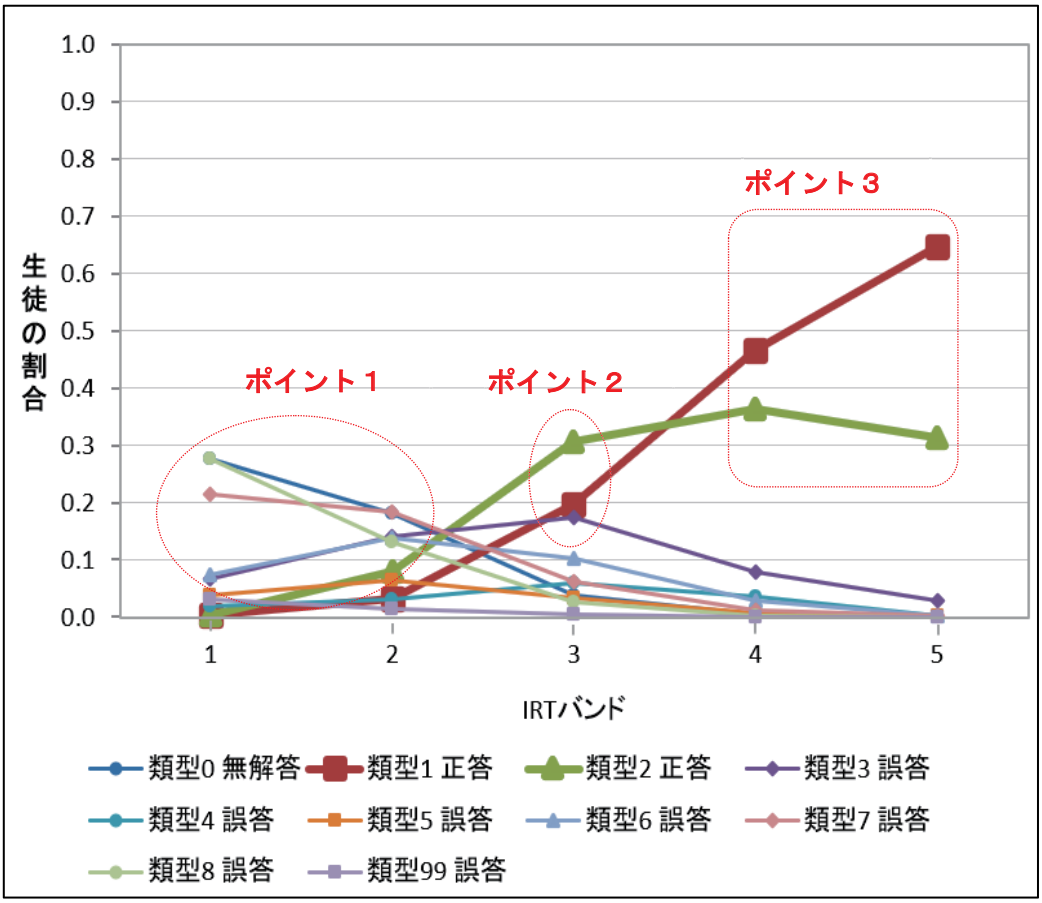
・My memory is the school trip.
・I am enjoy the music festival.

○　解答類型８の例

・My memory the sports festival.
・the sports festival

解答類型６～８に該当する生徒は、語句または１文、２文のみで書いている。書く内容が思い浮かばなかった、あるいは書く内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかったことが考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１に属する生徒の約３割が無解答、約３割が解答類型８、２割以上が解答類型７、約１割が解答類型６に分類されており、合計で約８割の生徒が 15 語以上の英語で書くことができていない。また、IRT バンド２に属する生徒の約２割が無解答、１割以上が解答類型８、約２割が解答類型７、１割以上が解答類型６に分類されており、合計で約６割の生徒が 15 語以上で書くことができていない。書く内容が思い浮かばなかった、あるいは書く内容は思い浮かんだが英語の表現が思い浮かばなかったなどの可能性が考えられる。指導に当たっては、短い文章を読む活動を充実させ、読んだ文章から参考になりそうな内容や表現を選んで書かせたり、書く前にテーマについて事実や自分の考え、気持ちなどを整理させたりすることが考えられる。 【p.108「学習指導に当たって」(１)(２)】

・ポイント２について

IRT バンド３に属する生徒の約２割が正答となる解答類型１、約３割が解答類型２、約２割が誤答となる解答類型３に分類されている。解答類型３は体験したことは書くことができており、その感想として何かしらの英語を書いてはいるが感想と捉えることができない内容が書かれていたり、コミュニケーションに支障をきたす誤りが見られたりする。指導に当たっては、文と文とのつながりなどに注意し、代名詞や接続詞を正しく用いて、読み手に伝わる表現で感想を書かせることが考えられる。 【p.108「学習指導に当たって」(３)】

・ポイント３について

IRT バンド４に属する生徒の約８割、および IRT バンド５に属する生徒の９割以上が、正答である解答類型１、２に分類されており、おおむねの生徒が中学生になってからの思い出を１つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書くことができていると考えられる。

英語13 まとまりのある文章を書く

あなたは、留学生のトム(Tom)と仲良くなるために、交流会で一緒にしたいことをクラスに提案することになりました。「トムと一緒にしたいことを１つ取り上げ」、「なぜそれをしたいのか」を、15語以上30語以内の英語で書きなさい。なお、交流会でしたいことは下の【例】を参考にしてもかまいません。



<解答欄>※半角で入力してください

0 ／最大999 単語

出題の趣旨

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことである。そのためには、「導入－本論－結論」や「主張－根拠や具体－主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くことが重要である。また、出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする場合において、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫して書き表すことも必要である。

英語13では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかを把握するために、留学生との交流会で一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を書く問題とした。

■学習指導要領における目標

書くこと

イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

書くこと

(ｳ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
13			（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 条件①　15 語以上 30 語以内の英語で書いている。 条件②　留学生のトムと交流会で一緒にしたいことを１つ取り上げて書いている。 条件③　条件②の理由を書いている。		
		1	条件①、条件②、条件③を満たして解答しているもの	16.7	◎
		2	文法事項など※に誤りがあるが、条件①、条件②、条件③を満たして解答しているもの	28.0	○
		3	条件①、条件②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	6.2	
		4	条件①、条件③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	2.9	
		5	条件①を満たし、条件②、条件③を満たさないで解答しているもの	3.7	
		6	10 語～14 語で解答しているもの	12.6	
		7	６語～９語で解答しているもの	11.3	
		8	１語～５語で解答しているもの	8.7	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	0.7	
		0	無解答	9.2	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 282,886 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 44.7%である。留学生との交流会で一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を書く本問では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型６の反応率が 12.6%、解答類型７の反応率が 11.3%と高い。

○　令和５年度【中学校】英語10では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみるために、学校の英語版ウェブサイトに掲載する学校紹介文を書く問題を出題し、正答率は 7.7%であった。令和５年度【中学校】英語10では、“Our school …”や“We …”といった主語を用いて、学校を紹介する文章を書くことに課題があった。英語13は、解答する生徒自身の考えとその理由を書く問題であったため、生徒にとっては比較的書きやすい内容であったと考えられる。

○　解答類型１の例

- I want to play sports with Tom. I have two reasons. First, we can play sports without languages. Second, we can play sports easily.
- I want to play soccer with Tom. If we play soccer with Tom, he can know our classmates' name.
- I want to cook Japanese food. We can understand food culture each other and I can cook well.
- I want to play *karuta* with Tom because I want him to enjoy Japanese culture.

解答類型１に該当する生徒は、留学生のトムと交流会で一緒にしたいこと（条件①）とその理由（条件②）を書くことができている。このことから、日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができていると考えられる。

○　解答類型２の例

・I want to cooking with Tom. I am good for cooking. Tom and I enjoy cooking and delicious food.（動詞の活用の誤り）、（前置詞の誤り）
・I want to play card games with Tom. Tom can knows Japanese culture. Card games are more interest than other games. We can play it many times.（動詞の活用の誤り）、（形容詞の誤り）

解答類型２に該当する生徒は、英語の表現に関して、所有格の誤り、be 動詞の誤り、形容詞の誤り、前置詞の誤り、動詞の活用の誤り、軽微な綴りの誤り、Because から始まる従属節の単独使用など一部不正確な表現は見られるが、読み手に伝わる英語で書いている。

※解答類型３以降は、語順の誤り、主語の誤り、一般動詞の欠落、条件に関する記述なし、内容の矛盾などがあるため、「条件②」または「条件③」あるいはそのどちらも満たしていないとしている。

○　解答類型３の例

・I want to play sports. Because sports enjoy play each other. Tennis enjoy play everyone.
・I want to cook Japanese food with Tom. Because I think Tom be a like Japanese food.

解答類型３に該当する生徒は、留学生のトムと交流会で一緒にしたいこと（条件②）を書くことはできているが、その理由（条件③）を書くことはできていない。

○　解答類型４の例

・He with to do sports because I like sports, so I think we can enjoy sports.
・Tom with make a carry and rice. Because I often make curry and rice. It is interesting.

解答類型４に該当する生徒は、留学生のトムと交流会で一緒にしたいこと（条件②）を書くことはできていないが、その理由（条件③）を書くことはできている。

○　解答類型５の例

・I think that play sport. Because it is enjoy. I am sure that friend. So I think that ply sport.
・I want to play cooking. Cooking is know Japanese food and Tom talk students making friends.

解答類型５に該当する生徒は、留学生のトムと交流会で一緒にしたいこと（条件②）とその理由（条件③）を書くことができていない。

○　解答類型６の例

・I want to play the soccer. I like soccer and very popular sport.
・I want to sport with Tom. Because sport is very fun.

○　解答類型７の例

・I want to cook with Tom.
・I play *karuta*. Because enjoy and study japanise.

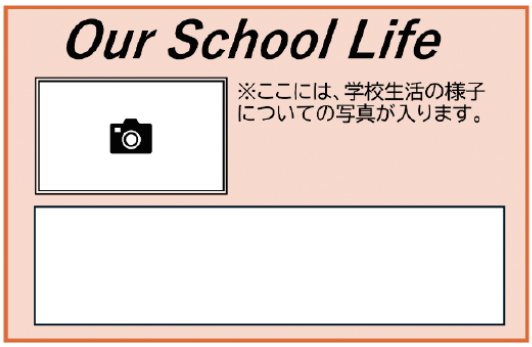
○　解答類型８の例

・I want to play soccer.
・I cooked with Tom.

解答類型６～８に該当する生徒は、語句または１文、２文のみで書いている。書く内容が思い浮かばなかった、あるいは書く内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかったと考えられる。

英語14　まとまりのある文章を書く

あなたは、新しく来た留学生に学校生活に慣れてもらうために、学校紹介の冊子を渡すことにしました。「学校で普段行うことを１つ取り上げ」、「それについての説明」を、15語以上30語以内の英語で書きなさい。なお、下の【例】を参考にしてもかまいません。



【例】

・朝の読書活動
・授業
・給食
・清掃
・その他

<解答欄>※半角で入力してください

0 ／最大999 単語

出題の趣旨

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる。

「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことである。そのためには、「導入－本論－結論」や「主張－根拠や具体－主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くことが重要である。また、出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする場合において、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたいことに最もふさわしい表現形式を工夫して書き表すことも必要である。

英語14では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかを把握するために、学校で普段行うことを１つ取り上げ、それについての説明を書く問題とした。

■学習指導要領における目標

書くこと

イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

書くこと

(ｳ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
14			（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 条件①　15 語以上 30 語以内の英語で書いている。 条件②　学校で普段行うことを１つ取り上げて書いている。 条件③　条件②についての説明を書いている。		
		1	条件①、条件②、条件③を満たして解答しているもの	18.4	◎
		2	文法事項など※に誤りがあるが、条件①、条件②、条件③を満たして解答しているもの	10.2	○
		3	条件①、条件②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	4.7	
		4	条件①、条件③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	14.3	
		5	条件①を満たし、条件②、条件③を満たさないで解答しているもの	9.2	
		6	10 語～14 語で解答しているもの	6.3	
		7	６語～９語で解答しているもの	8.7	
		8	１語～５語で解答しているもの	12.8	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	1.6	
		0	無解答	14.0	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 282,905 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 28.5%である。学校で普段行うことを１つ取り上げ、それについての説明を書く本問では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型４の反応率が 14.3%、解答類型８の反応率が 12.8%、無解答の反応率が 14.0%と高い。

○　令和５年度【中学校】英語10では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみるために、学校の英語版ウェブサイトに掲載する学校紹介文を書く問題を出題し、正答率は 7.7%であった。令和５年度【中学校】英語10では、 “Our school …” や “We …” といった主語を用いて、学校を紹介する文章を書くことに課題があった。英語14においても、学校生活の様子を紹介する文章を書く問題を出題したが、引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

- In the morning, we read books from 8:10 to 8:25. When we are reading books, we mustn’t do other things. Let’s enjoy reading books.
- We study math, Japanese, and English every day. They are difficult, but they are interesting.
- We take classes every day. There are a lot of subjects such as science, math, and Japanese. Also, we sometimes take tests.
- Hello! Welcome to our school! In Japan, we have school lunch. We can enjoy our lunch with our friends. We don’t have to bring your lunch.

解答類型１に該当する生徒は、学校で普段行うこと（条件②）を１つ取り上げ、それについての説明（条件③）を書くことができている。このことから、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができていると考えられる。

○　解答類型２の例

・We usually take six classes in a day. Taking classes are hard for us. There are many fun classes. So We have fun.（動詞の活用の誤り）、（形容詞の誤り）
・In our school, we clean after the lunch, before the break time. We clean classroom _ ten minutes. （前置詞の誤り）

解答類型２に該当する生徒は、英語の表現に関して、所有格の誤り、be 動詞の誤り、形容詞の誤り、前置詞の誤り、動詞の活用の誤り、軽微な綴りの誤り、Because から始まる従属節の単独使用など一部不正確な表現は見られるが、読み手に伝わる英語で書いている。

※解答類型３以降は、語順の誤り、主語の誤り、一般動詞の欠落、条件に関する記述なし、内容の矛盾などがあるため、「条件②」または「条件③」あるいはそのどちらも満たしていないとしている。

○　解答類型３の例

・I usually read a book in the morning activities. Reading books is make me relax.
・We must clean our classroom every day. I think that important clean my classroom.

解答類型３に該当する生徒は、学校で普段行うこと（条件②）を書くことはできているが、その説明（条件③）を書くことはできていない。

○　解答類型４の例

・School lunch is we can eat many kind food. It is loved by many students.
・My school is clean our classroom. It is for 15 minutes. We was clean our classroom today.

解答類型４に該当する生徒は、学校で普段行うこと（条件②）を書くことはできていないが、その説明（条件③）を書くことはできている。

○　解答類型５の例

・Do you like to read a book? Our school is read a books at every morning.
・This is study English in the classroom. English is a kind friendly. Enjoy Japan.

解答類型５に該当する生徒は、学校で普段行うこと（条件②）とその説明（条件③）を書くことができていない。

○　解答類型６の例

・We have to reading books in the morning. It was fun.
・We clean our class room every day. We must clean hard.

○　解答類型７の例

・We read books because reading books is very important.
・School lunch is very delicious because with everyone.

○　解答類型８の例

・Our school has many events.
・We clean the school.

解答類型６～８に該当する生徒は、語句または１文、２文のみで書いている。書く内容が思い浮かばなかった、あるいは書く内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかったと考えられる。

３．学習指導に当たって（英語 12〜英語 14）

（１）まとまりのある文章を読む活動を充実させる

まとまりのある文章を書くためには、まとまりのある文章を読み、書かれている文章の構成を理解するなど、読む活動を充実させることが大切である。例えば、全体として一貫性のある文章を読み、文と文との関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落との関係など文章の構成を理解させたりすることが考えられる。

まとまりある文章を読む活動を充実させることで、英文の表現や文章の構成を参考に書いたり、自分が書いた文章と比較しながら推敲したりすることにつながる。どのように表現したらよいか分からない生徒には、読んだ文章から参考になりそうな表現を選んで書くなど、書くことに慣れさせていくことも考えられる。

（２）テーマについて事実や自分の考え、気持ちなどを整理させる

事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題が見られる。英語12では、14語以下で解答している解答類型６～８の反応率の合計が24.7%（英語13では32.6%、英語14では27.8%）となっており、書く内容が思い浮かばなかった、あるいは書く表現が思い浮かばなかった可能性が考えられる。ある話題について書く内容が思い浮かぶようにするための支援として、書く前に話題に関連する内容をキーワードでメモに整理させることが考えられる。

例えば、英語12の中学生になってからの思い出を１つ取り上げ、そこで体験したことと感想を書く問題では、修学旅行について書く場合には、関連する内容として、修学旅行で訪れた場所、体験した内容、見たこと、食べたもの、それらについて感じたことや考えたことを書き出す。その上で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて書く順番などの構成を整理することが考えられる。このような整理されたメモをペアやグループで互いに参照することで、自分では気付かなかった視点や考え方に気付かせ、メモを再構成させることも考えられる。

整理したメモを基に、すぐにテーマについて書かせてもよいが、それでも書くことに難しさを感じる生徒もいることが予想される。そのような場合には、書く前に、テーマについてメモを基にペアでやり取りを繰り返し、友達の考えや表現を参考に自分の考えを書かせるなど、「話すこと」と「書くこと」の領域を統合した指導を行うことも考えられる。

（３）文と文のつながりなどに注意しながら文章を書かせる

「まとまりのある内容を書く」とは、文と文との順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことである。そのためには、“because” “and” “so” “but” などの接続詞を用いて複文や重文にしたり、 “he” “she” “it” “they” などの代名詞を用いて文と文のつながりを意識させたりして、３文程度の短い文章を書くことを繰り返し行うことが大切である。

例えば、英語14のように、学校で普段行うことを１つ取り上げ、それについての説明を書く場合には、“We have school lunch. We eat it in our classroom. Our school lunch is very good. Everyone likes our school lunch.”と、“it” を用いて、前の文とのつながりをもたせたり、給食はどこで食べるのか、味はどうかなど、一貫性のある文章で書かせたりすることが考えられる。

英語13において、留学生との交流会で一緒にしたいこととその理由を書く問題では、 “I want to play *karuta* with Tom. Because the rules are easy.” など、話し言葉では使用されるが、書き言葉としては使用されないBecauseから始まる従属節の単独使用が多く見られた。このように解答した生徒には従属節を含む複文を的確に捉えさせ、“I want to play *karuta* with Tom because the rules are easy.” など、自分の考えとその理由を書くことができるようにすることが大切である。「書くこと」を繰り返す中で、読み手に伝わる表現で書くことができるように指導することを併せて行うことが大切である。

（４）言語活動の例

・友達に自分の新たな一面を知ってもらうために、自己紹介を書く活動
・学校の英語版ウェブサイトに学校紹介文を掲載するために、学校生活の中から紹介したいものを１つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を書く活動
・外国人観光客にも分かりやすいタウン・ガイドの作成に向けて、「学校」を表す２つのピクトグラムのうち、どちらがよいかウェブサイトに投稿するために、自分の考えとその理由を書く活動
・地域の紹介、おすすめのもの、おすすめの場所、日本の文化などについて書く活動

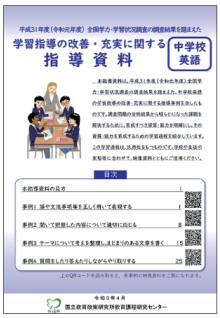
〇関連する指導資料　※画像をクリックするとリンク先にアクセスできます。

・中学校英語指導事例集（令和３年４月）
「テーマについて考えを整理し、まとまりのある文章を書く」

映像資料



指導資料



コラム③

【コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに重点を置いた授業づくりと生徒の振り返り】

中学校学習指導要領解説外国語編は「外国語教育における学習過程」を、①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う、というプロセスとして示しています。外国語によるコミュニケーションでは、「誰に」「何のために」伝えるのか、また「誰からの情報を」「何のために」理解するのかという、相手意識に基づいた目的や場面、状況の理解が不可欠です。そして、この理解はコミュニケーションの見通しを立てることによって具体化されます。例えば、何を伝えるか、どのような表現を用いて伝えるか、どのような順序で伝えるかなどを考えることで、学習者は自らの言語使用のイメージを作り上げていきます。その後、実際のコミュニケーションを行い、自らのコミュニケーションを振り返るという一連の流れは、学習過程を漸進的に展開させる働きをもつとともに、次の新たな学習過程へとつながる循環を生み出します。

ここで重要なのは、「振り返り」がこのすべての段階に関わっている点です。そして、その役割は大きく２つに分けることができます。１つは総括的な自己評価です。ある程度の内容を学習した後に分かったこと、できたことなどを書きまとめることで、それまでに学んだことを自分の言葉で整理する活動です。例えば、「どのような工夫をして相手にどの程度伝わったか」「どの部分がうまくいかなかったか（それはなぜか）」といった観点から自分のパフォーマンスを評価することで、コミュニケーションの目的をどの程度達成できたかを意識化します。学習者にとってこの総括的な自己評価は、一連の学習過程の節目や終了時において、自分の成長や課題を実感する機会となります。

もう１つは形成的な自己評価です。これは、次の行動をよりよくするための見直しであり、実際のコミュニケーションを行う事前、事中、事後のすべての段階において機能します。事前であれば、これまでの学習経験を踏まえて目標や方法を定めるという形で現れます。例えば、「分かりやすくするために今回は具体例を入れたい」といった記述が挙げられます。事中では、「簡単な英語で言い換えて話せるようにもっと練習したい」といった直近の改善案を示す記述が考えられます。さらに事後では、「次に同じような活動をするときは相手からの質問を予想して話す内容を準備しておきたい」など、将来のコミュニケーションへの見通しとして現れます。このような形成的な自己評価は、その後に続く学習のあり方を捉え直す契機となり、学びの質を高めます。

これら２つの振り返りが相互に関連しながら機能することで、単元の学習が単なる直線的なプロセスではなく、改善を伴う発展的なプロセスとなります。さらに、この発展的な学習過程は、学習者の意欲にも大きな影響を与えます。折に触れて「今の自分の学習状況」「自分に必要な次の学習」について意識化を促すことで、学習者にとって学習が自分事となり、前向きに取り組みやすくなります。自らの調整によってコミュニケーションを改善できた経験は、「工夫すればうまくいく」という感覚を着実に育てます。また、振り返りを学級で共有し、多様な視点や方略に触れる機会を設けることは、安心して学び合える学習者集団の形成にも有効でしょう。

日々の学びに主体的に向き合う力がこれまで以上に重視される時代、そして AI 技術が発展し続ける時代にあって、英語教師には、生徒が自らの学習過程を無理なく自分事として受け止められるような指導が求められます。コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに重点を置いた授業づくりと生徒の振り返りを有機的に結びつけることは、生徒一人一人の生涯にわたる学びの基盤を形成する上で重要であると言えます。

●話すこと
英語15　音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話す

設問（１）

<問題文>
この問題は(１)と(２)の２問あります。この問題では、話す準備をする時間はありません。動画に出てくる吹き出しはあなたが伝えたいことを表しています。

あなたは、明日、留学生のサラと遊ぶ予定です。これから明日の天気予報を確認して、明日のことについてサラと電話で話すところです。

（１）吹き出しの中に示されているイラストを見て、サラに明日の天気を英語で伝えましょう。【解答時間　15 秒】



設問（２）a

<問題文>
この問題は(１)と(２)の２問あります。この問題では、話す準備をする時間はありません。動画に出てくる吹き出しはあなたが伝えたいことを表しています。

あなたは、明日、留学生のサラと遊ぶ予定です。これから明日の天気予報を確認して、明日のことについてサラと電話で話すところです。

（２）サラがこのあとあなたに質問します。吹き出しの中に示されているイラストを見て、質問に対して、英語で答えましょう。【解答時間　15 秒】



英語の音声スクリプト

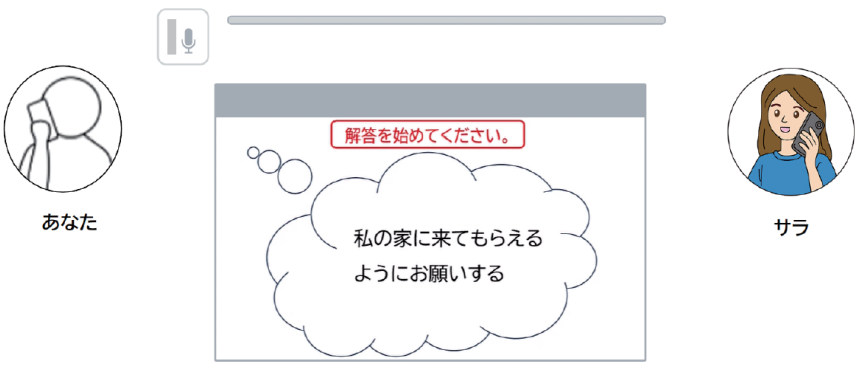
What will we do tomorrow?

設問（２）b

<問題文>
この問題は(１)と(２)の２問あります。この問題では、話す準備をする時間はありません。動画に出てくる吹き出しはあなたが伝えたいことを表しています。

あなたは、明日、留学生のサラと遊ぶ予定です。これから明日の天気予報を確認して、明日のことについてサラと電話で話すところです。

（２）吹き出しの中に示されている内容を、サラに英語でお願いしましょう。【解答時間　15 秒】



出題の趣旨

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

「話すこと」の目標である、即興で伝え合ったり、まとまりのある内容を話したり、聞いたことや読んだことについて話したりするためには、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けておくことが重要である。そのためには、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を話すことにおける実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図るとともに、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うことが求められる。

英語15では、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを把握することをねらいとしている。

設問（１）は、未来表現（will）などの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える問題とした。

設問（２）ａは、「考えや意図を伝える」という言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える問題とした。

設問（２）ｂは、「相手の行動を促す」という言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかを把握するために、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼する問題とした。

設問（１）

趣旨

未来表現（will）などの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

話すこと［やり取り］
内容（1）英語の特徴やきまりに関する事項
ア　音声
ウ　語、連語及び慣用表現
エ　文、文構造及び文法事項
(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項
②　言語の働きに関する事項
イ　言語の働きの例
(ｳ) 事実・情報を伝える

■評価の観点

知識・技能

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

話すこと［やり取り］

(ｱ) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
15	(1)	1	明日の天気について未来表現（will）を用いて解答しているもの	21.7	◎
		2	明日の天気について未来表現（be going to）を用いて解答しているもの	0.1	◎
		3	明日の天気について未来を表す語句を用いて解答しているもの	20.4	○
		4	明日の天気について will 以外の助動詞を用いて解答しているもの	0.0	○
		5	文法事項など※に誤りがあるが、明日の天気について解答しているもの	16.4	
		6	「明日」と「天気」のみを解答しているもの	5.2	
		7	与えられた情報について解答していないもの	24.8	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	2.2	
		0	無解答	9.2	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 46,096 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 42.3%である。電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える本問では、未来表現（will）などの知識を活用して話すことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型５の反応率が 16.4%、解答類型７の反応率が 24.8%と高い。

○　令和５年度【中学校】話すこと英語 1 では、やり取りの場面において、即興で伝え合うことができるかどうかをみるために、（１）～（３）の問題を出題し、（１）は、正答率 19.0%、（２）は正答率 9.4%、（３）は正答率 13.4%、であった。今回の結果から、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを活用して話すことに引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

・It will be rainy tomorrow.　・It will rain tomorrow.　・Tomorrow will be rainy.

解答類型１に該当する生徒は、明日の天気について未来表現（will）を用いて解答している。このことから、未来表現（will）などの知識を活用して話す技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型２の例

・It’s going to be rainy tomorrow.　・Tomorrow, it’s going to rain.

解答類型２に該当する生徒は、明日の天気について未来表現（be going to）を用いて解答している。このことから、未来表現（be going to）などの知識を活用して話す技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型３の例

・It is rainy tomorrow.	・Tomorrow is rainy.
・It's raining tomorrow.	・Tomorrow weather is rainy.

解答類型３に該当する生徒は、明日の天気について未来を表す語句（tomorrow など）を用いて解答している。

○　解答類型４の例

・It may be rainy tomorrow.	・Tomorrow may be rainy.

解答類型４に該当する生徒は、明日の天気について will 以外の助動詞を用いて解答している。

○　解答類型５の例

・It will rainy tomorrow.	・It is be rainy tomorrow.	・It is rain tomorrow.
・Rainy is tomorrow.	・It was rainy tomorrow.	

解答類型５に該当する生徒は、rain と tomorrow を用いているが、文法事項などに誤りがある。

○　解答類型６の例

・Rainy, tomorrow.	・Tomorrow rain.

解答類型６に該当する生徒は、rain と tomorrow を用いているが、語句のみで解答しており、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型７の例

・It's rainy.	・Rainy.	・Will rain.
・Yesterday is rainy.	・I like rain.	・It's rainy is yesterday.

解答類型７に該当する生徒は、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

設問（２）a

趣旨

「考えや意図を伝える」という言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

話すこと［やり取り］

内容（1）英語の特徴やきまりに関する事項

ア　音声

ウ　語、連語及び慣用表現

エ　文、文構造及び文法事項

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

②　言語の働きに関する事項

イ　言語の働きの例

(ｴ) 考えや意図を伝える

■評価の観点

知識・技能

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

話すこと［やり取り］

(ｱ) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
15	(2)a	1	質問に対して、明日しようと思っていることについて、考えや意図を伝える表現を用いて解答しているもの	19.0	◎
		2	質問に対して、明日しようと思っていることについて、考えや意図を伝える表現（疑問文）を用いて解答しているもの	0.5	◎
		3	質問に対して、明日しようと思っていることについて話し手のみが行うことを解答しているもの	14.0	○
		4	文法事項など※に誤りがあるが、質問に対して、明日しようと思っていることについて解答しているもの	9.4	
		5	「ゲーム」と 「明日」のみを解答しているもの	0.3	
		6	相手からの質問に対して、与えられた情報について解答していないもの	42.0	
		99	上記以外の解答 （日本語など）	2.8	
		0	無解答	12.0	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 25,779 人）

２．分析結果と課題

○ 正答率は 33.5%である。電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える本問では、「考えや意図を伝える」という言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型６の反応率が 42.0%、無解答の反応率が 12.0%と高い。

○ 令和５年度【中学校】話すこと英語1では、やり取りの場面において、即興で伝え合うことができるかどうかをみるために、（１）～（３）の問題を出題し、（１）は、正答率 19.0%、（２）は正答率 9.4%、（３）は正答率 13.4%、であった。今回の結果から、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを活用して話すことに引き続き課題があると考えられる。

○ 解答類型１の例

- We will play video games tomorrow.
- Let’s play video games tomorrow.
- I want to play the game together tomorrow.
- Please come to my house and let’s play games together.

解答類型１に該当する生徒は、サラからの質問に対して、明日しようと思っていることを伝えることができている。このことから、「考えや意図を伝える」という言語の働きなどの知識を活用して、話す技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型２の例

・Why don’t we play video game?
・Do you want to play video games tomorrow?

解答類型２に該当する生徒は、サラからの質問に対して、明日しようと思っていることについて、考えや意図を伝える表現（疑問文）を用いて解答している。このことから、「考えや意図を伝える」という言語の働きなどの知識を活用して、話す技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型３の例

・I am going to play video games tomorrow.
・I will play video games tomorrow.
・I want to play the game tomorrow.
・I wish I play game.

解答類型３に該当する生徒は、サラからの質問に対して、明日しようと思っていることについて、話し手のみが行うことを話している。

○　解答類型４の例

・We will be play game.
・I’m play game tomorrow.

解答類型４に該当する生徒は、サラからの質問に対して、明日しようと思っていることについて話しているが、助動詞の欠落や、be 動詞と一般動詞の混在など、文法事項などに誤りがあり、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型５の例

・Game, tomorrow.
・Tomorrow game.

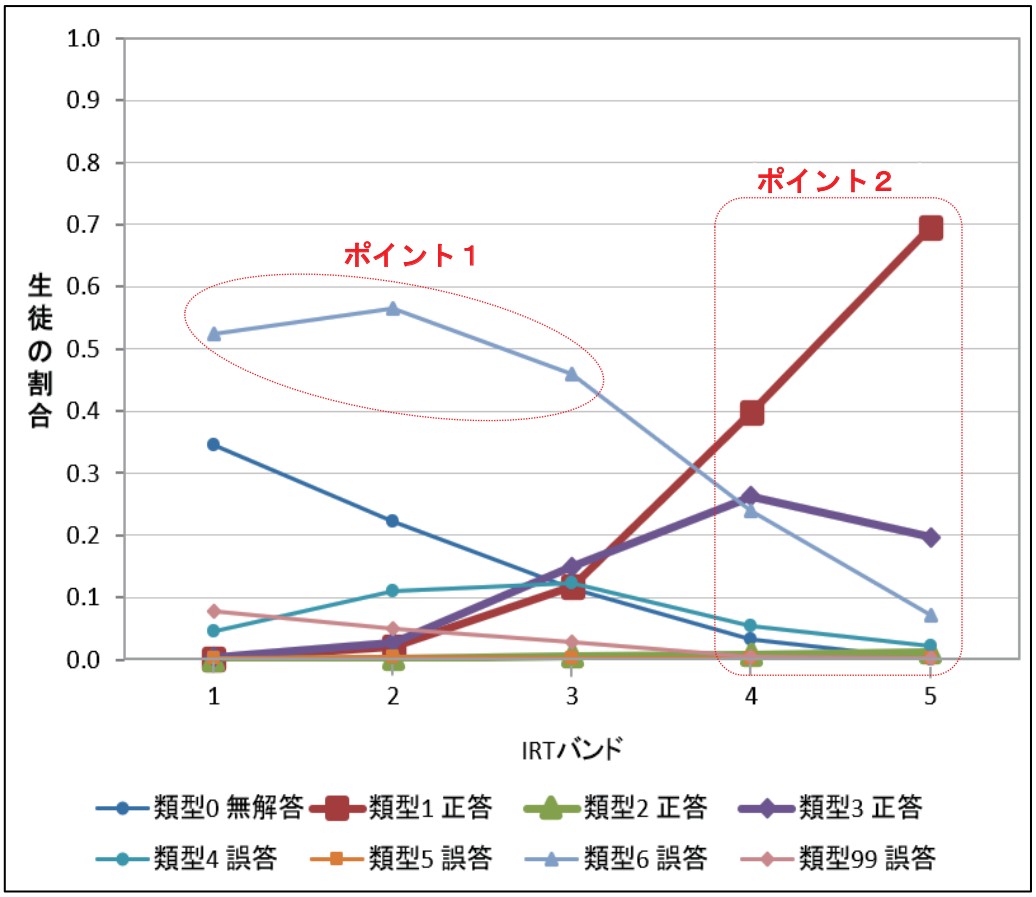
解答類型５に該当する生徒は、サラからの質問に対して、明日しようと思っていることについて game と tomorrow を用いているが、語句のみで解答しており、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型６の例

・I play game.　・She plays the game.　・I will be tomorrow.
・Tomorrow is play game.　・I play games and Sara.　・I play video game with.

解答類型６に該当する生徒は、サラからの質問に対して、明日しようと思っていることを伝えることができていない。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。サラの質問を聞き取ることができず、何を答えたらよいか分からなかったり、答える内容は分かったがどのような表現で話したらよいか分からなかったりした可能性が考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１、２それぞれに属する生徒の５割以上、および IRT バンド３に属する生徒の４割以上が、誤答である解答類型６に分類されており、IRT バンド１～３に属する相当数の生徒が、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える際に、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。サラの質問を聞き取ることができず、何を答えたらよいか分からなかったり、答える内容は分かったがどのような表現で話したらよいか分からなかったりした可能性が考えられる。指導に当たっては、生徒が話しやすいテーマで教師が ALT や生徒とやり取りを行い、質問に即興で応答したり、関連する質問をしたりして、やり取りの例を示すことが大切である。また、１回目のやり取りの後に、学級全体で相手がどのような質問していたのかを確認した上で、考えや意図を伝えるための表現を複数提示し、どちらがより適切かを指導することなどが考えられる。

【p.121「学習指導に当たって」（１）～（３）】

・ポイント２について

IRT バンド４に属する生徒の６割以上、および IRT バンド５に属する生徒の約９割が、正答である解答類型１～３に分類されており、おおむねの生徒が、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝えることができていると考えられる。

設問（２）ｂ

趣旨

「相手の行動を促す」という言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

話すこと［やり取り］

内容（1）英語の特徴やきまりに関する事項

ア　音声

ウ　語、連語及び慣用表現

エ　文、文構造及び文法事項

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

②　言語の働きに関する事項

イ　言語の働きの例

(ｵ) 相手の行動を促す

■評価の観点

知識・技能

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

話すこと［やり取り］

(ｱ) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。

１．解答類型と反応率

問題番号			解答類型	反応率(%)	正答
15	(2)b	1	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現（疑問文）を用いて解答しているもの	10.6	◎
		2	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、命令文を用いて解答しているもの	21.5	◎
		3	文法事項など※に誤りがあるが、依頼する表現または命令文を用いて解答しているもの	1.8	
		4	依頼する表現以外の疑問文を用いて解答しているもの	2.5	
		5	与えられた情報について依頼する表現を用いて解答していないが、come と house を用いて解答しているもの	14.7	
		6	与えられた情報について解答していないもの	31.9	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	3.5	
		0	無解答	13.4	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 20,317 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 32.1%である。電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼する本問では、「相手の行動を促す」という言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型５の反応率が 14.7%、解答類型６の反応率が 31.9%、無解答の反応率が 13.4%と高い。

○　令和５年度【中学校】話すこと英語1では、やり取りの場面において、即興で伝え合うことができるかどうかをみるために、（１）～（３）の問題を出題し、（１）は、正答率 19.0%、（２）は正答率 9.4%、（３）は正答率 13.4%、であった。今回の結果から、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを活用して話すことに引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

・Can you come to my house?　・Could you come to my house?
・Will you come to my house?

解答類型１に該当する生徒は、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現（疑問文）を用いて話すことができている。このことから「相手の行動を促す」という言語の働きなどの知識を活用し、話す技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型２の例

・Please come to my house.　・Come to my house, please.

解答類型２に該当する生徒は、「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、please とともに命令文を用いて話すことができている。このことから「相手の行動を促す」という言語の働きなどの知識を活用し、話す技能を身に付けていると考えられる。

○　解答類型３の例

・Can you come your house?　・Can you coming to my house?

解答類型３に該当する生徒は、文法事項などに誤りがあるが、依頼する表現または命令文を用いて解答している。所有格の誤りや動詞の活動の誤りなどがあり、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型４の例

・Can I come to my house?　・Did you come to my house?

解答類型４に該当する生徒は、依頼する表現以外の疑問文を用いて解答している。you と I の主語の取り違え、所有格の誤りなどがあり、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型５の例

・Come home.　・I will want to come to my house.　・I come home.

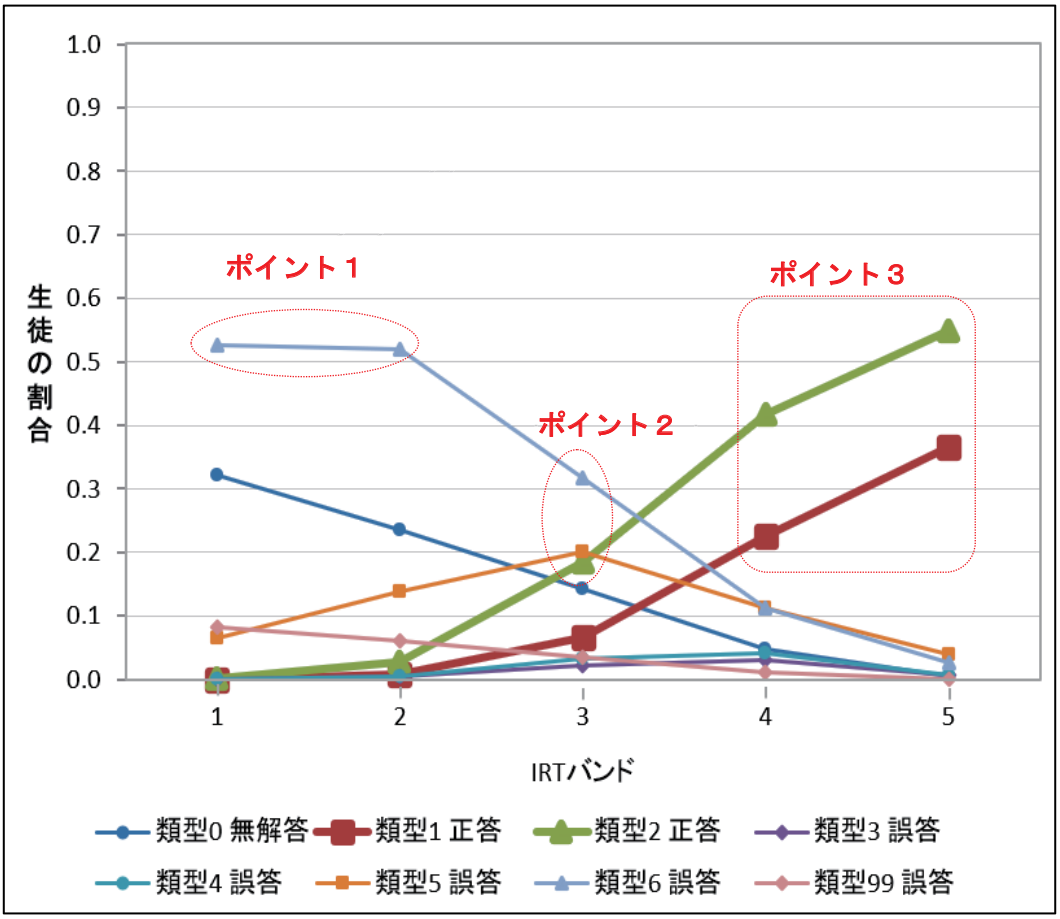
解答類型５に該当する生徒は、与えられた情報について依頼する表現を用いて解答していないが、come と house（home）を用いて解答しており、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型６の例

・My house come.　・Can I my home?　・My house going.
・My home go to.　・My house.　・Please.

解答類型６に該当する生徒は、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼することができていない。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１、２それぞれに属する生徒の５割以上が解答類型６に分類されており、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼する際に、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。指導に当たっては、１回目のやり取りを行った後に、場面や状況を把握させた上で、相手に依頼をする際の表現を複数提示し、学級全体でどちらがより適切かを考えさせることなどが考えられる。 【p.121「学習指導に当たって」（２）】

・ポイント２について

IRT バンド３に属する生徒の約２割が解答類型５に分類されている。IRT バンド１、２に属する生徒と比較すると、“come” と “house” を用いて解答している生徒の割合が高くなり、解答類型６に分類されている割合が低くなっている。指導に当たっては、必要な表現を用いて正しい文構造で話すことができるように、教師が正しい文構造で発話して例として示したり、学級全体で表現の仕方を共有した上で再度やり取りを行わせたりすることが考えられる。 【p.121「学習指導に当たって」（１）（２）】

・ポイント３について

IRT バンド４に属する生徒の約６割、および IRT バンド５に属する生徒の約９割が、正答である解答類型１、２に分類されており、おおむねの生徒が、電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に自分の家に来てもらうように依頼することができていると考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）教師が積極的に英語を使用して、ALTや生徒とやり取りを行う

生徒が、事実や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合うことができるようにするためには、教師自身が積極的に英語を使用し、質問に即興で適切に応答したり、関連する質問をしたりするなど、やり取りを行うことが大切である。例えば、教師とALTがやり取りを行う際に、①相手に聞き返したり確かめたりする、②相づちを打ったり、つなぎ言葉を用いたりする、③相手の答えを受けて、自分のことを伝える、④関連する質問を付け加える、などのやり取りの例を示すことが考えられる。生徒とやり取りする際には、生徒の発話を受けて、聞き返すなどして文での発話を促したり、より伝わる表現になるように支援したりすることが考えられる。

（２）やり取りを行った後に、学級全体で共有した内容を踏まえて再度やり取りを行う

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、ペアやグループで即興でやり取りをした後、どのような内容を話したらよいかという内容面の充実を図ることが大切である。例えば、情報を付け加えて話したり相手の発話に関連する質問をしたりして、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じてやり取りしている生徒をよい例として紹介し、やり取りをする際の視点とすることなどが考えられる。

また、どのような表現を用いたらよいかという言語面での充実を図ることも大切である。分からなかった表現を学級全体で確認したり、特定の表現を取り上げて言語の働きに着目して指導したりすることが考えられる。その他にも、生徒が録画したやり取りを見返して、自ら発話した表現を書き出して修正点を考えたり、発話の正確さの観点から、生徒の発話に対して教師が文での発話を促すフィードバックを与えたりするなどして、正確さに意識を向けることも考えられる。

このようにコミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じたやり取りをするための視点や表現を共有した上で、相手を変えて再度やり取りを行うなど、やり取りを繰り返すことが重要である。

（３）生徒が話しやすいテーマで、事実や自分の考えなどを話したり、質問したりする活動を継続的に行う

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話す技能を身に付けるために、例えば、授業の冒頭に生徒にとって興味・関心をもてるようなテーマや生徒が自分と関連付けて考えることができそうなテーマを取り上げることが考えられる。生徒が話しやすいテーマで事実や自分の考え、気持ちなどを即興で話したり、質問したりする活動を継続して行い、知識を活用して話す技能を身に付けるように指導することが大切である。生徒同士がやり取りをする際に、互いの考えを話すだけではなく、相手の話した内容に関連する質問をするように促すことで、「話すこと［発表］」ではなく、「話すこと［やり取り］」の力を育成することが重要である。

（４）言語活動の例

- 互いの新たな一面を知るために、好きなことや興味のあることについてやり取りする活動
- 友達に共感してもらえるように、自分の住むまちのおすすめスポットのよさについてやり取りする活動

授業アイディア例４
音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して即興で伝え合う

１．関連する調査問題と正答率

英語 15（１） 正答率 42.3%
英語 15（２）a 正答率 33.5%
英語 15（２）b 正答率 32.1%

調査問題（クリック、読み込み）

音声スクリプト（クリック、読み込み）

２．中学校学習指導要領における目標・内容

話すこと［やり取り］　ア　関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。

内容

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項
ア　音声
ウ　語、連語及び慣用表現
エ　文、文構造及び文法事項

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項
②　言語の働きに関する事項
イ　言語の働きの例
(ｳ) 事実・情報を伝える
(ｴ) 考えや意図を伝える
(ｵ) 相手の行動を促す

3．単元計画

（１）単元の目標

ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるために、自分の考えとその理由を伝えたり、相手に質問したりすることができる。

（２）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・未来表現の特徴やきまりを理解している。 ・考えや意図を伝える表現や相手の行動を促す表現の特徴やきまりを理解している。 ・未来表現などを用いて、交流会の内容を提案したり、提案に応じたりするなどの話す技能を身に付けている。	ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるために、自分の考えとその理由を伝えたり、相手に質問をしたりしている。	ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるために、自分の考えとその理由を伝えたり、相手に質問をしたりしようとしている。

※「記録に残す評価」は後日に行う。

（３）単元展開

時間	■ねらい 知 知識及び技能　聞 聞くこと　読 読むこと や 話すこと［やり取り］発 話すこと［発表］書 書くこと 促したい生徒の気付き、振り返り	※指導上の留意点
1	■単元の目標を理解する。 聞　ALT との交流会について教師の提案を聞き、単元の目標を理解する。 や　ALT との交流会でしたいことについて、友達とやり取りし、学級全体で考えを共有する。 ALT が楽しめる内容を提案したいな。 	※交流会の目的など、教師の提案の内容を確認する。 ※“I want to …”などの考えを述べる表現を板書する。

<table>
<tr><td rowspan="2">2</td><td colspan="2">■教科書の登場人物が週末の予定を決めている対話文を聞き、友達と週末の予定について伝え合う。</td></tr>
<tr><td>知　未来表現の特徴ときまりを理解し、未来表現を用いて、週末の予定について友達とやり取りする。
聞　未来表現を含む対話文を聞き、週末の予定を決めるために（１）登場人物が行く場所と（２）そこで行うことについて話していることを聞き取る。
や　友達と週末に一緒にしたいことについてやり取りし、学級全体で共有する。その際、「互いに楽しめること」という視点から内容と表現を振り返る。
相手が楽しめることを知るためには、相手が好きなことなどの情報を得て、それに基づいて、週末の予定を決めることが大切だ。</td><td>※第３時以降も未来表現の指導を継続して行う。
※登場人物が週末にどこへ行って何をする予定なのかを確認する。
※相手が興味・関心があることを踏まえて週末の予定を決める必要があることを共有する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td colspan="2">■教科書の登場人物が週末の予定を決めている対話文（第２時の続き）を聞き、友達と週末に一緒にしたいことを提案したり、提案に応じたりする。</td></tr>
<tr><td>聞　未来表現を含む対話文を聞き、（１）相手への提案する表現と（２）提案に応じる際の表現を聞き取る。
知　“How about …?” “Why don’t you …?” など相手への提案をする表現や、“Can you …?” など相手にお願いをする表現を理解する。“I agree with you.” など相手に賛同したり、“It’s nice, but …” や “I have other plans.” など相手の提案を断ったりする表現を理解する。
相手に提案する際には、“Let’s …” 以外にも “How about …?” などの表現の仕方があるんだな。
や　週末の予定を決めるために、提案をしたり、提案に応じたりするやり取りの中で、自分の考えを詳しく話したり、相手に質問したりすることのよさを学級全体で共有する。
提案に賛同してもらうために、相手の好きなことを基に提案することができた。</td><td>※ALT にどのような表現が適切かを尋ね、提案をする表現や、相手の提案に賛同する表現、相手の提案を断る表現を板書する。
※相手の提案を受け入れつつ、自分の考えを伝えることを共有する。
※よりよい週末の予定となるように提案したり、提案に応じたりする際には、その理由も付け加えることのよさや相手に５Ｗ１Ｈ を用いた質問をすることのよさを共有する。</td></tr>
<tr><td>4
本時</td><td colspan="2">■ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるために、考えと理由を伝えたり、それに関する質問をしたりする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">5</td><td colspan="2">■ALT との交流会でしたいことをまとまりのある英語で話して表現する。</td></tr>
<tr><td>や　ALT だけではなく、学級の友達も一緒に楽しむために、交流会でしたいことをペアで伝え合う。
や　ALT との交流会で行いたいことについて、ペアで話し合ったことを基に、ALT と学級全体に提案する。
や　グループごとに考えとその理由を伝え、グループの代表者がやり取りし、学級として１つの考えにまとめる。
ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるという目的を意識することで、話す内容を工夫したり、友達に質問したりすることができた。</td><td>※ALT だけではなく、学級の友達も楽しめるかどうかに着目してやり取りさせる。
※共通する提案とその理由をまとめて板書する。
※単元の目標を振り返り、できるようになったこととその理由、もっと伸ばしたいことなどを記述させる。</td></tr>
<tr><td>後日</td><td colspan="2">パフォーマンステスト（令和８年度　全国学力・学習状況調査　中学校英語15など）</td></tr>
</table>

本単元のような学習活動を、「話すこと［発表］」に重点を置くことで英語16を、「書くこと」に重点を置くことで英語13をパフォーマンステストとして実施することも考えられる。

４．第４時の展開案

１．コミュニーションを行う目的や場面、状況などを把握する

ポイント　意欲を高めたり、活動の見通しをもたせたりするために、「ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるために」というコミュニケーションを行う目的を明確にします。


教師

We are going to hold a party next week. Through the lessons, we are going to plan some activities with the ALT. I hope all of us will enjoy the party. What information do you know about him?


生徒

Mr. Green is from Australia. He doesn't speak Japanese very well. And…



We don't know much about him. Then how about asking him some questions to make a good plan?



Sure. Mr. Green, do you like sports?


Mr. Green
(ALT)

Yes, I do. My favorite sport is soccer. I usually watch soccer games on TV, but I don't play it.

What's your favorite food?



I like sushi. I ate it at a restaurant in Australia. I want to make sushi, but I don't know how to make it.

Mr. Green
-from Australia
-×speak Japanese

Favorite things
-watch soccer
-sushi (×how to make)

聞き出した Mr. Green の情報

２．ペアで互いの考えを伝え合う

ポイント　学級全体に紹介するために、言語面と内容面から生徒同士のやり取りを観察し、どのような指導が必要かを見取ります。

録画　**生徒同士のやり取り例①**

REC


生徒 A

I want to play soccer with Mr. Green.


生徒 B

Why?

I want to play some sports. I like soccer. Soccer is interesting.

It's a good idea, but I want to cook some food.

I like eating, but I am not good at cooking.





I like cooking. It is very fun.

What do you cook?

I cook some miso soup.



提案の根拠として Mr. Green の情報に言及してやり取りすると「皆が楽しめる」につながりそう。

録画　**生徒同士のやり取り例②**

REC

What are we going to do?



How about cooking? We will have English class in the 4th period next week.


生徒 C

Sounds nice. What are we going to make?

生徒 D

I want to make Japanese food.

I agree. He likes sushi but Nigirizushi is difficult to make.



How about Makizushi? We can enjoy making it together.



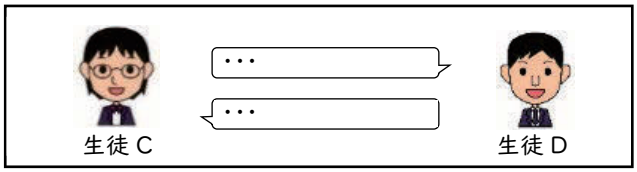
It's a good idea, but I don't know how to make it. Will you show it to me?



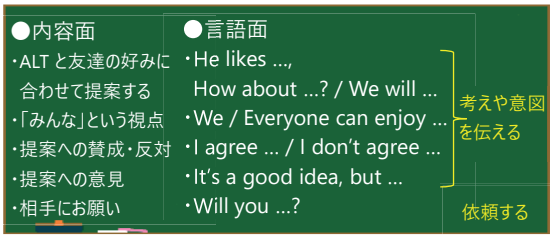
Mr. Green の情報に言及して、How about …?や We can …を用いており、よいモデルになりそうだ。

3．内容面と言語面から学級全体で共有を行う

「ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるため」というコミュニケーションを行う目的に応じて、内容面と言語面からよい例となるペアのやり取りのよい点を共有します。そして、整理したやり取りのポイントを基に、自分たちのやり取りを振り返らせます。

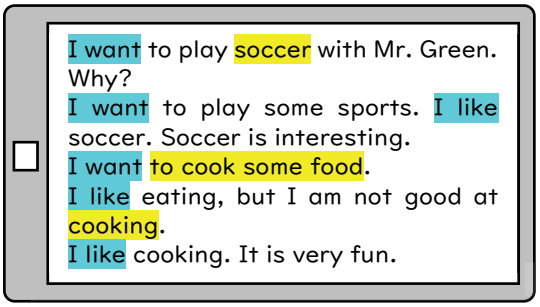


※生徒 C と生徒 D のやり取りの録画を視聴し、学級全体で言語面と内容面のよさを共有します。



整理したやり取りのポイント

There are some points of their talk. What are the good points of your talk? And how do you improve your talk next time?　黒板のポイントを参考に振り返ってみましょう。



文字起こしされた生徒 A と生徒 B のやり取りに線を引いて振り返っている画面（例）

生徒 A

サッカーや料理など ALT の情報に関連させて話せたと思う。（黄色）

せっかく料理の話をしているから、D さんのように Mr. Green がお寿司が好きであることと関連させられたら、もっと良かったと思う。

生徒 B

こうして見ると I want や I like が多い。自分の主張以外に、C さんのように How about ...?で提案する表現を使いたいな。（青色）

He や We など相手の立場に立って考えているのもよいですね。

学習者用端末で録音し、文字起こしをしたやり取りを「整理したやり取りのポイント」を基に振り返ることで、目的意識をもってやり取りを改善できるようにします。内容面と言語面から振り返り、次のやり取りでどのように変えてみるか、具体的に考えることができるようにします。

4．相手を変え、ペアで互いの考えを伝え合う

「ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるため」というコミュニケーションを行う目的に応じて、やり取りを行っているかを見取るために、再度ペアでやり取りをさせます。

生徒同士のやり取り例

生徒 A: I want to play soccer with Mr. Green because he likes soccer.

生徒 E: It's a good idea. He likes soccer, but he doesn't play it.

生徒 A: You're right.

生徒 E: How about cooking some Japanese food? When I was in an elementary school, I made miso-soup for ALT. He felt happy at that time.

生徒 A: That's a good idea because he likes sushi, but I am not good at cooking. Can you teach me?

生徒の学習状況に応じて、2回目のやり取りを終えた後に、次のような活動も考えられます。

○2回目のやり取りで変容が見られた生徒の姿から学級全体で共有したことを踏まえて3回目のやり取りを行う。

○必要に応じて、言語材料について、理解したり、練習したりする活動を行う。

○他の場面や状況において言語の働きを意識して表現を使い分ける活動を行う。

○「ALT と学級の友達が楽しめる交流会の内容を決めるため」という単元の目標を振り返り、できるようになったこととその理由、もっと伸ばしたいことなどを記述する。

コラム④

【話すことの評価について】

多くの中学校では何らかの「話すこと」のテストが行われていますが、「話すこと」の評価は重要だとわかっていても、どのように行うべきか迷う場合も多いようです。本コラムでは、テストの作成、実施、採点の観点から、記録に残す評価をどのような形で行うことが望ましいかを考えてみます。指導・学習につなげるために結果を活用する点は、振り返りについて述べたコラム③を参照してください。

まず、「話すこと」のテストの作成では、どのような課題で評価を行うかを授業で指導した内容に基づいて、話す目的や場面、状況などを設定し、「説明する」、「約束する」、「招待する」など、テストで引き出したい言語の働きを明確にすることが求められます。令和８年度調査の英語15では、「あなたは、明日、留学生のサラと遊ぶ予定です。これから明日の天気予報を確認して、明日のことについてサラと話すところです。」というコミュニケーションを行う目的や場面、状況などを設定し、天気や予定を「説明する」、家に来てもらうように「依頼する」という言語の働きに応じた言語使用ができるかどうかが測られています。また「話すこと」の［発表］や［やり取り］、「知識・技能」と「思考・判断・表現」、事前準備ありの形となしの形（即興型）を意識し、学習段階を考慮しながら、可能な範囲でバランスよく入れるようにします。特に、中学校学習指導要領に記載のある「相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動」の成果をテストする形が望ましいでしょう。小学校から継続し、中学校で普段の授業でも同様の活動を行って指導していれば、スピーキングテストにおいて同様の活動が求められても緊張せずに取り組めると考えられます。

さらに、テスト作成段階で、採点基準の作成も行います。全国学力・学習状況調査では類型を用いた分類を行っており、同様の形を用いることもできます。しかし、普段の授業のパフォーマンステストでは、採点基準を使い、発話の量や質を段階的に確認する方法が一般的です。採点基準の記述内容は、設定したテストの目的や場面、状況などや、言語の働きによって若干変わってきます。語句のみでも意図が伝わればよい場合も、文で説明することが求められる場合もあり、それに添って採点基準を修正します。採点基準の例は、国立教育政策研究所が発行した『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』の小学校外国語編・中学校外国語編・高等学校外国語編（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html）や、文部科学省が発行した『高等学校外国語科におけるパフォーマンステスト参考資料』（https://www.mext.go.jp/content/20220715-mxt_kyoiku01-000021347_1.pdf）で参照することができます。なお「知識・技能」の評価規準には、指導内容に基づき文法や語彙だけでなく発音も入れることができます。

次に「話すこと」のテストの実施・採点について、全国学力・学習状況調査では CBT 形式で録音を聞いて後で採点する形で行われており、学校で行う「話すこと」のテストでも同様の方法をとることができます。しかし、それだけではなく、テスト実施では ALT や JTE との会話、生徒同士の会話、AI との会話、録画・録音の提出などの多様な形があり、採点ではその場で採点するか、録画・録音して後で採点するという形があります。様々な形は、例えば上掲の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校外国語】』には、生徒２人でやり取りをする場面を評価する例が載っていますし、『高等学校外国語科におけるパフォーマンステスト参考資料』には、教師と生徒の会話や、グループ内での個人発表をその場で採点したり、グループ内での個人発表を録画して後で採点したりするテスト例も載っています。

テストの作成、実施、採点において、AI を活用する際には、文部科学省「初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン」に従って、AI は補助的に用い、AI が出した作成物、実施方法、採点結果などについては、必ず教師が確認する必要があります。

英語16　まとまりのある内容を話す

＜問題文＞
あなたは、留学生のミン(Ming)と仲良くなるために、一緒にしたいことをクラスの友達と発表し合っています。次はあなたが発表する番です。「ミンと一緒にしたいことを１つ取り上げ」、「なぜそれをしたいのか」を、英語で話しましょう。動画内の【例】を参考にしてもかまいません。【考える時間１分　解答時間 30 秒】



出題の趣旨

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる。

まとまりのある内容を話す際には、話し手として伝えたい内容や順序、聞き手に分かりやすい展開や構成を考え、１つのテーマに沿った発表をしたり、内容に一貫性があるスピーチをしたりすることが重要である。

英語16では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかを把握するために、留学生と一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を話す問題とした。

■学習指導要領における目標

話すこと［発表］

イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

話すこと［発表］

(イ)　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
16			（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 条件①　留学生のミンと一緒にしたいことを１つ取り上げて話している。 条件②　条件①の理由を話している。		
		1	条件①、条件②を満たして解答しているもの	36.6	◎
		2	文法事項など※に誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答しているもの	16.9	○
		3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	10.9	
		4	条件①を満たし、条件②に関する発話がないもの	5.9	
		5	条件①を満たしていないが、条件②を満たして解答しているもの	6.9	
		6	条件①に関する発話はないが、条件②を満たして解答しているもの	0.4	
		7	条件①、条件②を満たさないで解答しているもの	9.8	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	1.2	
		0	無解答	11.3	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 15,252 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 53.5%である。留学生のミンと一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を話す本問では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型３の反応率が 10.9%、無解答の反応率が 11.3%と高い。

○　平成 31 年度【中学校】話すこと英語 3 では、与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみるために、海外のテレビ局の要望に応えて、自分の将来の夢、またはやってみたいことを話す問題を出題し、正答率は 45.8%であった。今回の結果から、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

・I want to play tennis with Ming because it is fun for me to play tennis.
・I want to sing a song with Ming. I like to sing a song with Ming.
・I want to draw pictures with Ming because I like drawing.
・I want to play *karuta* with Ming. He will enjoy Japanese culture.

解答類型１に該当する生徒は、留学生と一緒にしたいこと（条件①）を１つ取り上げ、その理由（条件②）を話すことができている。このことから、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができていると考えられる。

○　解答類型２の例

・I want to play soccer to Ming because Ming and I like soccer.　（前置詞の誤り）
・I want to playing tennis because it is fun.　（動詞の活用の誤り）

解答類型２に該当する生徒は、英語の表現に関して、所有格の誤り、be 動詞の誤り、形容詞の誤り、前置詞の誤り、動詞の活用の誤りなど一部不正確な表現は見られるが、聞き手に伝わる表現で話している。

※解答類型３以降は、語順の誤り、主語の誤り、一般動詞の欠落、内容の矛盾などがあるため、「条件①」または「条件②」あるいはそのどちらも満たしていないとしている。

○　解答類型３の例

・I want to play *karuta* with Ming because it can learn Japanese culture and it is very enjoy.
・I want to play tennis or soccer because I want to sing singing.　（内容の矛盾）
・I want to sing the song with her because I am sing good.

解答類型３に該当する生徒は、留学生のミンと一緒にしたいこと（条件①）を話すことはできているが、その理由（条件②）を話すことはできていない。

○　解答類型４の例

・I want to play tennis and soccer and sing song.
・We want to play soccer with Ming after school.

解答類型４に該当する生徒は、留学生のミンと一緒にしたいこと（条件①）を話すことはできているが、その理由（条件②）に関する発話がない。理由として話す内容が思い浮かばなかった、あるいは話す内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかったと考えられる。

○　解答類型５の例

・I tennis with Ming because it is interesting.
・With Ming play the tennis because I like tennis.

解答類型５に該当する生徒は、留学生のミンと一緒にしたいこと（条件①）を話すことはできていないが、その理由（条件②）を話すことはできている。

○　解答類型６の例

・Because singing is fun.　　・I like music.

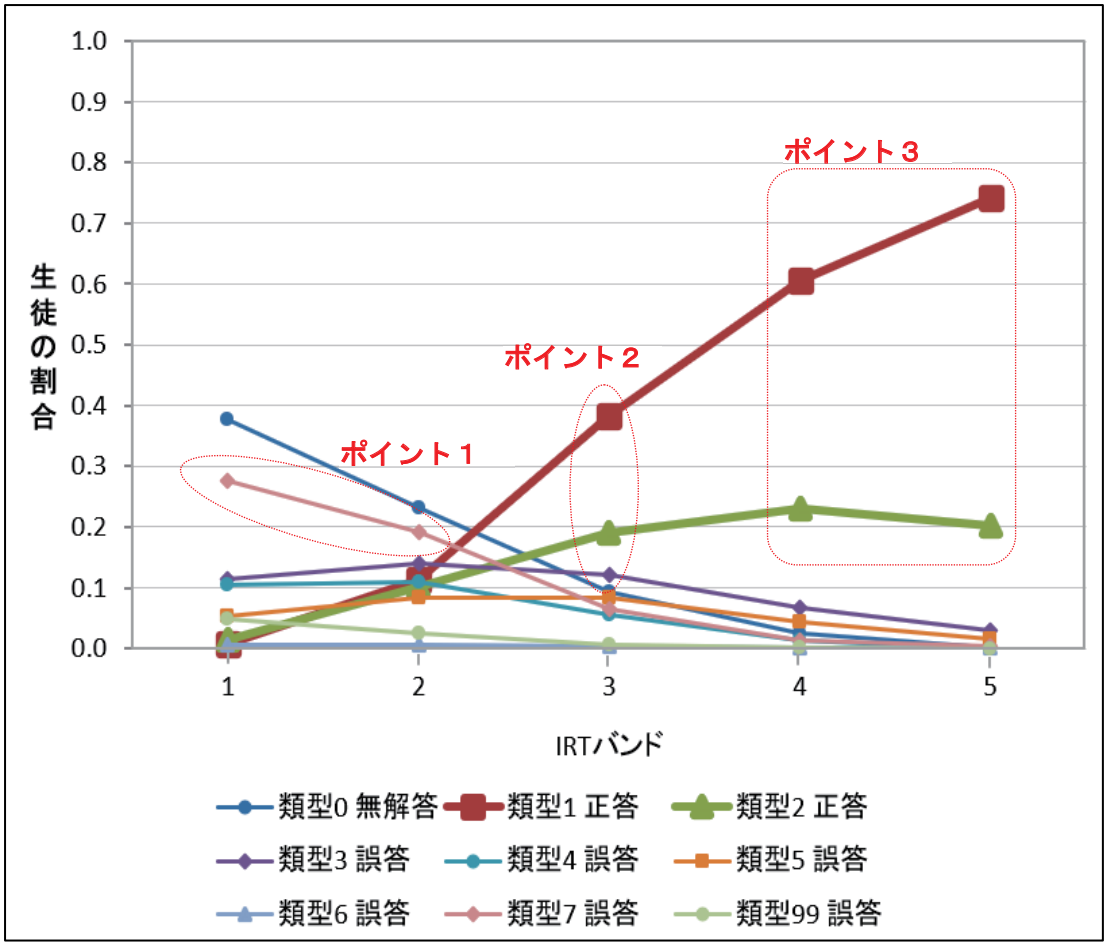
解答類型６に該当する生徒は、留学生のミンと一緒にしたいこと（条件①）に関する発話はないが、その理由（条件②）を話すことはできている。自分の考えを明確に表現することに課題があると考えられる。

○　解答類型７の例

・Want to do is Ming is the *karuta* because is *karuta* Japan culture Ming take.
・I want, I want to music, very interest.　・I eat food because I like.
・To sports because we together fun.　　・I want to tennis.

解答類型７に該当する生徒は、留学生のミンと一緒にしたいこと（条件①）とその理由（条件②）を話すことができていない。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識などを活用して話すことに課題があると考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１に属する生徒の２割以上、IRT バンド２に属する生徒の約２割が解答類型７に分類されており、留学生と一緒にしたいこととその理由を話す際に、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識などを活用して話すことに課題があると考えられる。指導に当たっては、「話すこと［やり取り］」を繰り返し、まずは１、２文で話すことから始め、徐々に３、４文とまとまりのある内容を聞き手に伝わる表現で話すことにつなげていくことが考えられる。 【p.137「学習指導に当たって」（１）】

・ポイント２について

IRT バンド３に属する生徒の約６割が正答である解答類型１、２に分類されている。１割以上が誤答である解答類型３に分類されており、理由について何かしらの英語を話してはいるが、コミュニケーションに支障をきたす誤りがある。指導に当たっては、簡単な「話すこと［発表］」の活動を繰り返す中で、言語面での課題がある場合には、ALT に尋ねたり学級全体で共有したりして、聞き手に伝わる表現を用いて話すように指導することが考えられる。 【p.137「学習指導に当たって」（２）】

・ポイント３について

IRT バンド４に属する生徒の８割以上、および IRT バンド５に属する生徒の９割以上が、正答である解答類型１、２に分類されている。このことから、IRT バンド４、５に属する相当数の生徒は、留学生と一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を話すことができていると考えられる。

英語17　まとまりのある内容を話す

<問題文>
あなたは、英語の授業で、クラスの友達に自分のことをより知ってもらえるように、「私の好きな人物」について紹介します。次はあなたが発表する番です。「紹介したい人物を１人取り上げ」、「なぜ好きなのか」を、英語で話しましょう。動画内の【例】を参考にしてもかまいません。【考える時間 1 分　解答時間 30 秒】



出題の趣旨

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる。

まとまりのある内容を話す際には、話し手として伝えたい内容や順序、聞き手に分かりやすい展開や構成を考え、１つのテーマに沿った発表をしたり、内容に一貫性があるスピーチをしたりすることが重要である。

英語17では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかを把握するために、自分の好きな人物を１人取り上げ、好きな理由を話す問題とした。

■学習指導要領における目標

話すこと［発表］

イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

話すこと［発表］

(イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
17			（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 条件①　好きな人物を１人取り上げて話している。 条件②　条件①の理由を話している。		
		1	条件①、条件②を満たして解答しているもの	35.8	◎
		2	文法事項など※に誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答しているもの	12.2	○
		3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	12.4	
		4	条件①を満たし、条件②に関する発話がないもの	0.7	
		5	条件①を満たしていないが、条件②を満たして解答しているもの	7.6	
		6	条件①に関する発話はないが、条件②を満たして解答しているもの	0.1	
		7	条件①、条件②を満たさないで解答しているもの	17.8	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	1.3	
		0	無解答	12.1	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 15,577 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 48.0%である。自分の好きな人物を１人取り上げ、好きな理由を話す本問では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型３の反応率が 12.4%、解答類型７の反応率が 17.8%、無解答の反応率が 12.1%と高い。

○　平成 31 年度【中学校】話すこと英語 3 では、与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみるために、海外のテレビ局の要望に応えて、自分の将来の夢、またはやってみたいことを話す問題を出題し、正答率は 45.8%であった。今回の結果から、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

・My favorite person is my sister. She is very kind and she can sing well.
・My favorite person is Oda Nobunaga because he is smart and strong.
・（人物名） is my favorite person. He can play soccer well. I want to be a soccer player.
・I like Tezuka Osamu because he is a doctor and he is a writer too. I respect him.

解答類型１に該当する生徒は、自分の好きな人物（条件①）を１人取り上げ、その理由（条件②）を話すことができている。このことから、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができていると考えられる。

○　解答類型２の例

・My favorite person is （人物名）. She is good _ dancing. She is a cute dancing.
（前置詞の誤り）（名詞の誤り）
・I like（人物名） the best. He sang a song very well and he voice is beautiful.
（所有格の誤り）

解答類型２に該当する生徒は、英語の表現に関して、所有格の誤り、be 動詞の誤り、形容詞の誤り、前置詞の誤り、動詞の活用の誤りなど一部不正確な表現は見られるが、聞き手に伝わる表現で話している。

※解答類型３以降は、語順の誤り、主語の誤り、一般動詞の欠落、内容の矛盾などがあるため、「条件①」または「条件②」あるいはそのどちらも満たしていないとしている。

○　解答類型３の例

・My favorite person is（人物名）because fast swim.
・My favorite person is（人物名）is good baseball player.

解答類型３に該当する生徒は、好きな人物（条件①）を話すことはできているが、その理由（条件②）を話すことはできていない。

○　解答類型４の例

・My favorite person is　（人物名）.
・I like（人物名）the best.

解答類型４に該当する生徒は、好きな人物（条件①）を話すことはできているが、その理由（条件②）に関する発話がない。理由として話す内容が思い浮かばなかった、あるいは話す内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかったと考えられる。

○　解答類型５の例

・I like baseball player because he is cool.
・My favorite person and he good soccer player.

解答類型５に該当する生徒は、好きな人物（条件①）を話すことはできていないが、その理由（条件②）を話すことはできている。

○　解答類型６の例

・It’s because he is kind to me.
・Her voice is very beautiful.

解答類型６に該当する生徒は、好きな人物（条件①）に関する発話がないが、その理由（条件②）を話すことはできている。話し手の質問を聞き、自分の考えを明確に表現することに課題があると考えられる。

○　解答類型７の例

・My favorite person is baseball player, but I like cool.
・I like to play the game. This is my favorite.
・My favorite person play guitar.
・This person is　（人物名）. He is. I love.
・My brother because I like baseball.

解答類型７に該当する生徒は、好きな人物（条件①）とその理由（条件②）を話すことができていない。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識などを活用して話すことに課題があると考えられる。

英語18　まとまりのある内容を話す

＜問題文＞
あなたは、海外の中学生とお互いのまちについてオンラインで発表し合っています。次はあなたが発表する番です。「あなたのまちを訪れるには、どの季節がよいかを１つ取り上げ」、「なぜその季節がよいのか」を、英語で話しましょう。【考える時間１分　解答時間 30 秒】



１．出題の趣旨

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみる。

まとまりのある内容を話す際には、話し手として伝えたい内容や順序、聞き手に分かりやすい展開や構成を考え、１つのテーマに沿った発表をしたり、内容に一貫性があるスピーチをしたりすることが重要である。

英語18では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかを把握するために、自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を１つ取り上げ、その理由を話す問題とした。

■学習指導要領における目標

話すこと［発表］

イ　日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

話すこと［発表］

(イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率（%）	正答
18			（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 条件①　自分のまちを訪れるのによい季節を１つ取り上げて話している。 条件②　条件①の理由を話している。		
		1	条件①、条件②を満たして解答しているもの	17.2	◎
		2	文法事項など※に誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答しているもの	4.3	○
		3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	8.9	
		4	条件①を満たし、条件②に関する発話がないもの	1.1	
		5	条件①を満たしていないが、条件②を満たして解答しているもの	21.8	
		6	条件①に関する発話はないが、条件②を満たして解答しているもの	0.4	
		7	条件①、条件②を満たさないで解答しているもの	30.9	
		99	上記以外の解答　（日本語など）	2.0	
		0	無解答	13.5	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 15,267 人）

２．分析結果と課題

○　正答率は 21.5%である。自分のまちを訪れるのにおすすめの季節を１つ取り上げ、その理由を話す本問では、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型５の反応率が 21.8%、解答類型７の反応率が 30.9%、無解答の反応率が 13.5%と高い。

○　平成 31 年度【中学校】話すこと英語 3 では、与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができるかどうかをみるために、海外のテレビ局の要望に応えて、自分の将来の夢、またはやってみたいことを話す問題を出題し、正答率は 45.8%であった。今回の結果から、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

- Spring is a good season to visit my town because we can see a lot of cherry blossoms.
- I think good season is winter because Kagoshima has famous hot springs. You can relax.
- Fall is good because there are good foods in my town. For example, there is seafood.
- Winter is good to visit my town because we have a lot of snow, so you can enjoy skiing.

解答類型１に該当する生徒は、自分のまちを訪れるのにおすすめの季節（条件①）を１つ取り上げ、その理由（条件②）を話すことができている。このことから、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができていると考えられる。

○　解答類型２の例

- You should visit my town __ spring because there <u>is</u> many flowers in my town.
  （前置詞の誤り）（be 動詞の誤り）
- Winter is good to visit my town because mountain is <u>cover</u> _ snow.
  （動詞の活用ミス）（前置詞の誤り）

解答類型２に該当する生徒は、英語の表現に関して、所有格の誤り、be 動詞の誤り、形容詞の誤り、前置詞の誤り、動詞の活用の誤りなど一部不正確な表現は見られるが、聞き手に伝わる表現で話している。

※解答類型３以降は、語順の誤り、主語の誤り、一般動詞の欠落、内容の矛盾などがあるため、「条件①」または「条件②」あるいはそのどちらも満たしていない。

○　解答類型３の例

・Spring is good to visit my town because it’s beautiful Sakura.
・You come to this town in the summer because my town is there are is food.

解答類型３に該当する生徒は、自分のまちを訪れるのによい季節（条件①）を話すことはできているが、その理由（条件②）を話すことはできていない。

○　解答類型４の例

・You should visit our town in summer.
・Winter is the best season.

解答類型４に該当する生徒は、自分のまちを訪れるのによい季節（条件①）を話すことはできているが、その理由（条件②）に関する発話がない。理由として話す内容が思い浮かばなかった、あるいは話す内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかったと考えられる。

○　解答類型５の例

・The best season. You can visit the snow festival in our city.
・You should visit our town because you can enjoy swimming in the sea.
・Winter is winter. You can enjoy skiing.
・It’s good to visit my town because summer very interesting.

解答類型５に該当する生徒は、自分のまちを訪れるのによい季節（条件①）を話すことはできていないが、その理由（条件②）を話すことはできている。

○　解答類型６の例

・Because you can enjoy swimming in the sea.
・You can ski and snowboard.

解答類型６に該当する生徒は、自分のまちを訪れるのによい季節（条件①）に関する発話はないが、その理由（条件②）を話すことはできている。自分の考えを明確に表現することに課題があると考えられる。

○　解答類型７の例

・We have many good places.
・Spring. new becautiful flower is Sakura.
・I visit winter.
・Because my town is beautiful illumination.
・Summer because pool

解答類型７に該当する生徒は、自分のまちを訪れるのによい季節（条件①）とその理由（条件②）を話すことができていない。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

３．学習指導に当たって（英語 16～英語 18）

（１）「話すこと［やり取り］」の活動を充実させ、「話すこと［発表］」につなげる

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことができるようにするためには、「話すこと［やり取り］」の活動を充実させることが考えられる。英語16は、留学生のミンと一緒にしたいことを１つ取り上げ、その理由を発表する場面である。令和８年度全国学力・学習状況調査 中学校英語 解説資料では、正答例の１つとして “I want to sing English songs with her because we can enjoy singing together.” を例示している。このような解答を引き出すために、授業において次のようなやり取りを行うことが考えられる。

A: What do you want to do with Ming?
B: I want to sing English songs.
A: Why do you think so?
B: Because we can enjoy singing together.
A: That’s a good idea. Can you say your idea and the reason in one sentence?
B: I want to sing English songs because we can enjoy singing together.

英語16は、留学生のミンと一緒にしたいこととその理由として、１～２文を話すことができれば正答となるが、正答率は 53.5％と課題がある。「話すこと［やり取り］」の活動を充実させ、自分の考えと理由を関連付けて話す活動を繰り返し、３文、４文と徐々に発話する量を増やしていくことで、１つのテーマに沿った発表をしたり、内容に一貫性があるスピーチをしたりするなど、まとまりのある内容を話すことにつなげていくことが大切である。英語 16～英語 18 のように、自分の考えを発表する場面では、“*karuta*” “*Tezuka Osamu*” “Winter” などと語句だけで答えても、それが何を意味しているのかが聞き手に伝わらないため、“I want to play *karuta*.” “My favorite person is *Tezuka Osamu*.” “Winter is a good season to visit my town.”など、文で発話させる指導を行うことが大切である。「話すこと［やり取り］」を繰り返す中で、聞き手に伝わる表現で話せるように指導することを併せて行うことが大切である。

（２）簡単な「話すこと［発表］」の活動を繰り返す

英語 16～英語18のように、まとまりのある内容を話すためには、関心のある事柄について簡単な「話すこと［発表］」を繰り返すことが重要である。上記の（１）の「話すこと［やり取り］」の活動とともに、「自分の考えとその理由を話す」、「体験したこととその感想を話す」など、２文～３文程度で話す活動を行うことが考えられる。一度話した後で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じているどうかに着目させ、ペアやグループでよりよい内容や表現について振り返る機会を作ったり、ALT の話をモデルとして聞いたりした後、ペアやグループを変えて再度話す活動を行い、徐々に話す内容を増やしていくようにする。

まとまりのある内容を話す際に、自分の考えをキーワードとしてメモに整理させることも考えられるが、まずは、メモを活用せずに、簡単な内容について話す活動を行うことが大切である。４文、５文と話す内容が増えてくると、話す内容や構成を整理する必要が出てくるため、その段階でキーワードなどをメモに書かせることが考えられる。「話すこと［発表］」を繰り返す中で、聞き手に伝わる表現で話せるように指導することを併せて行うことが大切である。

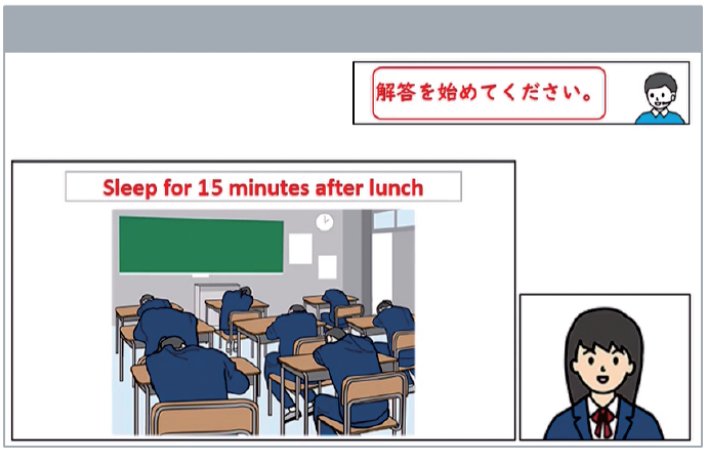
（３）言語活動の例

- ALT が訪れてみたいと思ってもらえるように、自分が住んでいる地域のおすすめスポットとそこでできることなどを紹介する活動
- 聞き手に自分の新たな一面を知ってもらうために、私の好きな人物とその理由について話す活動

英語19　話を聞いて、考えとその理由を話す

＜問題文＞

あなたは、英語の授業で、オンライン交流をしている中学生のかおりと「学校生活をよりよくする方法」について話し合っています。発表を聞き、かおりの意見に対する「**あなたの考え**」と「**なぜそう考えるのか**」を、英語で答えましょう。【考える時間１分　解答時間 30 秒】



英語の音声スクリプト

At school, I often become sleepy in the afternoon. I think we should sleep for 15 minutes after lunch because we will feel better and can study harder later. Some classmates agree with my idea, but other classmates don't agree because they want to talk with their friends more. My idea is we should sleep for 15 minutes after lunch. Do you think my idea is good? And why?

１．出題の趣旨

社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみる。

「社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由などを話す」とは、社会的な話題に関して聞いて分かった情報を活用し、聞き手に話して伝えることである。その際、既習の表現などを駆使しながら、自分自身の考えや気持ちを理由などとともに話して伝えることが重要である。

英語19では、社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかを把握するために、学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す問題とした。

■学習指導要領における目標

話すこと［発表］

ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

■評価の観点

思考・判断・表現

■学習指導要領に示されている言語活動との関連

話すこと［発表］

(ｳ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。

１．解答類型と反応率

問題番号		解答類型		反応率(%)	正答
19			(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 条件①　話し手の意見に対する自分の考えを話している。 条件②　条件①の理由を話している。		
		1	条件①、条件②を満たして解答しているもの	17.5	◎
		2	文法事項など※に誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答しているもの	8.4	○
		3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	23.6	
		4	条件①を満たし、条件②に関する発話がないもの	3.6	
		5	条件①を満たしていないが、条件②を満たして解答しているもの	4.7	
		6	条件①に関する発話はないが、条件②を満たして解答しているもの	0.7	
		7	条件①、条件②を満たさないで解答しているもの	22.0	
		99	上記以外の解答　(日本語など)	2.5	
		0	無解答	17.0	

※「文法事項など」とは、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを指す

（N= 46,096 人）

■解答類型について

○　正答率は 25.8%である。学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す本問では、社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題がある。他の解答類型と比較すると、誤答の中では解答類型３の反応率が 23.6%、解答類型７の反応率が 22.0%、無解答の反応率が 17.0%と高い。

○　令和５年度【中学校】話すこと英語 2 では、社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができるかどうかをみるために、環境問題についてのプレゼンテーションを聞き、話し手の意見に対する自分の考えとその理由を伝える問題を出題し、正答率は 4.2%であった。今回の結果から、社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに引き続き課題があると考えられる。

○　解答類型１の例

- It’s a good idea because many students will study harder if they sleep after lunch.
- Your ides is good because I often become sleepy after lunch.
- I don’t think your idea is good because talking with friends is more important than sleeping for 15 minutes after lunch.
- No, I don’t. Students should play outside after lunch.

解答類型１に該当する生徒は、かおりの意見に対する自分の考え（条件①）とその理由（条件②）を話すことができている。このことから、社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができていると考えられる。

○　解答類型２の例

・I think your opinion is very nice because I am often sleep after lunch.（形容詞の誤り）
・Yes, I do because my classmates are looking sleepy.（動詞の活用の誤り）
・I don't agree _ your idea because I classmates are not sleepy.
（前置詞の誤り）（所有格の誤り）

解答類型２に該当する生徒は、英語の表現に関して、所有格の誤り、be 動詞の誤り、形容詞の誤り、前置詞の誤り、動詞の活用の誤りなど一部不正確な表現は見られるが、聞き手に伝わる表現でかおりの意見に対する自分の考え（条件①）とその理由（条件②）を話すことができている。

※解答類型３以降は、語順の誤り、主語の誤り、一般動詞の欠落、内容の矛盾などがあるため、「条件①」または「条件②」あるいはそのどちらも満たしていないとしている。

○　解答類型３の例

・I think that's good because I think it's important.
・Kaori’s idea is very good because student should not sleep in the school.（内容の矛盾）
・I agree with your idea. We should sleep for 15 minutes after lunch.（主張の繰り返し）

解答類型３に該当する生徒は、かおりの意見に対する自分の考え（条件①）を話すことはできているが、その理由（条件②）を話すことはできていない。

○　解答類型４の例

・Yes, I think so too.　・It’s a good idea.　・No, I don’t.

解答類型４に該当する生徒は、かおりの意見に対する自分の考え（条件①）を話すことはできているが、その理由（条件②）に関する発話がない。理由として話す内容が思い浮かばなかった、あるいは話す内容は思い浮かんだが、その内容を表現する英語が思い浮かばなかったと考えられる。

○　解答類型５の例

・She is idea. She have idea is very nice because I hope sleep for 15 minutes after lunch.
・She has idea is not good. I think that sleeping is good.

解答類型５に該当する生徒は、かおりの意見に対する自分の考え（条件①）は話すことはできていないが、その理由（条件②）を話すことはできている。話し手の質問を聞き、それに対する自分の立場を明確に表現することに課題があると考えられる。

○　解答類型６の例

・Many students will study hard.
・It is healthy for students to sleep for 15 minutes after lunch.

解答類型６に該当する生徒は、かおりの意見に対する自分の考え（条件①）に関する発話はないが、その理由（条件②）を話すことはできている。話し手の質問を聞き、それに対する自分の立場を明確に表現することに課題があると考えられる。

○　解答類型７の例

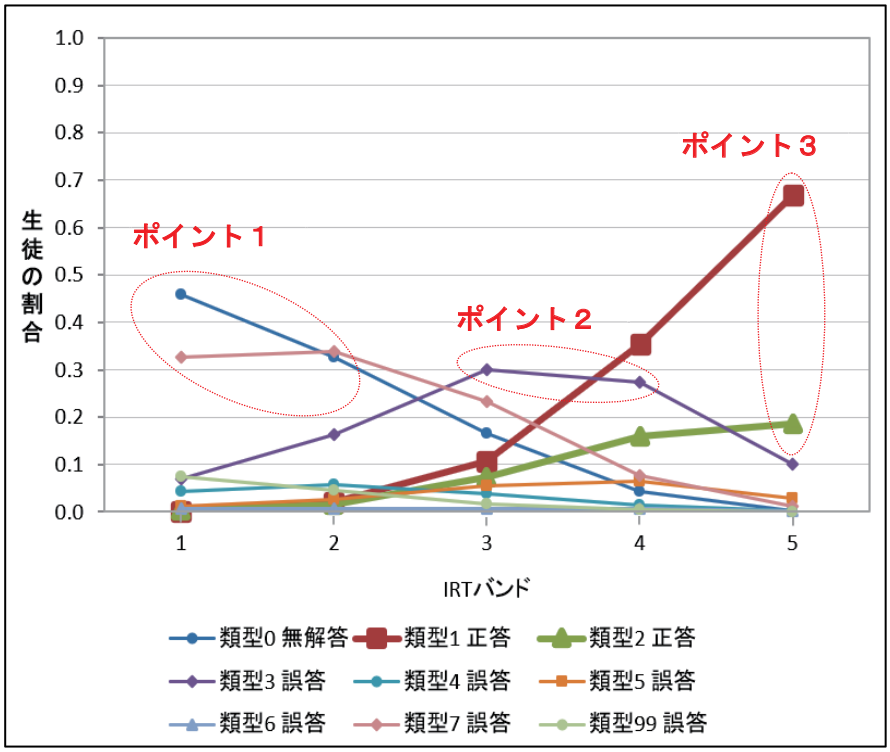
・I think Kaori to good because after lunch is to friend to talk and study time ad play time.
・I think sleep for 15 minutes after lunch because we are like after lunch.
・You think is good because I think sleep for 15 minutes after lunch.
・She is I like because I often after lunch.
・I think that you don’t good idea because school is to study.

解答類型７に該当する生徒は、かおりの意見に対する自分の考え（条件①）とその理由（条件②）を話すことができていない。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

○　解答類型０（無解答）の生徒

英語19では、17.0％の生徒が無解答であった。無解答であった要因としては、①かおりの話している内容を理解することができず、何を答えたらよいか理解することができなかった。②かおりの話している内容は理解することができたが、話す内容が思い浮かばなかった。③話す内容は思い浮かんだが、英語の表現が思い浮かばなかったなどの可能性が考えられる。

○IRT バンド別類型割合グラフ



○IRT バンド別類型割合グラフから分かること

・ポイント１について

IRT バンド１に属する生徒の４割以上、IRT バンド２に属する生徒の３割以上が無解答である。①かおりの話している内容を理解することができず、何を答えたらよいか理解することができなかった。②かおりの話している内容は理解することができたが、話す内容が思い浮かばなかった。③話す内容は思い浮かんだが、英語の表現が思い浮かばなかったなどの可能性が考えられるため、生徒の学習状況に応じた指導を行うことが求められる。

また、IRT バンド１、２それぞれに属する生徒の３割以上が誤答である解答類型７に分類されており、学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す際に、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。指導に当たっては、話し手が最も伝えたいことを確認した上で、賛成か反対かなどの立場を明確にさせ、それを「自分の考え」として話すことから指導をしていくことが考えられる。 【p.143「学習指導に当たって」(１)(２)】

・ポイント２について

IRT バンド３、４それぞれに属する生徒の約３割が、誤答である解答類型３に分類されており、学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、自分の考えを話すことができているが、その理由を話すことに課題があると考えられる。解答類型３に分類されている生徒は、何かしらの英語を話してはいるが、内容に矛盾があったり、コミュニケーションに支障をきたす誤りがあったりする。指導に当たっては、表現の仕方が分からなかったり、表現に誤りがあったりする場合には、どのような表現がよりよいか言語面から学級全体で共有したり、言語材料について理解し、練習するための指導を行ったりすることが大切である。

【p.143「学習指導に当たって」(３)】

・ポイント３について

IRT バンド５に属する生徒の約９割は、正答である解答類型１、２に分類されており、相当数の生徒が、学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができていると考えられる。

３．学習指導に当たって

（１）話し手の意見を聞き、要点を捉えさせる

聞いたことを基に自分の考えとその理由を話すことができるようにするためには、話を聞いて要点を捉えることが重要である。話を聞いて要点を捉えるためには、①文章の構成や要点を捉えるための手がかりとなる語句や表現に着目して聞く、②話し手が最も伝えたいことだと判断した根拠を話し合う、などが考えられる。（詳細は英語５の「学習指導に当たって」を参照）

さらに、話を聞く際には、キーワードを書いたり、自分の考えを書き込んだりするなど、必要に応じてメモを取りながら聞くことも考えられる。またメモを学級全体で共有し、複数のメモを比較するなどして、メモを取る際には、どのような点に留意すべきかを取り上げるなどの工夫も考えられる。英語19において、自分の考えを明確にもたせるためには、かおりが最も伝えたいことは “I think we should sleep for 15 minutes after lunch.” であることを捉える必要がある。

（２）話す内容が思い浮かぶように、自分の考えと理由を整理させる

話し手が最も伝えたいこととその理由を確認した上で、生徒が自分の考えをもてるようにすることが大切である。聞き取った内容についてのメモに、賛否などの自分の考えやその理由を書き足したり、それらを線で結んだりするなどして自分の考えを整理できるように指導することが大切である。話の内容と関連させて生徒のことを尋ねたり、話し手の意見に対する生徒の考えを尋ねたりすることで、生徒に自分の考えとその理由を明確にさせることが大切である。

（３）発表を振り返る視点を共有し、自分の考えを再構築する

考えを整理したメモを基にペアで発表し合った後、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた内容になっているかという内容面から振り返り、学級全体で共有することが考えられる。例えば、英語19では、学校で昼休みに寝ることに賛成する理由として、「昼寝することによって午後の学習に集中できる」といった学習に関わる内容、「午後は自分もいつも眠くなる」といった自分の経験などを理由として挙げ、賛成する理由を様々な視点から気付かせることが考えられる。

表現の仕方が分からなかったり、表現に誤りがあったりする場合には、どのような表現がよりよいか言語面から学級全体で共有したり、言語材料について理解し、練習するための指導を行ったりすることも大切である。例えば、英語19では、“It’s a good idea. Afternoon study hard” といった表現を取り上げ、主語を明確にしたり、午後は何が大変なのかを明確にしたりして、“I’m sleepy in the afternoon, so studying in the afternoon is hard.” などの表現を共有することが考えられる。

その後、内容面と言語面から共有した振り返りの視点を参考にして、自分の考えとその理由を再構築し、再度ペアで発表し合う機会を設けることが大切である。

（４）言語活動の例

- 聞いて得た知識や情報のメモを基に、内容を口頭で要約して伝えたり、自分が一番印象に残った内容や興味をもった情報を伝えたりする活動
- 聞いたことについてなぜそのように考えたのか、感じたのか、簡単な理由や根拠、例示などを伝えたり質問したりする活動

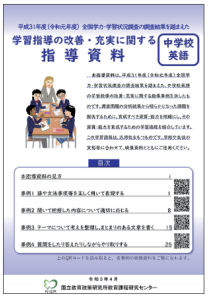
〇関連する指導資料　※画像をクリックするとリンク先にアクセスできます。

・中学校英語指導事例集（令和３年４月）
「聞いて把握した内容について適切に応じる」

映像資料



指導資料



・中学校英語指導事例集（令和７年３月）
「聞いたことを基に自分の考えや理由を話す」

映像資料



指導資料

